Cephalograms / Model Analysis
& Database

WinCeph

Version 7.5

User's Guide

Rise Corporation

Ver.7.53
2004.1

目次

目次 3
第一部　患者管理＆分析マニュアル 13
１．はじめに 14
２．お使いになる前に 14
２－１．同梱品 14
２－２．動作環境 14
２－３．対応スキャナ 14
２－４．*WinCeph* のインストール 15
２－５．データコンバート 16
３．操作手順 17
３－１．*WinCeph* の起動 17
３－２．初期設定 17
３－３．患者登録 18
３－４．患者情報の編集 19
３－５．画像の取込 21
３－５－１．スキャナの選択 21
３－５－２．Lateral 画像の取込 22
３－５－３．ＰＡ画像の取込 22
３－５－４．模型画像の取込 23
３－６．新規分析 24
３－７．Lateral 分析 25
３－７－１．画像のフィルター処理 25
３－７－２．キャリブレーション設定 26
３－７－３．Lateral 基本分析 26
３－７－４．重ね合わせ設定 26
３－７－５．トレースの重ね合わせ 26
３－７－６．側貌への重ね合わせ 26
３－８．PA 分析 27
３－８－１．キャリブレーション設定 27
３－８－２．通常分析 27
３－８－３．対称性分析 27
３－８－４．重ね合わせデータ選択 27
３－９．模型分析 28
３－９－１．キャリブレーション設定 28
３－９－２．模型分析設定 28
３－９－３．歯冠長ポイント配置 28
３－９－４．歯列弓長ポイント配置 28
３－９－５．重ね合わせデータ選択 28
４．「患者管理」 29
４－１．患者リスト 29
４－１－１．終了 29
４－１－２．新規 29
４－１－３．編集 30
４－１－４．削除 38
４－１－５．検索 38
４－１－６．全件表示 39
４－１－７．設定 39
４－１－８．メンテナンス 40
５．「セファロ(Lat.)分析メニュー」リファレンス 46

５－１．ファイル（Ｆ） 46
５－１－１．保存（Ｓ） 46
５－１－２．印刷（Ｐ） 46
５－１－３．印刷プレビュー（Ｖ） 46
５－１－４．プロフィログラムの印刷 46
５－１－５．VTO の印刷 46
５－１－６．重ね合わせ印刷 46
５－１－７．計測結果の一括印刷 46
５－１－８．計測結果のテキスト保存 46
５－１－９．座標値のテキスト保存 46
５－１－１０．画像印刷設定 46
５－１－１１．プロフィロ・VTO 印刷設定 46
５－１－１２．プリンタの設定（R） 46
５－１－１３．Lat.分析の終了（X） 46
５－２．セファロ（Lat.）分析 47
５－２－１．作図法の選択 47
５－２－２．標準データ修正 47
５－２－３．分析画面 49
５－２－４．Chevron 49
５－２－５．Ricketts 5 49
５－２－６．プロフィログラムのカスタマイズ 49
５－２－７．プロフィログラム予測値の作成 49
５－２－８．VTO 予測値の設定 50
５－２－９．原点設定 50
５－２－１０．CO-CR コンバージョン 51
５－２－１１．軟組織 51
５－３．データ設定 51
５－３－１．１つ前の状態に戻す 51
５－３－２．キャリブレーション設定 52
５－３－３．プロフィログラム標準データ選択 52
５－３－４．レントゲン写真の倍率 53
５－３－５．補助線 53
５－３－６．作図の作成 53
５－３－７．ポイントクリア 53
５－３－８．２点指定によるデフォルトポイントの配置 53
５－３－９．大臼歯ポイントの自動配置 53
５－４．重ね合わせ 54
５－４－１．重ね合わせ設定 54
５－４－２．トレース（スプライン）重ね合わせ 55
５－４－３．トレース（二値化）重ね合わせ 56
５－４－４．側貌への重ね合わせ 56
５－４－５．計測値と変化量の表示 58
５－４－６．ＣＤＳ 58
５－５．表示(V) 58
５－５－１．画像 58
５－５－２．ポイント 58
５－５－３．ラベル 58
５－５－４．ポイント説明ウィンドウ 58
５－５－５．Go 点設定ライン 58
５－５－６．Gn 点設定ライン 58
５－５－７．歯の表示 58

５－５－８．Ｘ－Ｙ軸 58
５－５－９．トレース 58
５－５－１０．トレース（二値化） 58
５－５－１１．CDS 58
５－５－１２．CDS（上顎） 58
５－５－１３．CDS（下顎） 58
５－５－１４．ペン入力ライン 59
５－５－１５．作図法の選択 59
５－５－１６．プロフィログラム（患者） 59
５－５－１７．プロフィログラム（標準） 59
５－５－１８．プロフィログラム（予測値） 59
５－５－１９．Ricketts 図 59
５－５－２０．VTO 59
５－５－２１．LAT 分析値 59
５－５－２２．Ricketts の結果 59
５－５－２３．重ね合わせデータ 60
５－５－２４．ズームイン 60
５－５－２５．ズームアウト 60
５－５－２６．表示色・線種設定 60
５－５－２７．ツールバー（T） 60
５－５－２８．ステータス バー（S） 60
５－６．ウィンドウ(W) 60
５－６－１．重ねて表示（C） 60
５－６－２．並べて表示（T） 60
５－６－３．アイコンの整列（A） 60
５－７．画像のフィルター処理 61
６．「セファロ(PA)分析メニュー」リファレンス 62
６－１．ファイル（Ｆ） 62
６－１－１．保存（Ｓ） 62
６－１－２．印刷（Ｐ） 62
６－１－３．印刷プレビュー（Ｖ） 62
６－１－４．計測結果のテキスト保存 62
６－１－５．画像印刷設定 62
６－１－６．プリンタの設定（Ｒ） 62
６－１－７．ＰＡ分析の終了（Ｘ） 62
６－２．セファロ(PA)分析 63
６－２－１．対称性分析設定 63
６－２－２．通常分析 63
６－２－３．対称性分析 63
６－２－４．分析画面 63
６－２－５．対称性計測 63
６－２－６．原点設定 63
６－３．データ設定 64
６－３－１．１つ前の状態に戻す 64
６－３－２．キャリブレーション設定 64
６－３－３．正中基準線の設定 64
６－３－４．レントゲン写真の倍率 64
６－３－５．補助線 65
６－３－６．作図の作成 65
６－３－７．ポイントクリア 65
６－３－８．２点指定によるデフォルトポイントの配置 65

６－４．重ね合わせ 65
６－４－１．重ね合わせ設定 65
６－４－２．トレース（スプライン）重ね合わせ 65
６－４－３．トレース（二値化）重ね合わせ 65
６－４－４．計測値と変化量の表示 65
６－５．表示（V） 66
６－５－１．画像 66
６－５－２．ポイント 66
６－５－３．ラベル 66
６－５－４．正中基準線 66
６－５－５．ポイント説明ウィンドウ 66
６－５－６．トレース 66
６－５－７．トレース（二値化） 66
６－５－８．ペン入力ライン 66
６－５－９．作図法の選択 66
６－５－１０．分析平面 66
６－５－１１．ズームイン 66
６－５－１２．ズームアウト 66
６－５－１３．表示色・線種設定 66
６－５－１４．ツールバー（T） 66
６－５－１５．ステータス バー（S） 66
６－６．ウィンドウ(W) 66
７．「模型分析メニュー」リファレンス 67
７－１．ファイル（F） 67
７－２．模型分析 67
７－２－１．模型分析設定 67
７－２－２．標準データ修正 67
７－２－３．手動入力 68
７－２－４．模型分析 68
７－２－５．A.L.D. 68
７－３．データ設定 68
７－３－１．ポイント配置 68
７－３－２．キャリブレーション設定 68
７－３－３．ポイント追加 68
７－３－４．ポイント削除 68
７－３－５．ポイントクリア 68
７－４．重ね合わせ 69
７－４－１．重ね合わせデータの選択 69
７－４－２．計測値と変化量の表示 69
７－５．表示（V） 70
７－５－１．画像 70
７－５－２．ポイント 70
７－５－３．ラベル 70
７－５－４．ポリゴン表 70
７－５－５．ズームイン 70
７－５－６．ズームアウト 70
７－５－７．表示色・線種設定 70
７－５－８．ツールバー（T） 70
７－５－９．ステータス バー（S） 70
７－６．ウィンドウ(W) 70
８．「ＭＶＴＯメニュー」リファレンス 71

８－１．Ｌａｔ．分析の選択 71
８－２．ファイル（F） 71
８－２－１．保存（Ｓ） 71
８－２－２．印刷（Ｐ） 71
８－２－３．印刷プレビュー（Ｖ） 71
８－２－４．MVTO の終了（X） 71
８－３．表示（V） 71
８－３－１．リケッツの結果 71
８－３－２．ズームフィット 71
８－３－３．ズームイン 71
８－３－４．ズームアウト 72
８－３－５．ツールバー（T） 72
８－３－６．ステータス バー（S） 72
８－４．予測パラメータの設定 72
９．「ＬＡＳメニュー」リファレンス 73
９－１．ＬＡＳ画面説明 73
９－１－１．治療計画 74
９－１－２．固定の問題に関する表 75
９－１－３．患者個人の治療計画と時間表 77
９－２．ファイル（F） 77
９－２－１．保存（Ｓ） 77
９－２－２．印刷（Ｐ） 77
９－２－３．印刷プレビュー（Ｖ） 77
９－２－４．環境設定 78
９－２－５．LAS 分析の終了（X） 78
９－３．表示（V） 78
９－３－１．表示モード 78
９－３－２．ズームイン 78
９－３－３．ズームアウト 78
９－３－４．ツールバー（T） 78
９－３－５．ステータス バー（S） 78
９－４．ツールバーの機能解説 79
１０．「頚椎年齢計測メニュー」リファレンス 80
１０－１．ファイル（F） 80
１０－１－１．保存（Ｓ） 80
１０－１－２．印刷（Ｐ） 80
１０－１－３．印刷プレビュー（Ｖ） 80
１０－１－４．プリンタの設定（Ｒ） 80
１０－１－５．係数設定 80
１０－１－６．頚椎年齢計測の終了（Ｘ） 80
１０－２．ポイント配置 81
１０－３．表示（Ｖ） 81
１０－３－１．サイズ 81
１０－３－２．ポイント説明ウインドウ 81
１０－３－３．ペン入力ライン 81
１０－３－４．ツールバー（T） 81
１０－３－５．ステータス バー（S） 81
１１．「リケッツ重ね合せメニュー」リファレンス 82
１１－１．ファイル（F） 82
１１－１－１．印刷（Ｐ） 82
１１－１－２．印刷プレビュー（Ｖ） 82

１１－１－３．プリンタの設定（R） 82
１１－１－４．リケッツ重ね合せの終了（X） 82
１１－２．設定（E） 82
１１－２－１．原点 82
１１－２－２．線種設定１１－３．表示（V） 82
１１－３．表示（V） 83
１１－３－１．サイズ 83
１１－３－２．ツールバー（T） 83
１１－３－３．ステータス バー（S） 83
１１－４．重ね合せデータ選択 83
１２．「画像処理メニュー」リファレンス 84
１２－１．ファイル（F） 84
１２－１－１．開く(O) 84
１２－１－２．上書き保存(S) 84
１２－１－３．名前を付けて保存(A) 84
１２－１－４．画像を DB に追加 84
１２－１－５．印刷(P) 84
１２－１－６．印刷プレビュー(V) 84
１２－１－７．プリンタの設定(R) 84
１２－１－８．画像参照・変換の終了(X) 84
１２－２．編集(E) 85
１２－２－１．アンドゥ(U) 85
１２－２－２．範囲指定 85
１２－２－３．全領域指定 85
１２－２－４．コピー(C) 85
１２－２－５．トリミング 85
１２－２－６．ペン入力 85
１２－３．画像処理 85
１２－３－１．上下反転 85
１２－３－２．ミラー反転 85
１２－３－３．ネガ・ポジ反転 85
１２－３－４．カラーバランス 85
１２－３－５．明度・コントラスト調整 86
１２－３－６．シャープニング 86
１２－３－７．輪郭抽出 86
１２－３－８．ヒストグラムの平滑化 86
１２－３－９．回転 86
１２－３－１０．変形 87
１２－４．表示(V) 88
１２－４－１．サイズ 88
１２－４－２．ライン 88
１２－４－３．ツール バー(T) 88
１２－４－４．ステータス バー(S) 88
１２－５．ペン入力メニュー 89
１２－５－１．操作 89
１２－５－２．編集 89
１２－５－３．入力モード 89
１２－５－４．ツールバー解説 89
１３．「組み写真メニュー」リファレンス 90
１３－１．組み写真の新規作成・編集 90
１３－２．ファイル（F） 91

１３－２－１．保存(S) 91
１３－２－２．印刷(P) 91
１３－２－３．印刷プレビュー(V) 91
１３－２－４．プリンタの設定(R) 91
１３－２－５．用紙中央に印刷 91
１３－２－６．ページサイズ設定 91
１３－２－７．環境設定 91
１３－２－８．組み写真作成の終了(X) 91
１３－３．テンプレート 92
１３－３－１．テンプレート登録 92
１３－３－２．テンプレート呼出 92
１３－４．編集(E) 93
１３－４－１．患者情報挿入 93
１３－４－２．アイテム挿入 93
１３－４－３．アイテム削除 93
１３－５．サイズ・位置統一 93
１３－６．表示(V) 94
１３－６－１．サイズ 94
１３－６－２．グリッド表示 94
１３－６－３．グリッド設定 94
１３－６－４．ガイドライン表示 94
１３－６－５．ツール バー(T) 94
１３－６－６．ツール バー(サイズ)(M) 94
１３－６－７．ステータス バー(S) 94
１３－７．情報表示バー 95
１３－７－１．撮影日 95
１３－７－２．作成日 95
１３－７－３．コメント 95
１３－７－４．表示サイズを指定します。 95
１３－８．画像サイズ・オフセット位置の調整 95
１３－９．組み写真の表示・印刷 96
１４．「画像計測メニュー」リファレンス 97
１４－１．ファイル(F) 97
１４－１－１．開く(O) 97
１４－１－２．印刷(P) 97
１４－１－３．印刷プレビュー(V) 97
１４－１－４．キャリブレーション設定(C) 97
１４－１－５．プリンタの設定(R) 97
１４－１－６．２次元計測の終了(X) 97
１４－２．計測(M) 97
１４－２－１．計測の取り消し(U) 97
１４－２－２．距離計測(L) 97
１４－２－３．角度計測(A) 97
１４－２－４．面積計測(A) 97
１４－２－５．削除(D) 97
１４－２－６．編集(E) 97
１４－３．表示(V) 98
１４－３－１．サイズ 98
１４－３－２．ステータス バー(S) 98
１４－４．ツールバー解説 98
１５．「ブラケットシミュレーション」リファレンス 99

１５－１．起動画面 99
１５－２．クリッピング 100
１５－３．ブラケットの貼付け 101
１５－４．ブラケットの画像処理 102
１５－５．マルチ表示 103
１５－６．印刷 105
１５－７．画像保存 106
１５－８．その他 106
１５－９．ツールバー／メニューリファレンス 107
１６．「画像キャプチャーメニュー」リファレンス 109
１６－１．キャプチャープログラムの起動 109
１６－２．ファイル（F） 109
１６－２－１．新規作成(N) 109
１６－２－２．開く(O) 109
１６－２－３．上書き保存(S) 109
１６－２－４．名前を付けて保存(A) 109
１６－２－５．画像を DB に追加 109
１６－２－６．印刷(P) 109
１６－２－７．印刷プレビュー(V) 109
１６－２－８．プリンタの設定(R) 109
１６－２－９．SCShoot の終了(X) 109
１６－３．編集(E) 110
１６－３－１．コピー(C) 110
１６－３－２．貼り付け(P) 110
１６－３－３．選択範囲クリア 110
１６－３－４．トリミング 110
１６－４．取り込み 110
１６－５．表示(V) 110
１６－５－１．ツール バー(T) 110
１６－５－２．ステータス バー(S) 110
１７．補足説明 111
１７－１．各ポイントの解説 111
１７－１－１．Lateral 分析ポイント 111
１７－１－２．PA 分析ポイント 113
１７－１－３．頚椎年齢計測ポイント 114
１７－２．各計測項目の解説 115
１７－２－１．線分析 115
１７－２－２．角度分析 115
１７－２－３．Ricketts & McNamara 116
１７－２－４．Open Bite 116
１７－２－５．Steiner & Tweed 117
１７－２－６．Northwestern 117
１７－２－７．Kim 118
１７－２－８．Jarabak 119
１７－２－９．Others 120
１７－２－１０．PA(Ricketts) 121
１７－２－１１．模型分析 121
１７－２－１２．模型分析（Arch length discrepancy） 122
１７－３．分析定義の選択 123
１７－３－１．分析定義の設定 124
１７－３－２．オリジナル分析設定 126

１７－４．小児歯科学会標準値の使用 127
１８．ＷｉｎＣｅｐｈ 参考文献 128
第二部　報告書作成マニュアル 130
1. 報告書作成手順 131
1-1. 白紙からの作成 131
1-1-1. 選択患者の変更 132
1-1-2. 作成開始 133
1-1-3. ページ設定 133
1-1-4. アイテムの貼り付け 134
1-1-5. 貼りつけたアイテムの編集 137
1-1-6. ページ追加・削除・切り替え 137
1-1-7. 報告書の拡大・縮小表示 137
1-1-8. 報告書の保存と印刷 137
1-1-9. 報告書データでテンプレートとしての保存 138
1-2. テンプレートからの作成 139
1-2-1. 起動時のテンプレート選択 139
1-2-2. 報告書作成途中でのテンプレート変更 139
2. 設定 140
2-1. テーブル設定 140
2-1-1. タイトル 140
2-1-2. 宛先 141
2-1-3. 署名 142
2-2. 保存フォルダ 143
3. メニュー・リファレンス 144
3-1. メニュー 144
3-1-1. ファイル 144
3-1-2. 編集 144
3-1-3. 表示 144
3-1-4. 挿入 145
3-1-5. サイズ・位置統一 145
3-1-6. 設定 145
3-1-7. ヘルプ 145
3-2. ツールバー 146
3-3. 画像サイズ・オフセット位置の調整 147
3-4. アイテム情報 147
サポート依頼書 150

第一部　患者管理&分析マニュアル

1．はじめに

このたびはセファロ分析プログラム *WinCeph* をお買い上げいただき、誠に有難うございます。*WinCeph* は今日まで数多くの先生方にお使いいただきながら幾度もプログラムの改良を重ねてこのたびバージョン 7.5 の発売に至っております。
本プログラムはセファロを画像としてスキャナでそのまま取込み、画像処理によって容易に計測点の設定ができますので、従来のようなトレース作業は不要です。
したがって、暗室もデジタイザーも必要ありません。数分ですべての計測結果やプロフィログラムを得ることができます。

当プログラムは、先生方のご要望にお応えするためのスペックを追求するため、予告なしに仕様等を変更することがあります。予めご了承ください。

このマニュアルは Windows の操作方法について基本的な知識をもっている方を対象として記述しております。
Windows の操作方法について詳しくはご使用の Windows のソフトウェアに添付されているマニュアルをお読みください。

2．お使いになる前に

2－1．同梱品

お買い求めいただきました *WinCeph* には以下のものが同梱されております。

- インストール用 CD　　1 枚
- 取扱説明書（本誌　　1 冊
- 使用許諾契約書　　1 枚

2－2．動作環境

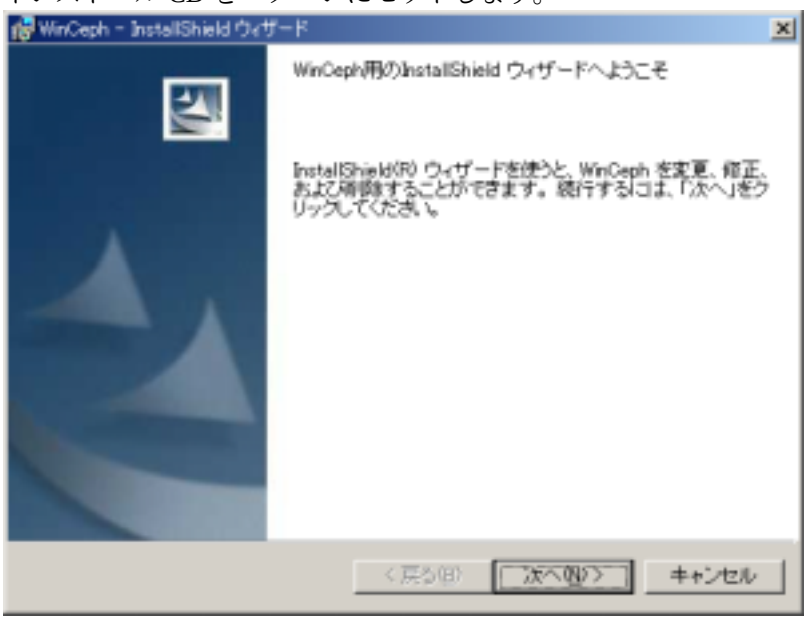
OS ……	Windows98/Me/XP，Windows2000
CPU……	Celeron 333 MH z 以上
メモリ ……	128MB 以上（128MB 以上を推奨）
ディスク容量……	*WinCeph* をインストールするためには 7MB 以上の空容量が必要です。 他にデータベースと画像を格納する為の領域が必要です。
スキャナ ……	透過原稿(A4 以上)読取り可能なイメージ・スキャナ
グラフィック ……	High Color(16 ﾋﾞｯﾄ) 以上が表示可能

2－3．対応スキャナ

スキャナは、TWAIN 規格に対応した機種を利用することができます。TWAIN 規格に対応したスキャナが無くても BMP、JPEG 等の画像形式のファイルから画像の取込みが可能です。
対応スキャナの個別機種名に関しては、弊社またはスキャナメーカーにお問い合わせください。

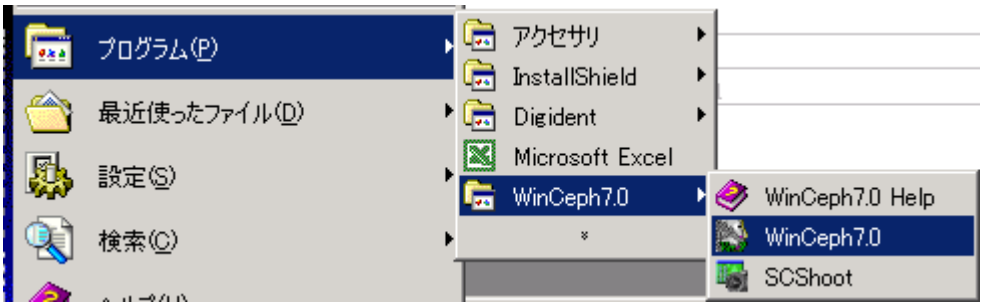
２－４．*WinCeph* のインストール

■まず Windows を起動します。
■*WinCeph* インストール CD をパソコンにセットします。



■インストール画面が表示されるので、画面の指示にしたがってインストールを進めてください。インストール画面が表示されない場合はインストール CD 内の Setup.exe を実行してください。

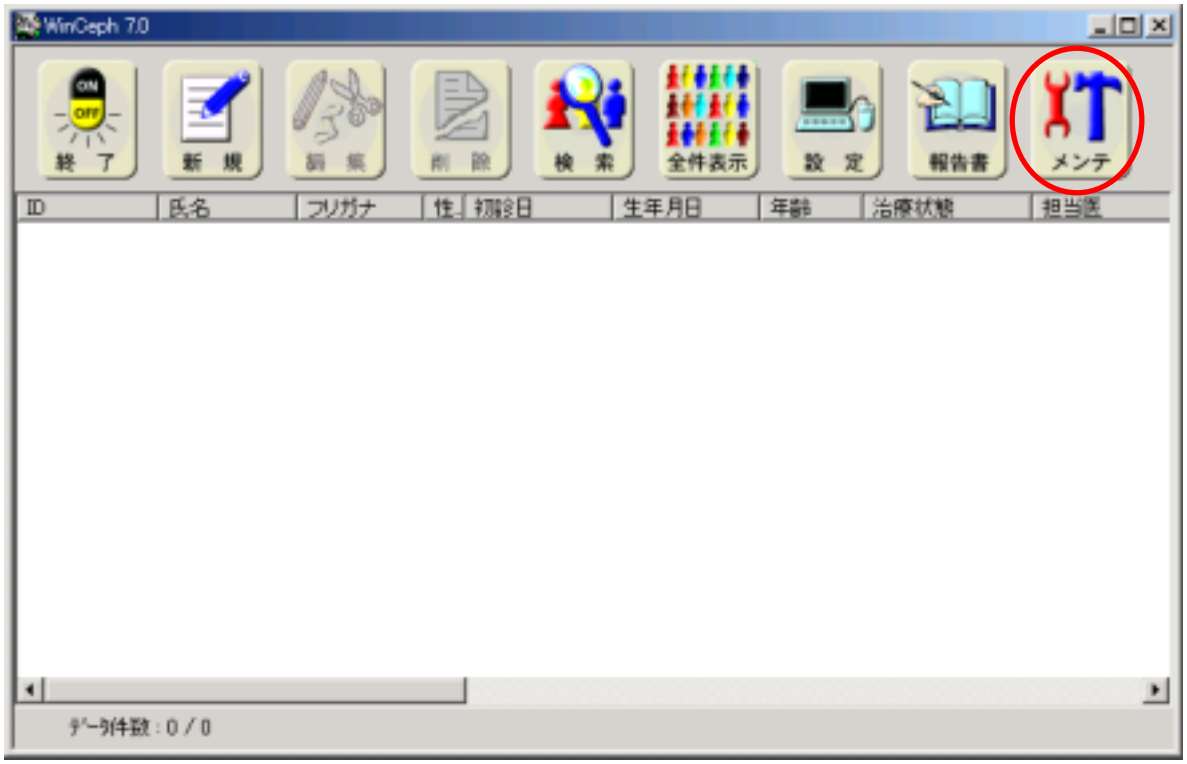
■インストールが終了すると、デスクトップとプログラムフォルダにアイコンが登録されます。



以上で、インストールは完了です。

２－５．データコンバート

旧バージョンの *WinCeph* データを使用する場合はデータコンバートが必要になります。



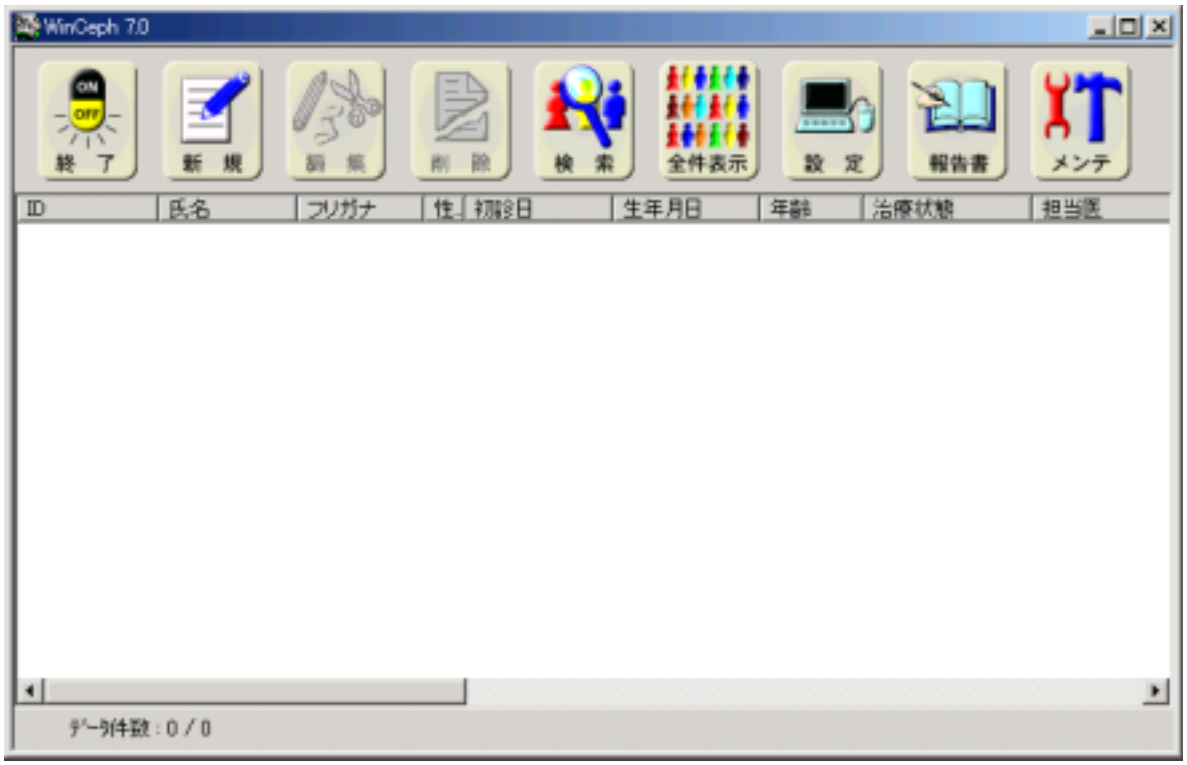
“メンテ”をクリックしデータコンバートを行ってください。
P.31 参照

注）データベースの格納先をデフォルトから変更する場合はコンバートの前に行ってください。
P.26 参照

３．操作手順

３－１．*WinCeph* の起動

Windows タスクバーの「スタート」メニューを開き「プログラム」メニューから「*WinCeph* 7.0」グループの「*WinCeph* 7.5」を選択します。
または、デスクトップの「*WinCeph* 7.5」をダブルクリックします。



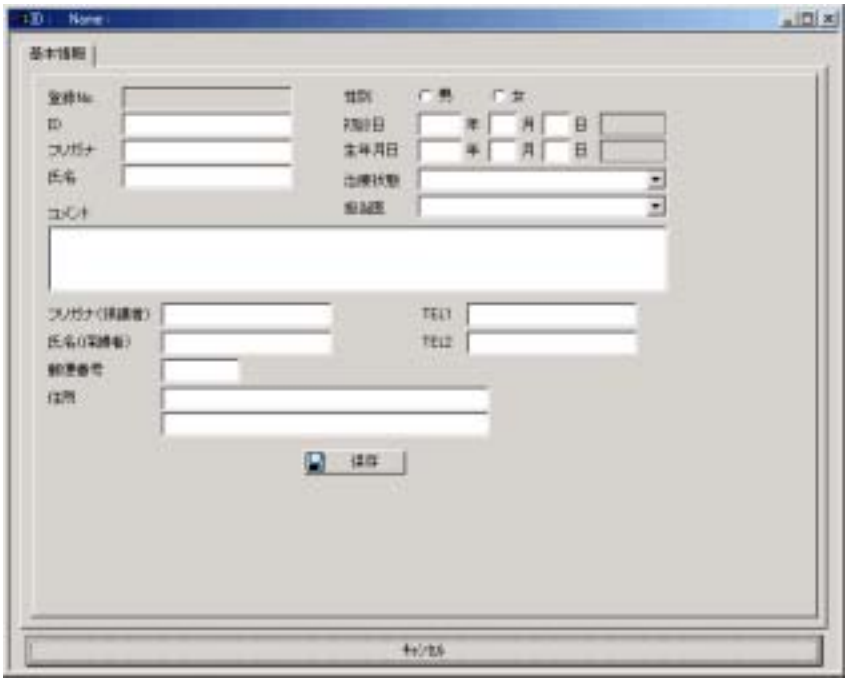
WinCeph の初期画面が表示されます。

３－２．初期設定

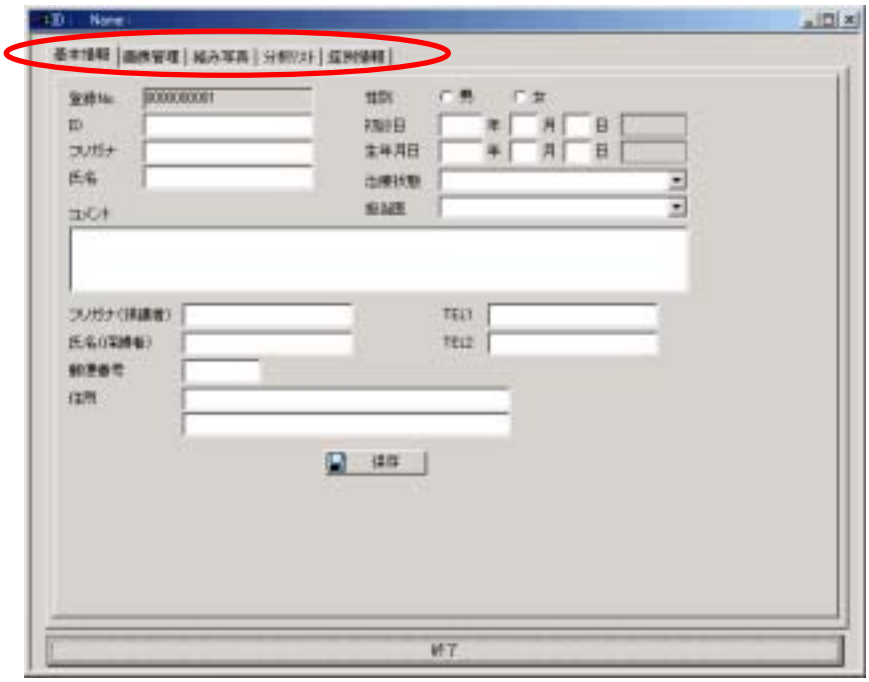
“設定”をクリックし、データベースの格納場所・画像格納場所の指定を行います。
（４－１－７）参照
＊データベースファイル格納フォルダ・画像ファイル格納フォルダは初期値としてプログラムインストールフォルダの下に作られます。
画像格納場所は大きなディスク容量を必要とするので、ディスク容量に十分注意して運用してください。またはMOドライブ等を指定し、グループまたは患者毎にMOディスクを交換すると便利です。

3－3．患者登録

“ 新規 ”をクリックして患者の基本情報入力を行い“ 保存 ”ボタンを押してください。

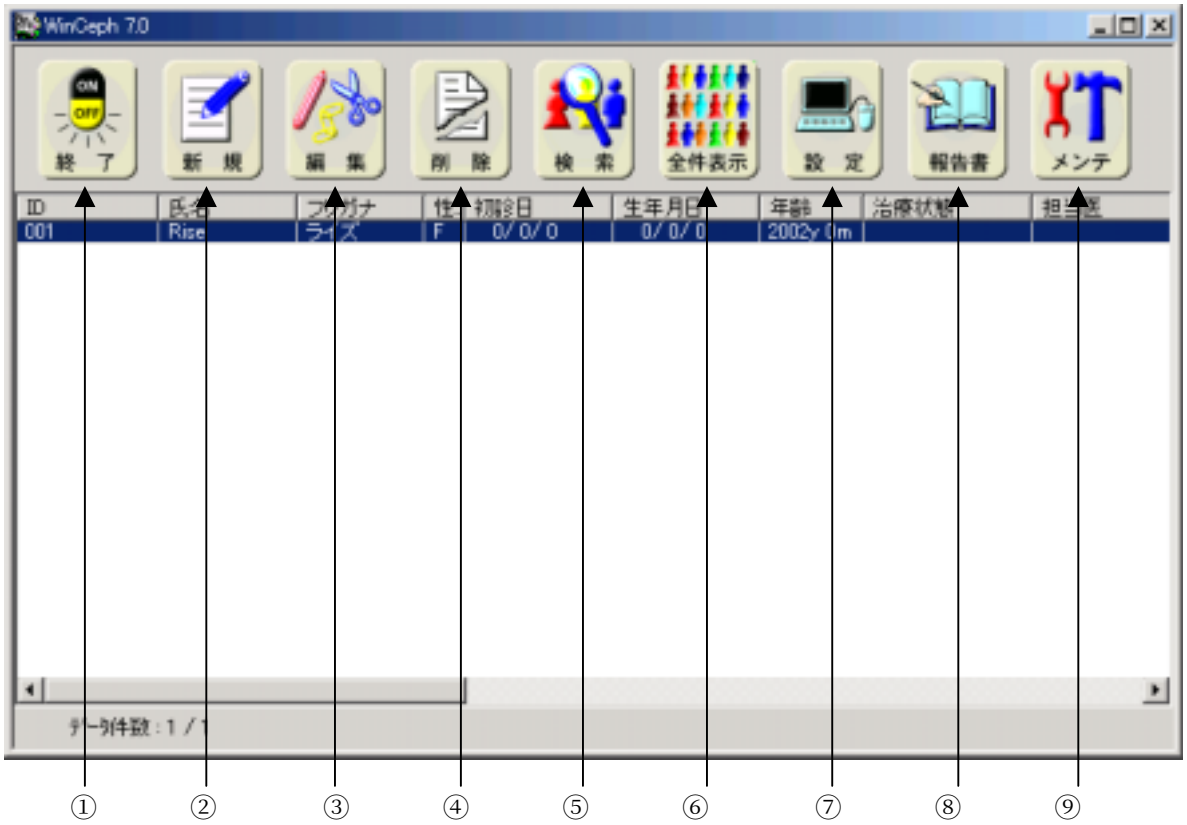


患者の基本情報がデータベースに登録され“ 画像管理 ”・“ 組み写真 ”・“ 分析リスト ”・ “ 症例情報 ”のタグが表示されます。



３－４．患者情報の編集

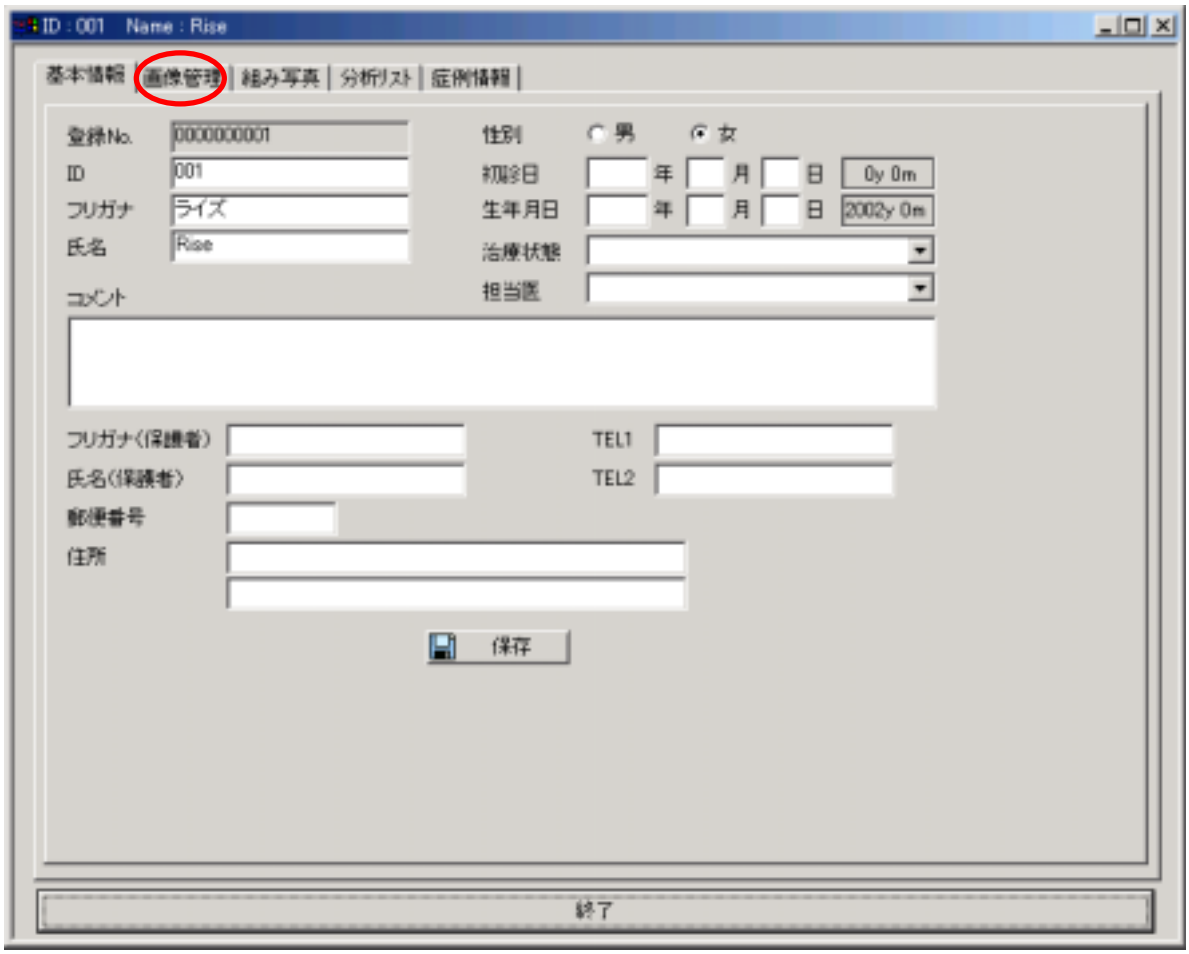
データベースに患者の情報が登録されると *WinCeph* の起動後の画面は以下の通り患者一覧が表示されます。



①“ 終了 ”ボタン ――― *WinCeph* を終了します。
②“ 新規 ”ボタン ――― 「３－３．患者登録」参照
③“ 編集 ”ボタン ――― 患者の基本情報の変更や画像の取込を行ないます。
④“ 削除 ”ボタン ――― 画像を含めた全ての患者情報を削除します。
⑤“ 検索 ”ボタン ――― 条件を設定して患者を検索します。
⑥“ 全件表示 ”ボタン ―― 全ての患者を表示します。
⑦“ 設定 ”ボタン ――― 「３－２．初期設定」参照
⑧“ 報告書 ”ボタン ――― 報告書の作成を行ないます。
⑨“ メンテ ”ボタン ――― バックアップ・リストア等のメンテナンスと患者データの抽出・取込みを行ないます。

リスト表示されている患者を選択して“ 編集 ”ボタンをクリックしてください。

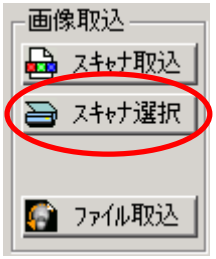
患者の基本情報が表示されます。ここで“画像管理”タグをクリックしてください。



３－５．画像の取込

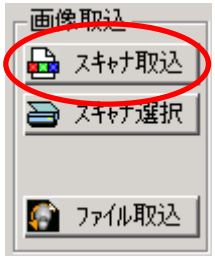
３－５－１．スキャナの選択

“スキャナ選択”ボタンをクリックして接続されているスキャナのドライバを選択してください。



３－５－２．Lateral 画像の取込

セファロ画像（Lateral）をスキャナにセットして“スキャナ取込”ボタンをクリックしてください。＊ここではｴﾌﾟｿﾝの GT-9600 を使用して一連の取込を行います。



取込みの条件設定としては以下の通りです。必要に合わせて設定を変更してください。

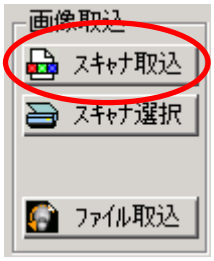
原稿種（D）	透過原稿ﾕﾆｯﾄ-ﾎﾟｼﾞﾌｨﾙﾑ
ｲﾒｰｼﾞﾀｲﾌﾟ	8ﾋﾞｯﾄｸﾞﾚｰ（標準）
解像度	100

注）頚椎年齢を測定する場合は解像度 200dpi 以上を推奨します。

３－５－３．ＰＡ画像の取込

Lateral 画像の取込と同じようにＰＡの画像を取込んでください。

３－５－４．模型画像の取込

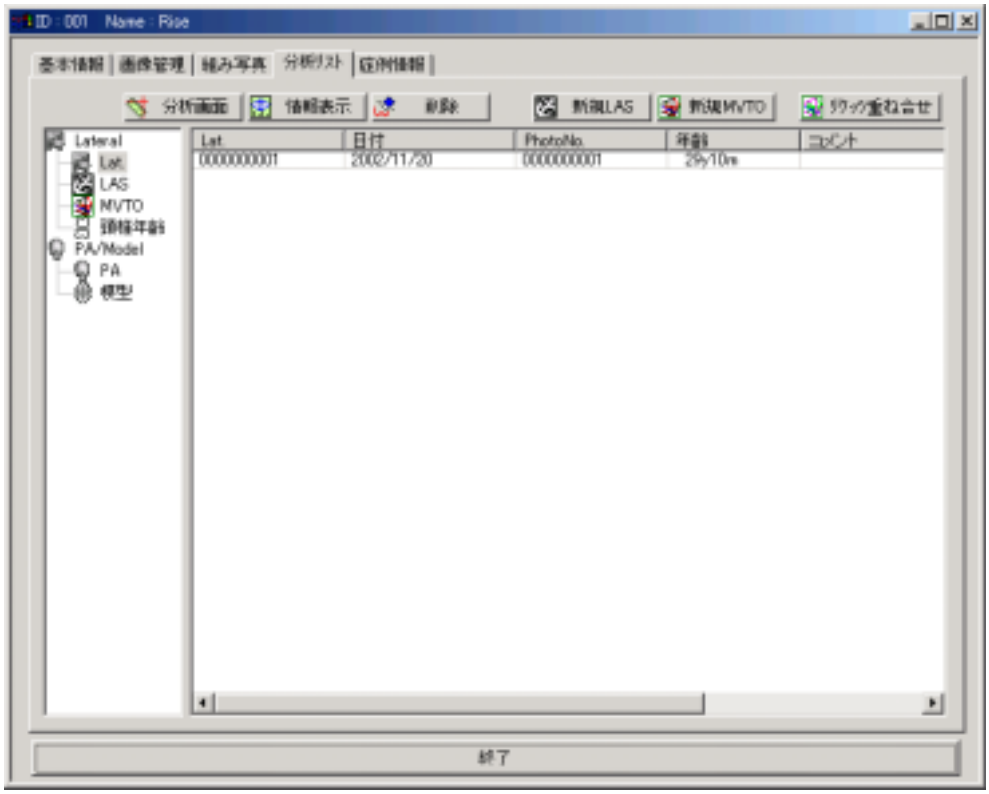


取込みの条件設定としては以下の通りです。スキャナのカバーを開けたままで取込んでください。

原稿種（D）	原稿台
ｲﾒｰｼﾞﾀｲﾌﾟ	8ﾋﾞｯﾄｸﾞﾚｰ（標準）
解像度	100

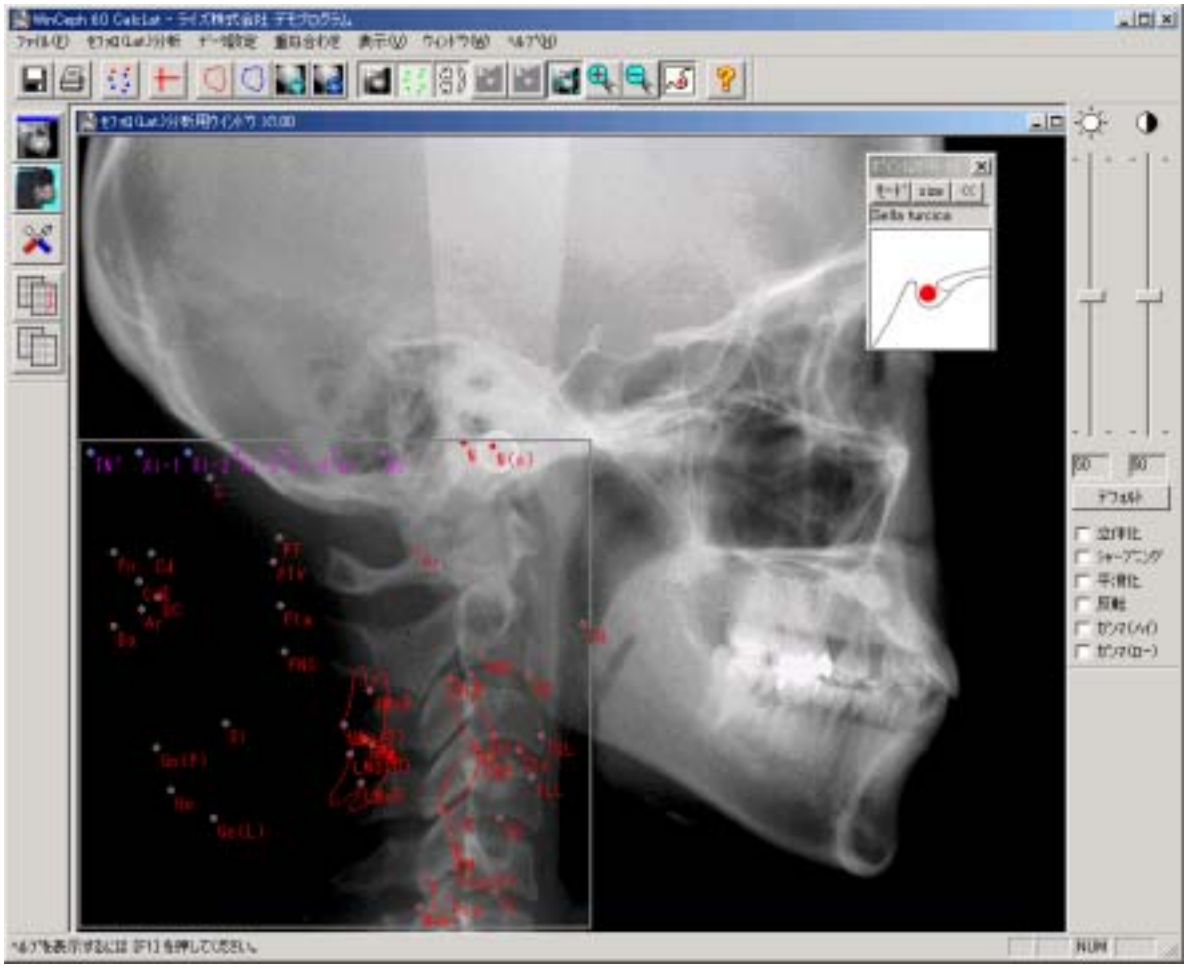
3－6．新規分析

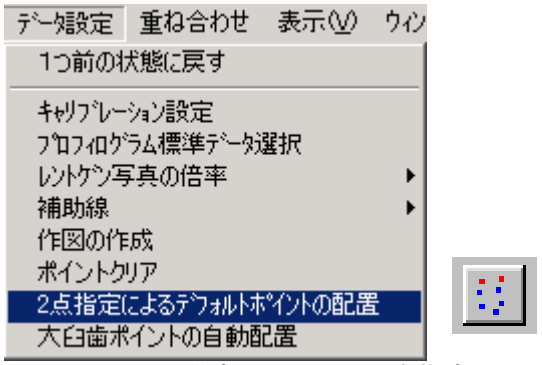
分析する画像を選択して新規分析の“ Lateral ”・“ PA ”・“ 模型 ”・“ 頚椎年齢 ”ボタンをクリックしてください。分析を終了してから“ 分析リスト ”タグをクリックすると以下の通り分析リストに登録されます。



３－７．Lateral 分析

新規分析を実行すると、以下のような Lateral 分析の初期画面が表示されます。





メニューバーの“ データ設定 ”――＞“ 2 点指定によるデフォルトポイントの配置 ”を利用するとポイントの配置が楽に行えます。

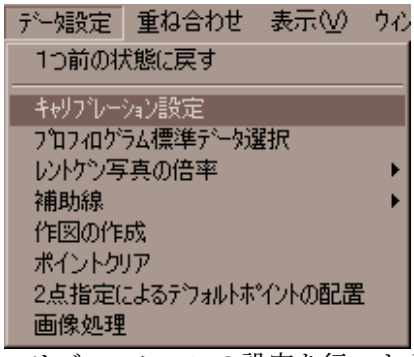
３－７－１．画像のフィルター処理

分析画面の右側に表示されているバーを移動させると画像の明るさ（左）とコントラスト（右）の調整が行えます。

その下の各種フィルターをチェックすると、それぞれのフィルター処理が画像に加えられます。

バーを中央（50）に戻してフィルターのチェックを外せば原画に戻ります。

３－７－２．キャリブレーション設定

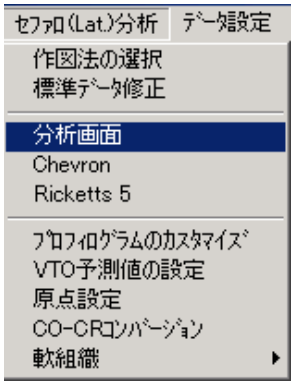


キャリブレーションの設定を行います。最初の設定時に定規をスキャナで読込み解像度に合わせたキャリブレーションを登録すると、次からは自動で最後に設定された値を使用します。５－３－２参照

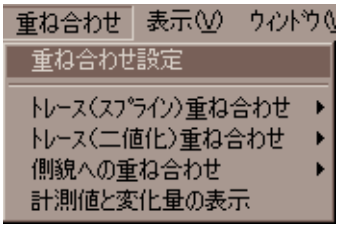
このキャリブレーション設定がきちんと行われないと、距離計測が正常に出来ません。

３－７－３．Lateral 基本分析

ポイントをマウスドラッグで全て配置したら、分析画面を選択し、計測結果の表示を行います。



３－７－４．重ね合わせ設定



作図（プロフィログラム等）と計測変化量の表示で重ね合わせを行うデータの選択を行います。５－４－１参照

各作図の表示選択を行ないます。

各分析の計測値と変化量の表示を行います。５－４－５　参照

３－７－５．トレースの重ね合わせ

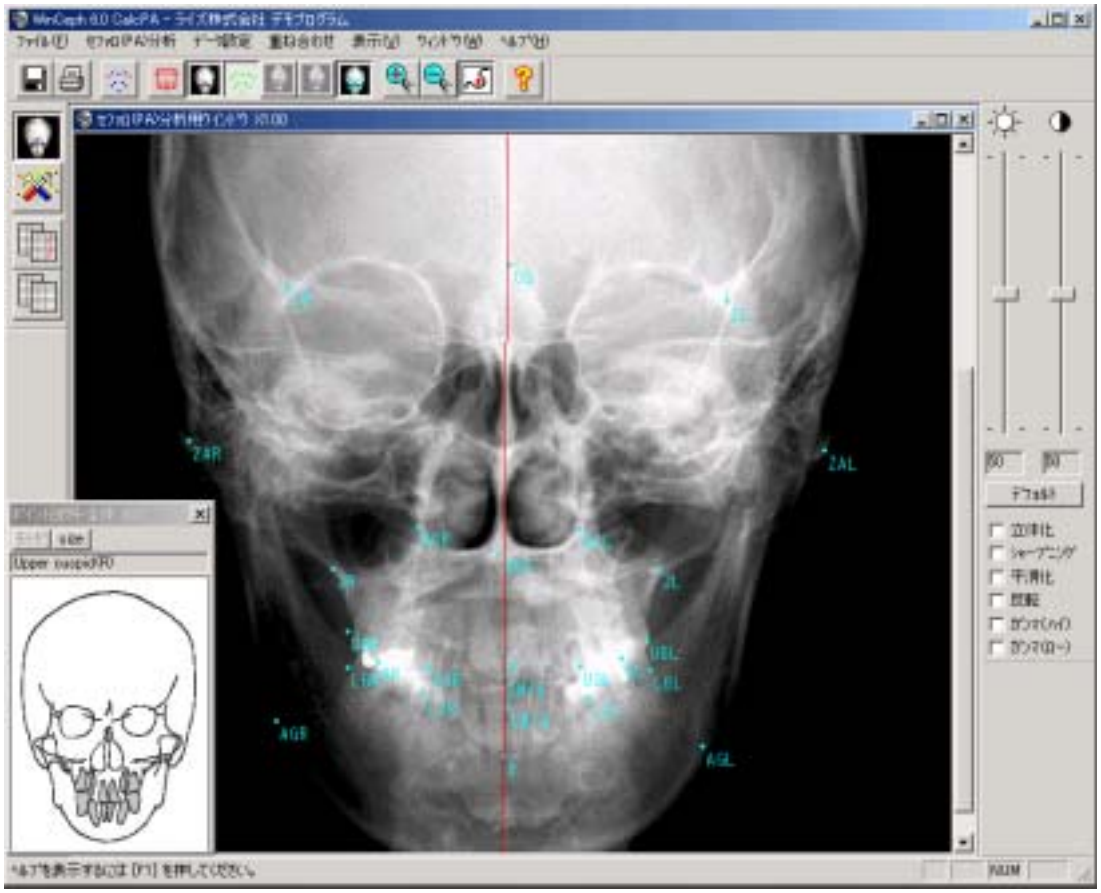
Lateral 分析画像にトレースを重ね合せます。重ね合せの方法として、スプライン重ね合わせ（５－４－２参照）と二値化重ね合わせ（５－４－３参照）があります。

３－７－６．側貌への重ね合わせ

側貌写真上に位置、角度、大きさを任意指定して各作図を表示します。

３－８．PA 分析

PA の新規分析を行なうと、以下の画面が表示されます。



３－８－１．キャリブレーション設定

キャリブレーション設定を行います。最初の設定時にキャリブレーションの登録を行うと、次からは自動で最後に設定された値を使用します。５－３－２　参照

このキャリブレーション設定がきちんと行われないと、距離計測が正常に出来ません。

３－８－２．通常分析

通常分析ポイントの配置と計測結果の表示・印刷を行います。

６－２　参照

３－８－３．対称性分析

対称性分析の設定、ポイント配置と計測結果の表示・印刷を行います。

６－２　参照

３－８－４．重ね合わせデータ選択

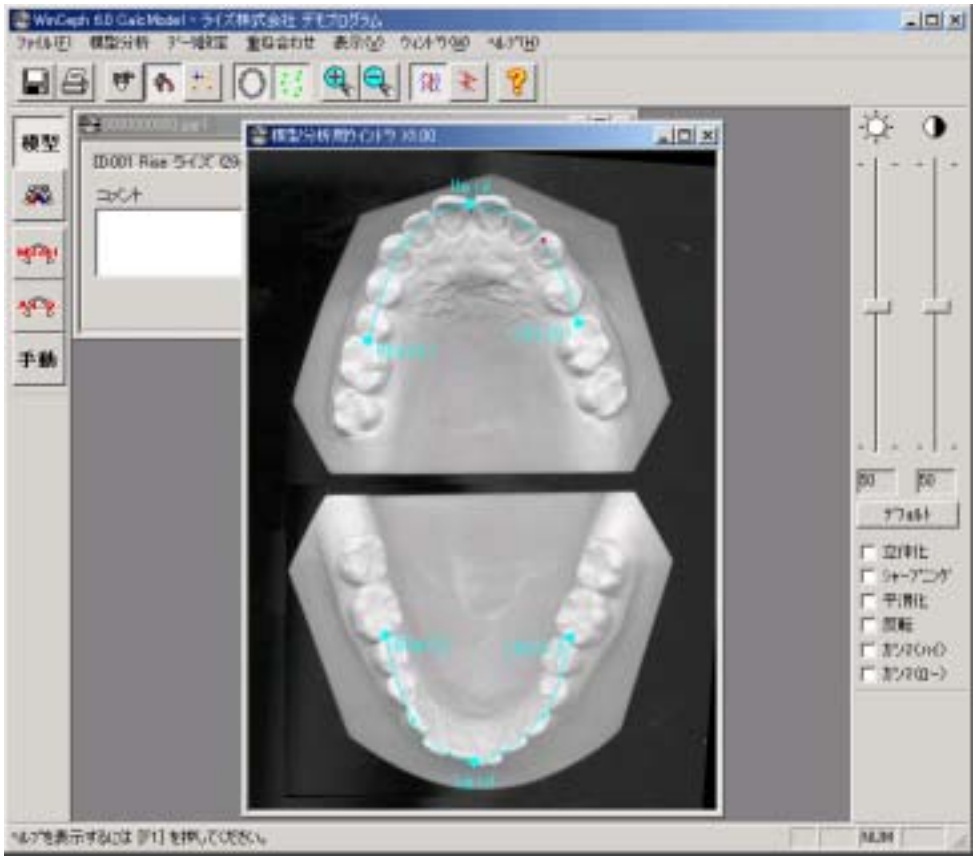
作図と計測値変化量の表示で重ね合わせを行うデータの選択を行います。

６－４－１　参照

各分析の計測値と変化量の表示を行います。６－４－４　参照

３－９．模型分析

模型の新規分析を行うと、以下の画面が表示されます。



３－９－１．キャリブレーション設定

キャリブレーション設定を行います。最初の設定時にキャリブレーションの登録を行なうと、次からは自動で最後に設定された値を使用します。５－３－２　参照

このキャリブレーション設定がきちんと行われないと、距離計測が正常に出来ません。

３－９－２．模型分析設定

分析データ毎に歯の有り無し等の設定を行ないます。７－２－１　参照

３－９－３．歯冠長ポイント配置

歯冠長計測のためのポイント配置を行ないます。ポイントの配置は、まず配置したい歯をマウスドラッグで選択・移動した後に歯のそれぞれのポイントをマウスドラッグで移動します。７－３－１　参照

３－９－４．歯列弓長ポイント配置

歯列弓長計測のためのポイント配置を行ないます。ポイントの配置は、特徴点にポイントを追加または移動することで行ないます。７－３　参照

３－９－５．重ね合わせデータ選択

計測値変化量の表示で重ね合わせを行なうデータの選択を行ないます。

７－４－１　参照

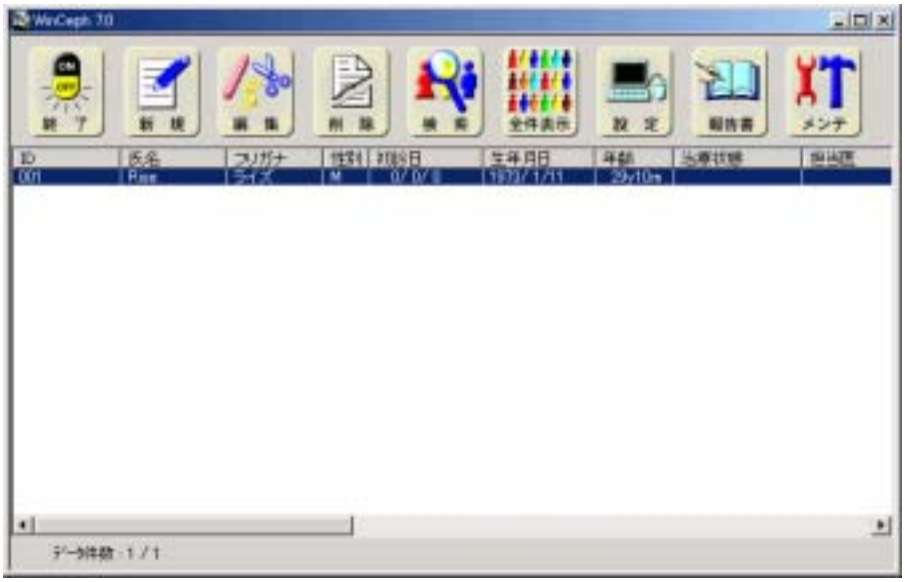
計測値と変化量の表示を行ないます。７－４－２　参照

４．「患者管理」

ここでは、患者管理と各種設定の説明を行ないます。

４－１．患者リスト

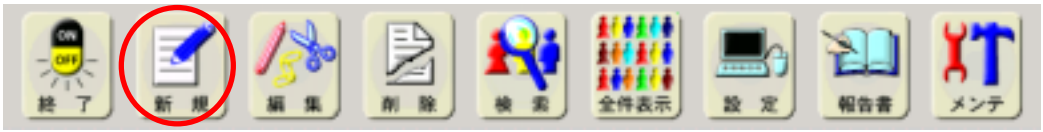
登録されている患者のリストが表示されます。



４－１－１．終了

アプリケーションを終了します。

４－１－２．新規



患者を新規に登録します。

ID……半角２０文字以内　　フリガナ……半角２０文字以内
氏名……半角２０文字以内　　初診日……西暦で入力
生年月日……西暦で入力
治療状態……治療状態テーブルより選択

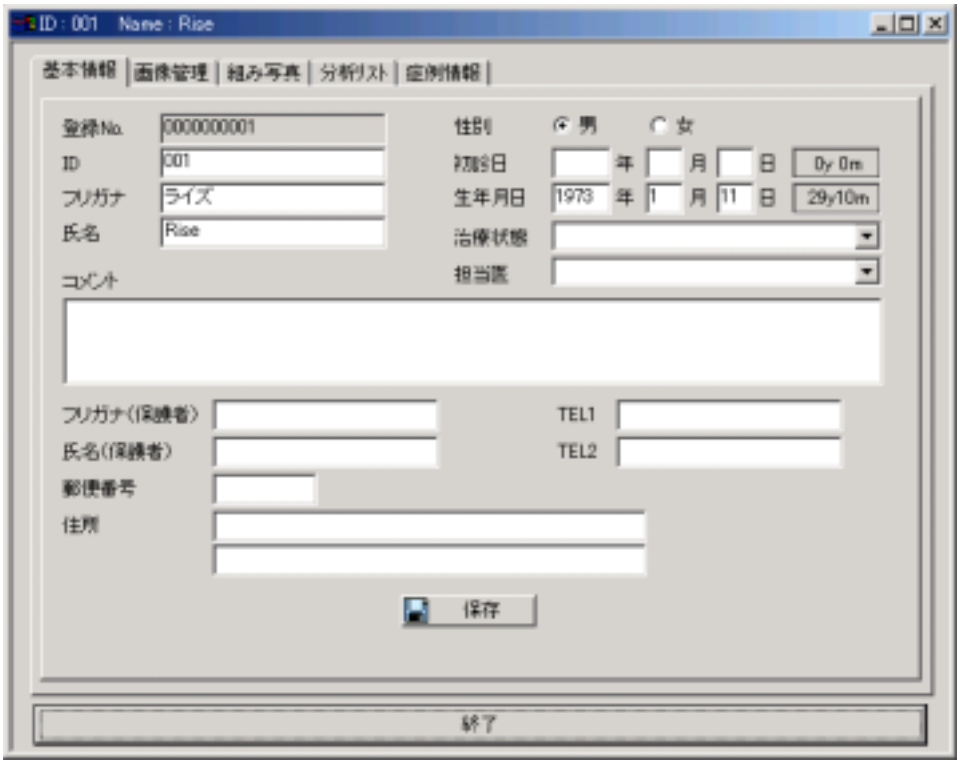
担当医……担当医テーブルより選択
コメント……半角２５５文字以内
フリガナ（保護者）…半角２０文字以内
氏名（保護者）……半角２０文字以内
郵便番号…半角１０文字以内
住所……それぞれ半角４０文字以内
TEL1……半角２０文字以内
TEL2……半角２０文字以内

保存……入力された患者情報を登録します。
キャンセル……患者の新規登録を取り消します。

４－１－３．編集

基本情報、画像管理、組み写真、分析リスト、症例情報の各タグを切り替えて表示する情報を選択します。

基本情報……登録された患者情報を表示・編集します。



保存……変更された患者情報を更新します。

画像管理……患者毎に登録された画像の参照、画像の新規取込・編集、

新規分析を行います。

検索条件……撮影日、Type のリストで選択されている項目に一致する画像リストが得られます。（撮影日、Type それぞれチェックすることで検索条件が有効になります。）

再検索……変更された検索条件で検索し直します。

削除……選択されている画像を削除します。

画像情報……選択されている画像の情報を変更します。（複数選択されている場合は選択されている全ての画像情報が更新されます。）

画像処理…選択されている画像にコントラスト調節やネガ・ポジ反転等の画像処理を行ないます。（画像が複数選択されている場合は行なえません。）　１２章参照

新規分析……画像が１枚のみ選択されている場合に、選択画像に対して“Lateral、PA、模型、頚椎”の新規分析と画像計測、ブラケットシミュレーションを行います。
それぞれ、５章、６章、７章、１０章、１４章、１５章参照

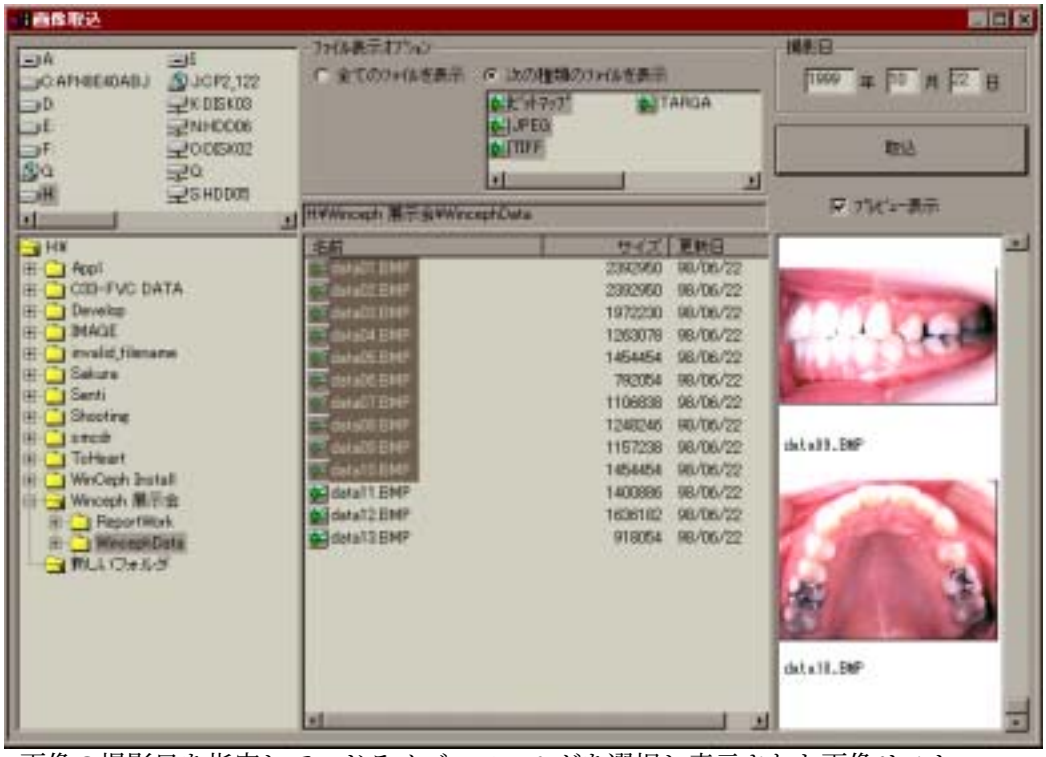
画像複製……選択中の画像を複製します。

画像取込

スキャナ取込……スキャナ（TWAIN 対応）から画像を取込みます。
スキャナの取り扱いは、スキャナ付属のマニュアルを参照して下さい。

スキャナ選択……現在接続されているスキャナを選択します。

ファイル取込……ファイルから画像を取込みます。

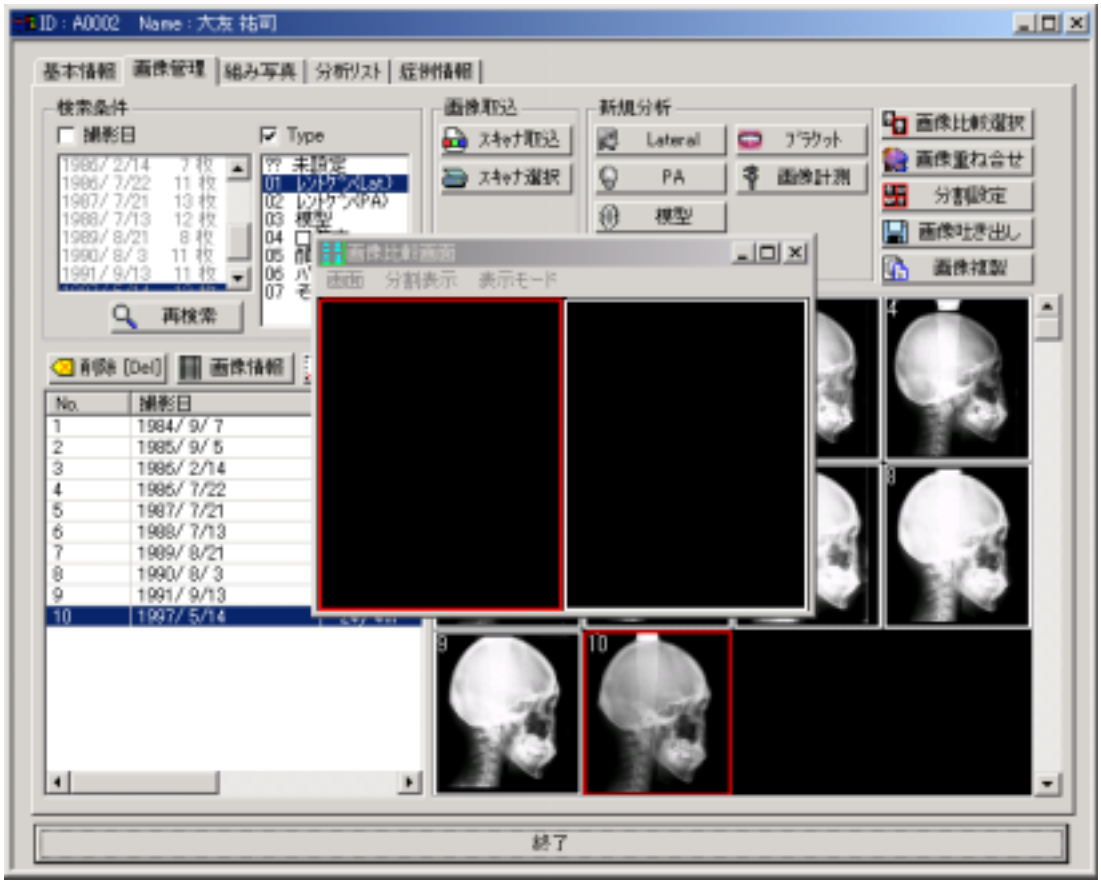


画像の撮影日を指定して、ドライブ、フォルダを選択し表示された画像リストより取込みたい画像を選択し、「取込」ボタンを押します。

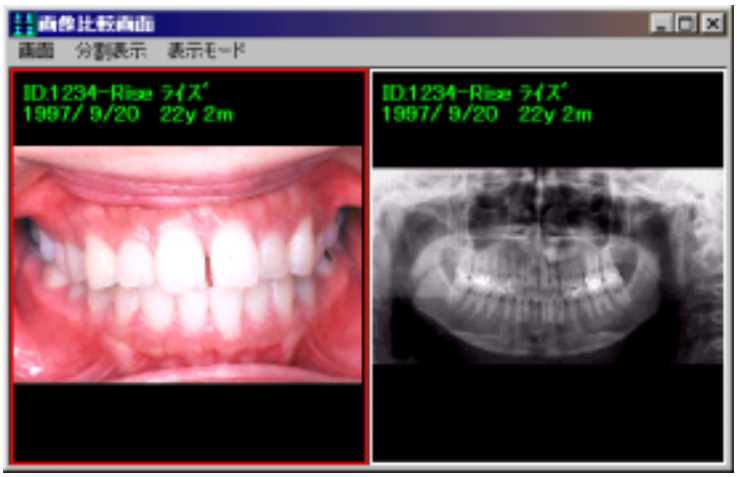
選択中の画像のプレビュー表示が可能です。

取込みをキャンセルするときは、右上の×ボタンで取込画面を閉じます。

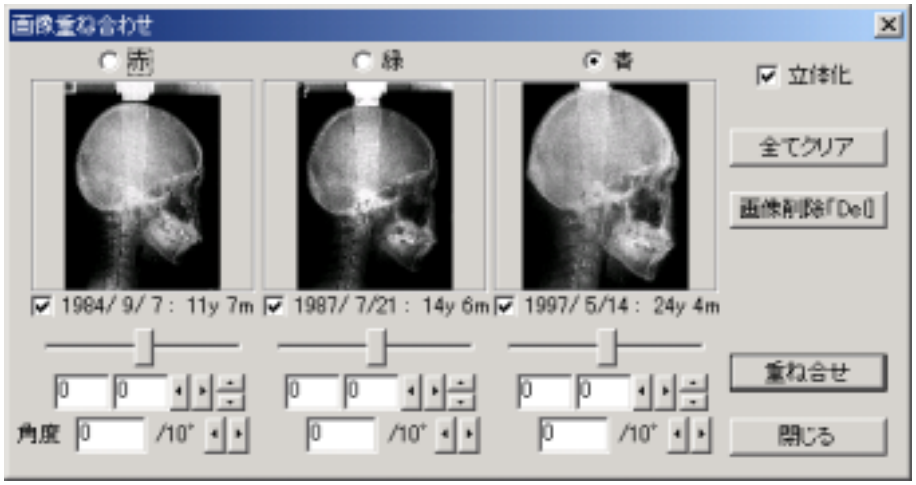
画像比較選択……任意の画像を選択し、比較します。



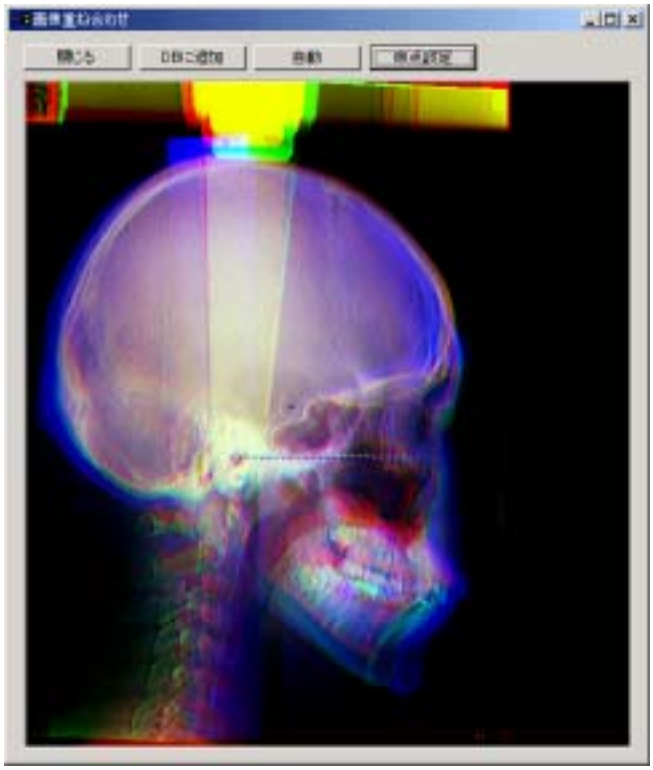
画面上に比較画像用のウィンドウが表示されます。
画像管理画面のサムネイル表示されている画像中のダブルクリックされた画像がこの画像比較画面で選択されている枠内に張り付きます。



画像重ね合せ……レントゲン画像の重ね合せ（最大３枚）を行ないます。



赤、緑、青の３つの領域をそれぞれ選択し画像管理画面のサムネイル表示されている画像からダブルクリックで任意の画像を貼り付けます。
右上の立体化にチェックをつけると合成画像に立体化フィルターが掛かります。
それぞれの画像下のチェックボックスで表示の ON/OFF を指定できます。
その下のスライダーを左右に移動すると重ね合せ時の色の濃さを調整できます。
その下で重ね合せ位置と角度の指定が行なえます。
「全てクリア」ボタンをクリックすると初期状態に戻ります。
「画像削除」ボタンクリックで選択画像を重ね合せ選択から取り除きます。
「重ね合せ」ボタンをクリックすると合成画像を表示します。



「ＤＢに追加」…合成画像をデータベースに登録します。

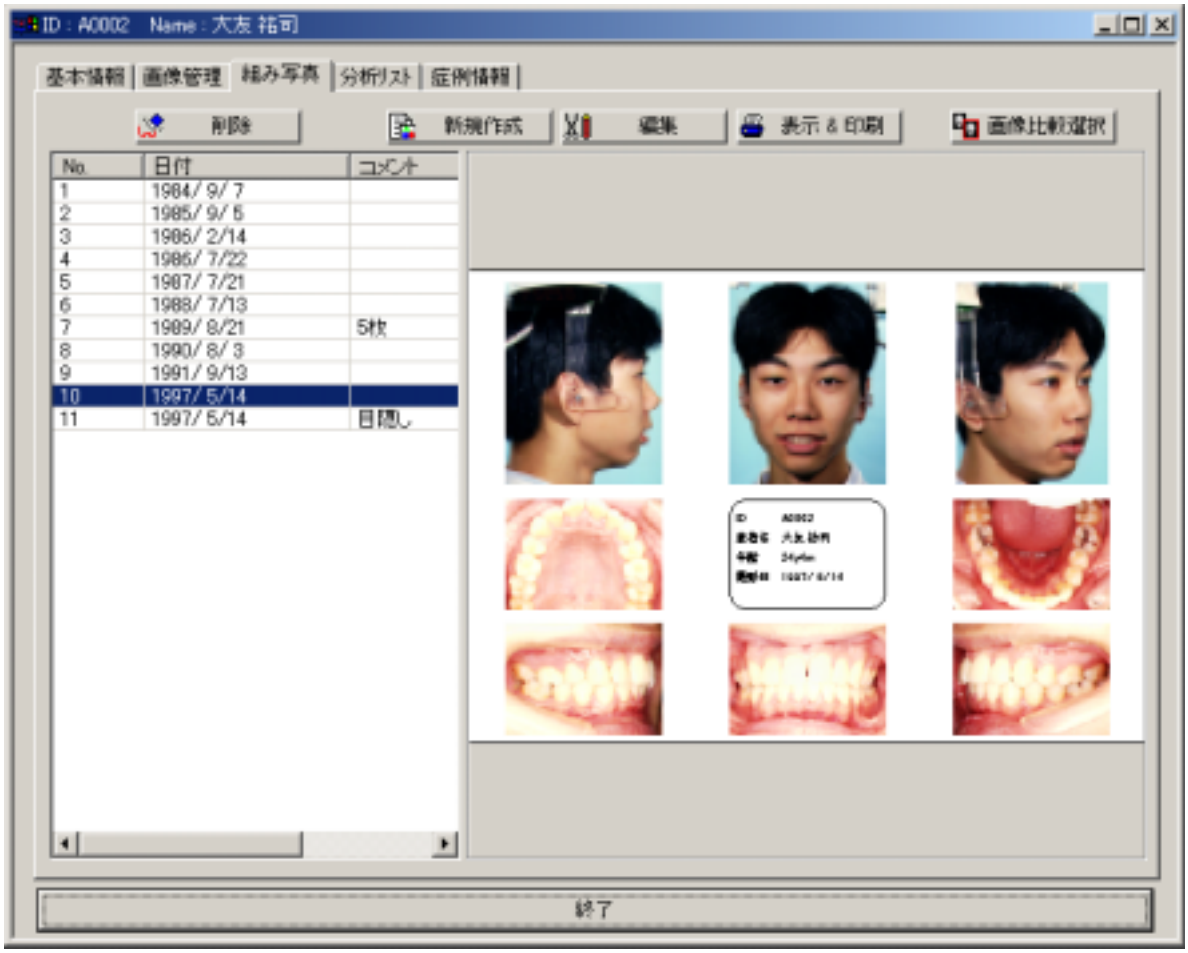
「自動」……重ね合せの位置と角度を Lat.分析のポイント配置から自動で決定します。（選択画像で Lat.分析を行なっていた場合のみ）

「原点設定」……重ね合せの原点を指定します。

合成画像上でドラッグすると、重ね合せ画像選択の画面で選択されている赤、緑、青のそれぞれの画像位置を移動できます。

分割設定……横、縦それぞれの画像表示領域の分割数を設定します。
画像吐き出し…選択画像（複数可）を任意のフォルダにコピーします。

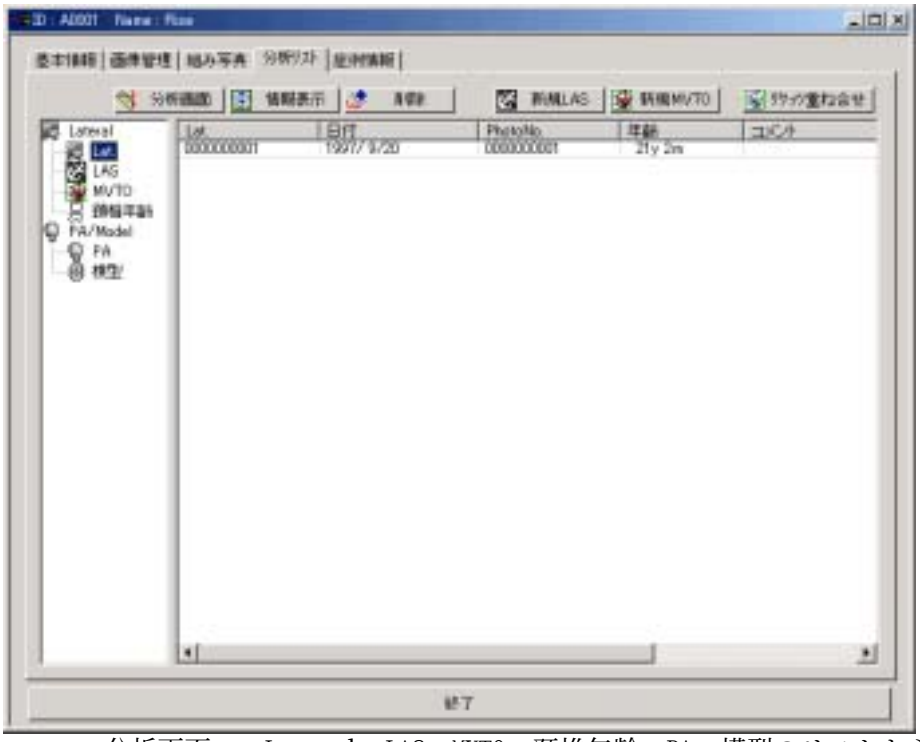
組み写真……組み写真の作成・表示・印刷を行ないます。



左にリスト表示されている組み写真を選択すると、右にプレビュー表示されます。リストからダブルクリックで選択すると、選択された組み写真を編集します。

削除……選択されている組み写真を削除します。
新規作成……組み写真の新規作成を行ないます。１３－１．参照
編集……選択されている組み写真を編集します。１３－１．参照
表示 & 印刷…選択されている組み写真の表示と印刷を行ないます。
１３－９．参照
画像比較選択••…画像管理画面と同様に任意の画像を選択し、比較します。
画面上に比較画像用のウィンドウが表示されます。
プレビュー表示されている組み写真中の任意のダブルクリックされた画像がこの画像比較画面で選択されている枠内に張り付きます。

分析情報……患者毎に作成された分析の参照を行ないます。



分析画面……Lateral、LAS、MVTO、頚椎年齢、PA、模型のリストから選択されている分析画面を開きます。
それぞれ、５章、６章、７章、８章、９章、１０章参照

情報表示……選択さている分析の情報を表示・変更します。

画像変更……登録されている画像リストから分析用画像を選択し直します。

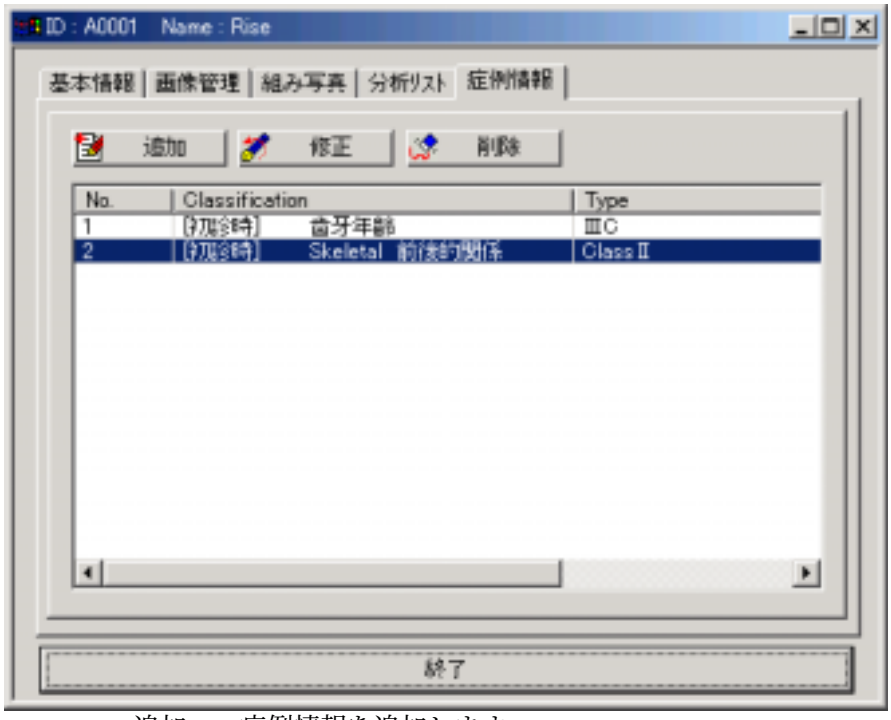
削除……選択さている分析を削除します。

新規 LAS……レベルアンカレッジのチャート作成を行ないます。　９章参照

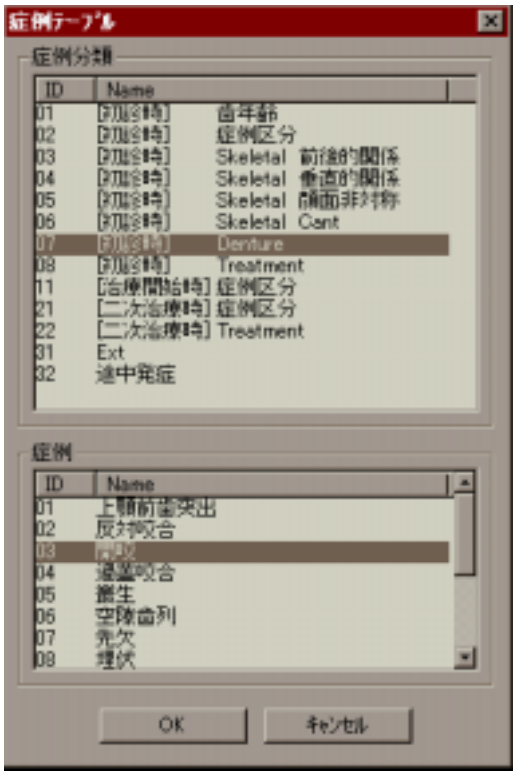
新規 MVTO…マネージメント VTO を行ないます。　　８章参照

リケッツ重ね合せ…リケッツ・VTO 図の重ね合せを行います。
１１章参照

症例情報……症例情報の登録・修正を行います。



追加……症例情報を追加します。



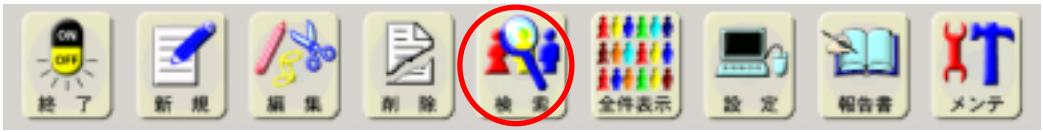
症例分類と症例を選択します。

修正……選択されている症例を変更します。
削除……選択されている症例を削除。

４－１－４．削除

選択されている患者を削除します。このとき、患者に登録されている画像や分析情報等も一緒に削除されます。

４－１－５．検索



患者情報

ID、氏名、フリガナはそれぞれ入力された文字数分一致する患者を検索します。

例）検索条件　　ID 001

　　条件に一致する ID 001,0012,0015487

症例検索

選択されている症例条件に一致する患者を検索します。

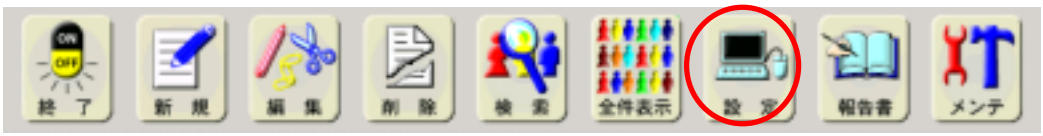
区分毎に条件登録されたタイプのどれかに一致（OR 検索）し

かつ全ての区分条件を満たす（AND 検索）患者リストが得られます。

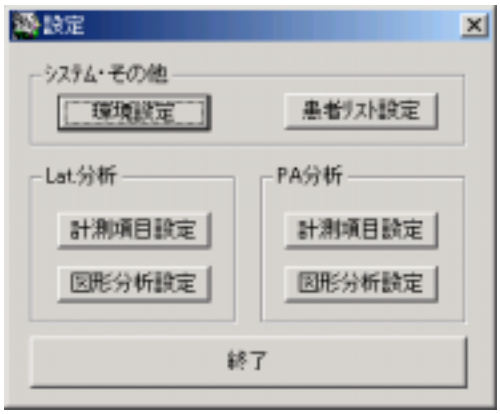
４－１－６．全件表示

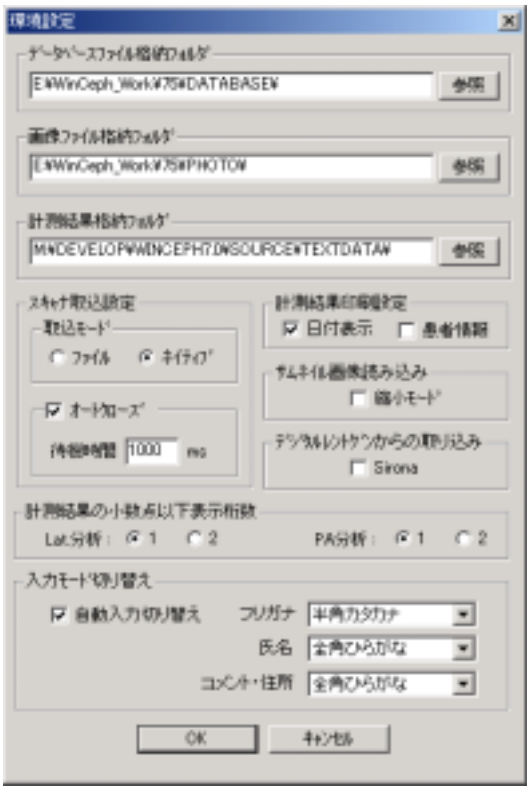
登録されている全ての患者を表示します。

４－１－７．設定



各種設定を行います。

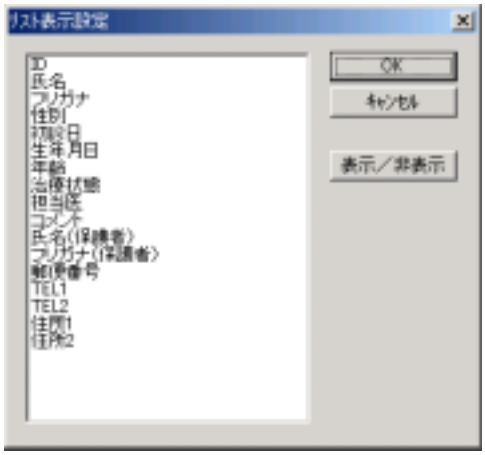




環境設定

ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽﾌｧｲﾙ格納ﾌｫﾙﾀﾞ……データベースファイルの格納場所を指定します。
画像ﾌｧｲﾙ格納ﾌｫﾙﾀﾞ……画像ファイルの格納場所を指定します。
計測結果格納ﾌｫﾙﾀﾞ……分析結果のデフォルトの格納場所を指定します。
ｽｷｬﾅ取込設定……スキャナ取込み時の動作方法を指定します。
デフォルトでスキャナ取込みが失敗した時のみ変更して下さい。
オートクローズにチェックを付けるとスキャナ取り込み後に自動で取り込み画面を閉じます。正常に閉じない場合は待機時間を大きめ（3000 程度:3 秒）に変更してください。
計測結果印刷設定……チェックされると、計測結果表示に現在の日付・患者情報を表示します。
計測結果の小数点以下表示桁数…結果表示の小数点以下表示桁数を指定します。
ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾚﾝﾄｹﾞﾝからの取り込み……ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾚﾝﾄｹﾞﾝからの取込みを可能にします。
ｻﾑﾈｲﾙ画像読み込み……サムネイル画像表示での縮小読み込みの ON/OFF を行ないます。（ON のときは表示スピードアップ）
入力ﾓｰﾄﾞ切り替え ……患者情報入力時の入力モード切り替えを指定します.

患者リスト設定……患者リストの表示方法を指定します。



順番を入れ替えるときは、リストの入れ替えたい項目をドラッグします。

表示／非表示で選択されている項目の表示状態の指定ができます。

Lat.分析、PA 分析

計測項目設定……ユーザー定義ポイントの設定やユーザー定義分析の設定を行ないます。

図形分析設定……ユーザー定義の作図法の設定を行ないます。

４－１－８．メンテナンス

データベースの各種メンテナンスを行ないます。

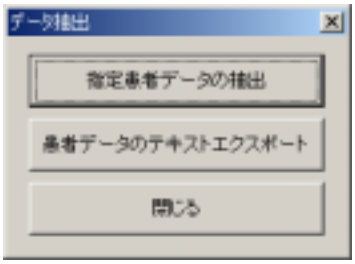
データベースバックアップ……現在のデータベース情報を任意のファイルにバックアップします。

DB & 画像バックアップ……現在のデータベース情報と登録されている画像をバックアップします。

データベースリストア……バックアップされたデータベースを復元します。

画像リストア……バックアップされた画像を復元します。

テーブルメンテナンス……各種テーブル情報の追加・修正・削除を行います。



抽出……患者毎のデータ抽出または、患者情報のテキスト出力を行ないます。

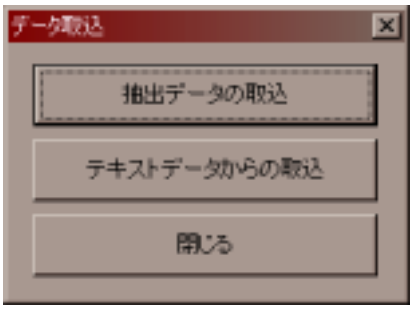
・ 指定患者データの抽出
患者と抽出項目を選択しＯＫをクリックすると、ファイル選択の画面が表示されるので任意のファイルを指定します。

・ 患者データのテキストエクスポート

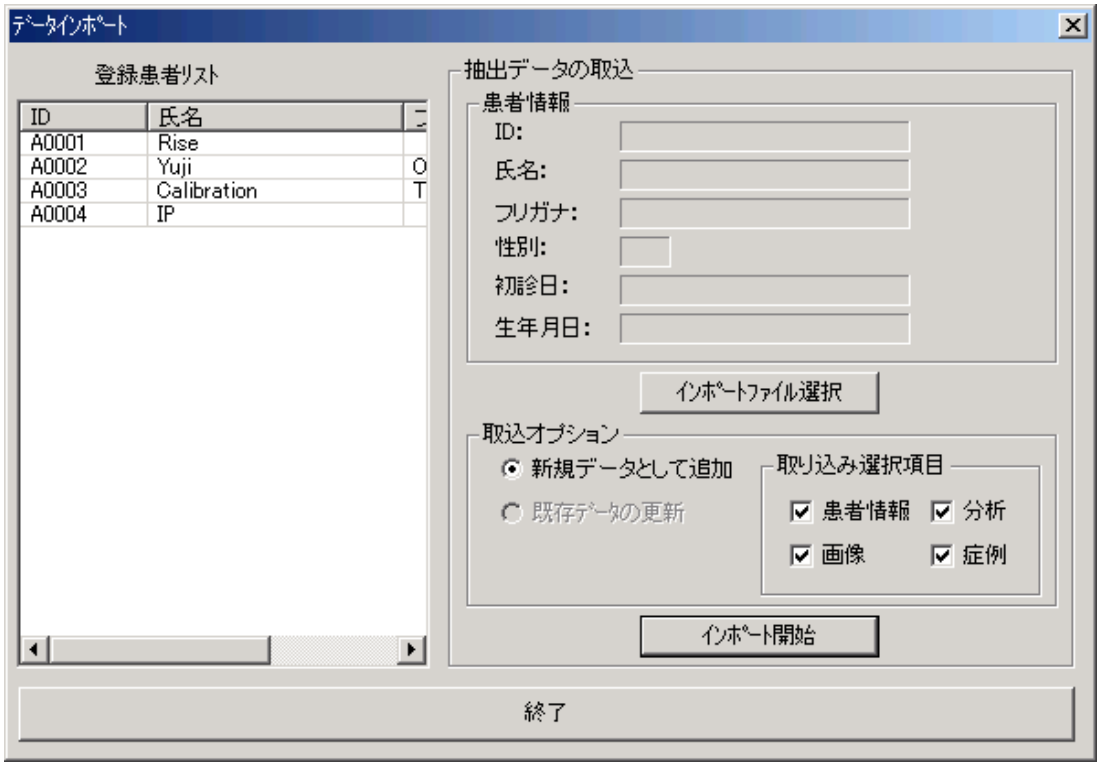
登録済み患者データより任意の患者を選択し（複数選択可）、>> ボタンをクリックすると、右のリストに追加されます。<< ボタンは右リストより選択されているデータの選択解除に使用します。
エクスポートするデータを選択しＯＫをクリックすると、ファイル選択の画面が表示されるので任意のファイルを指定します。

取込

患者毎のデータ取り込みまたは、テキストファイルより患者リストの取り込みを行います。



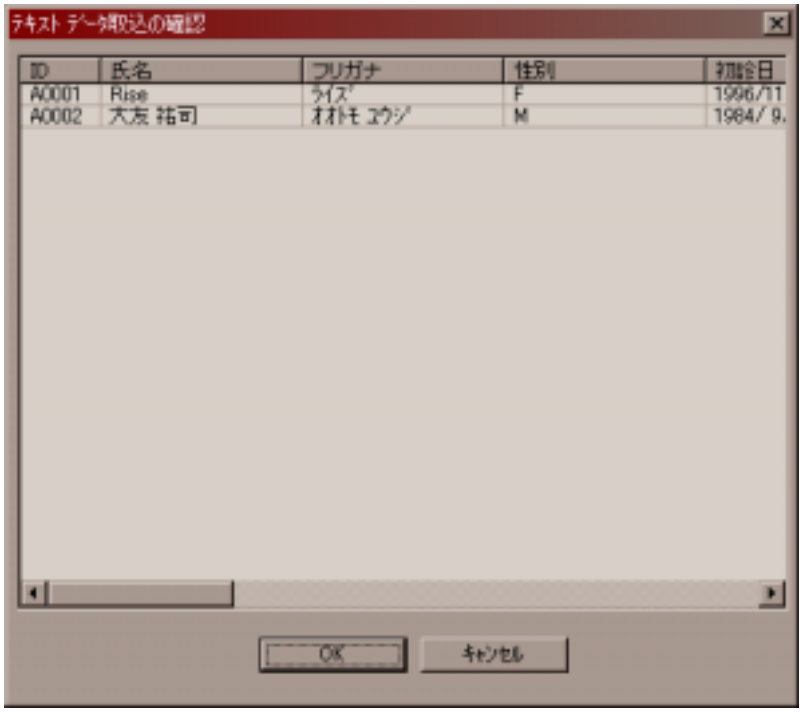
・ 抽出データの取込



抽出データの取込……指定患者データの抽出により取り出されたファイルを選択し、取込オプションを指定しデータの取り込みを行います。
新規データとして追加した場合は患者リストに新規でインポートされます。
既存データの更新を行った場合は、登録患者リストより選択されている患者の情報が上書きで更新されます。

・ テキストデータからの取込

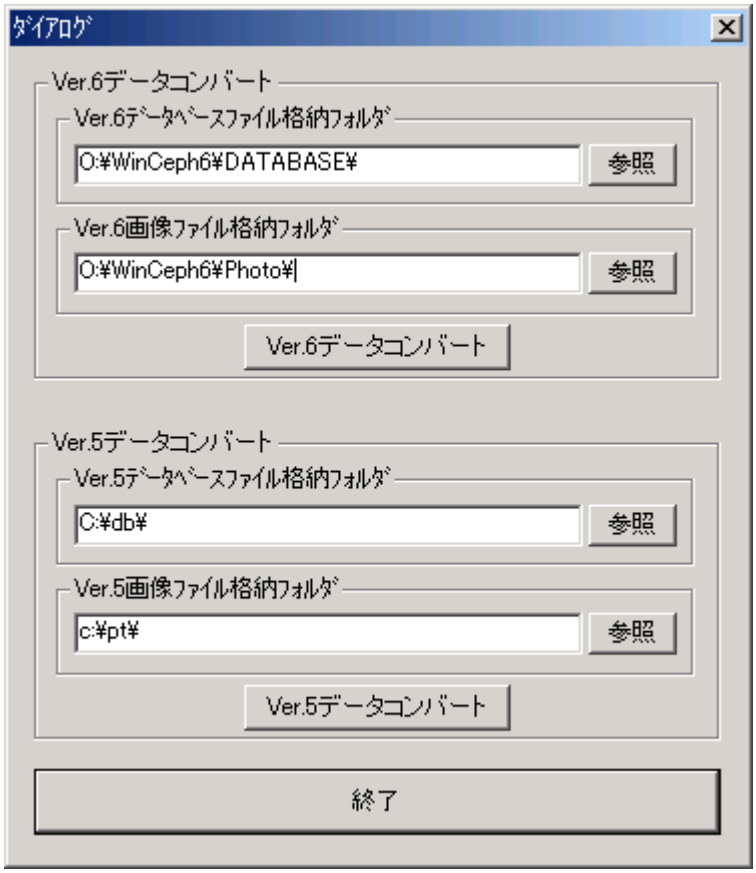
フィールド区切り記号を指定し、開くをクリックし患者リストが書かれているファイルを選択すると、左のリストにテキストファイルの一行目の情報が表示されます。左のリストで選択されている項目に対応するデータ項目を右のリストから選択し、>> ボタンをクリックし対応フィールド番号に値をセットしていきます。（全て埋まらなくても進めます）
対応フィールド番号の選択が終了したら、ＯＫをクリックします。



取り込みデータの確認画面が表示されるので、よければＯＫをクリックします。

データコンバート

・ Ver.5 / Ver.6 のコンバート

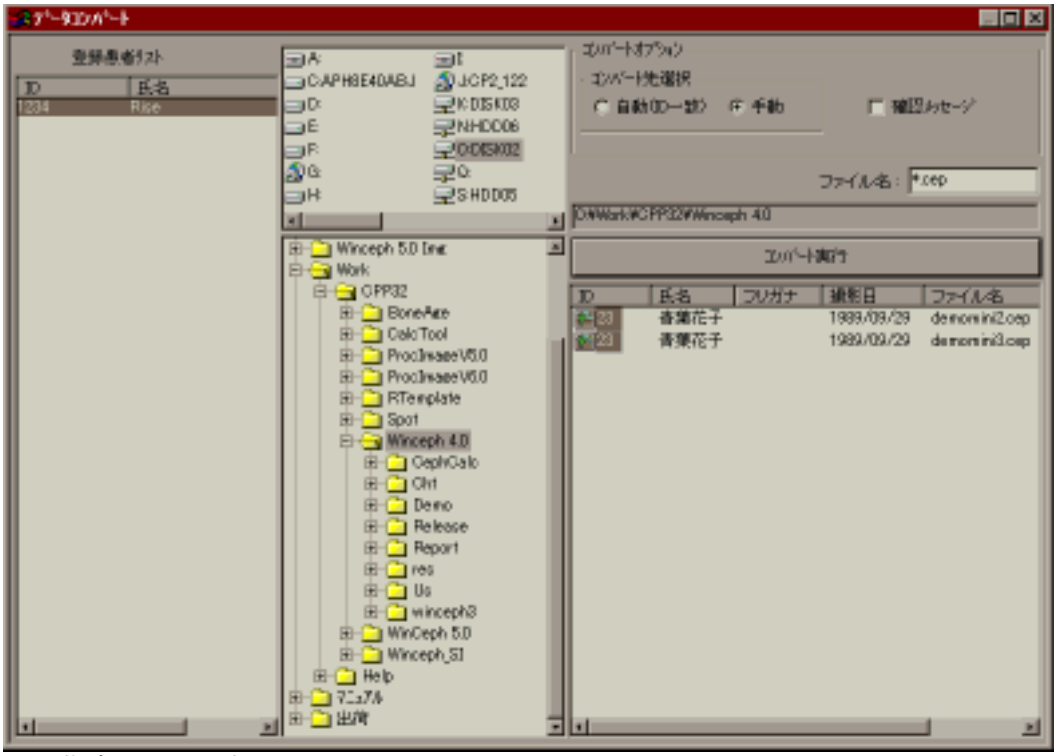


Ver.6 または Ver.5 のデータをコンバートする場合は、それぞれデータベース格納フォルダと画像格納フォルダを指定してデータコンバートボタンをクリックします。

データコンバートに成功すると、キャリブレーションファイルの取り込みに移ります。
ここで Ver.6 または Ver.5 のインストールフォルダを指定します。

デフォルトではＯＳがインストールされているドライブ（標準の環境ではＣドライブになります）の中の WinCeph6 または WinCeph5 のフォルダにインストールされています。
Ver.6 からのデータコンバートを実行した場合はこのときにユーザー定義のポイントと作図法も取り込まれます。

・Ver.2 / Ver.3 / Ver.4 のコンバート



指定フォルダ内の“ＷｉｎＣｅｐｈ”ファイルリストからコンバートしたいデータを選択し「コンバート実行」ボタンを押します。

コンバート先選択

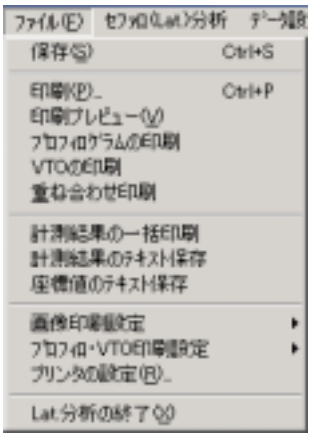
自動……旧データの ID に一致する患者が既に登録されていれば、その患者にデータが追加されます。登録された患者が存在しない場合新規の患者を作成します。

手動……画面左の患者登録リストより選択されている患者に選択されている旧データ全てを追加します。

確認メッセージ…チェックされていれば１つのデータをコンバートするたびに確認メッセージが表示されます。

５．「セファロ(Lat.)分析メニュー」リファレンス

ここでは、セファロ(Lat.)分析を実行時に表示されるメニューの説明を行います。



５－１．ファイル（Ｆ）

５－１－１．保存（Ｓ）

現在分析中のデータを保存します。

５－１－２．印刷（Ｐ）

現在アクティブなウィンドウを印刷します。

５－１－３．印刷プレビュー（Ｖ）

現在アクティブなウィンドウの印刷結果を画面に表示します。

５－１－４．プロフィログラムの印刷

Ｘ軸を水平に補正した状態でプロフィログラムの表示・印刷を行ないます。

５－１－５．VTO の印刷

ＶＴＯの表示・印刷を行います。

５－１－６．重ね合わせ印刷

ＶＴＯ・プロフィログラム等画面表示されている作図の表示・印刷を行います。

５－１－７．計測結果の一括印刷

使用している分析法の計測結果を全て印刷します。

５－１－８．計測結果のテキスト保存

計測結果をテキストファイルに保存します。

５－１－９．座標値のテキスト保存

分析ポイントの座標値（原点基準）をテキストファイルに保存します。

５－１－１０．画像印刷設定

分析画面の印刷時のサイズを標準（用紙に合わせたサイズ）か実寸
（実際の大きさ）の２つから選択します。

５－１－１１．プロフィロ・VTO 印刷設定

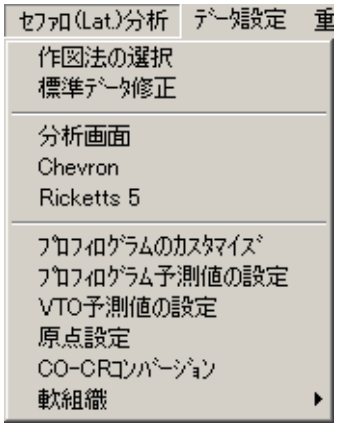
プロフィログラム・ＶＴＯの印刷時のサイズを標準（用紙に合わせたサイズ）
か実寸（実際の大きさ）の２つから選択します。

５－１－１２．プリンタの設定（R）

プリンタの使用機種、用紙等の設定を行ないます.

５－１－１３．Lat.分析の終了（X）

分析を終了します。



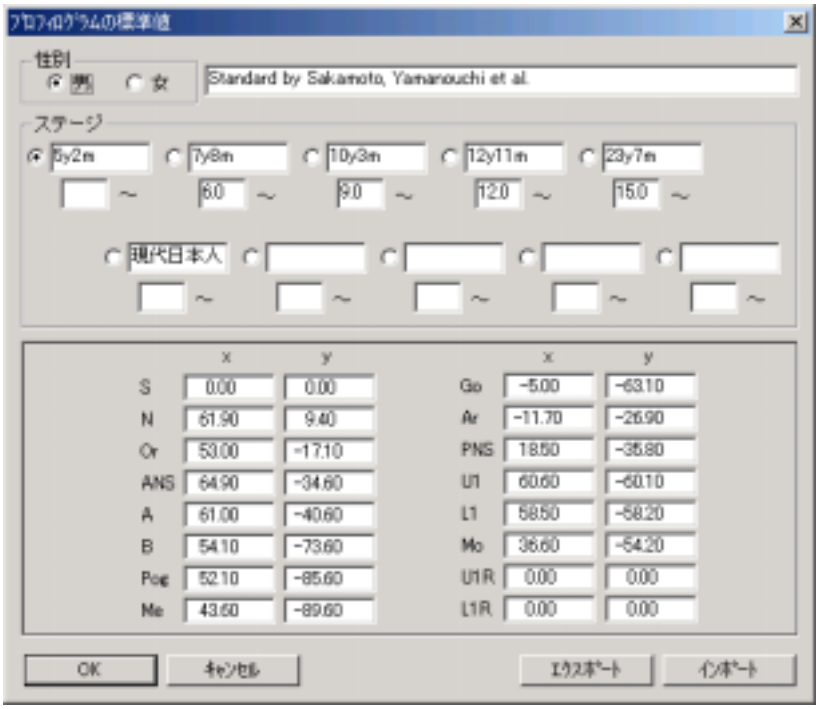
5－2．セファロ（Lat.）分析

5－2－1．作図法の選択

使用する作図法の選択を行ないます。

5－2－2．標準データ修正

プロフィログラムのステージ毎の標準値確認と修正をします。



ステージをデフォルトで選択される年齢の範囲を設定します。

エクスポート……現在の設定値を外部ファイルに保存します。

インポート……任意の外部ファイルから設定値を読み込みます。

出荷時には”Std.prs”（デフォルト値）,”小児歯科.prs”（小児歯科データ）の2

つが入っています。

５－２－３．分析画面

分析結果を表示します。

５－２－４．Chevron

“Chevron”の分析及び印刷を行います。

５－２－５．Ricketts５

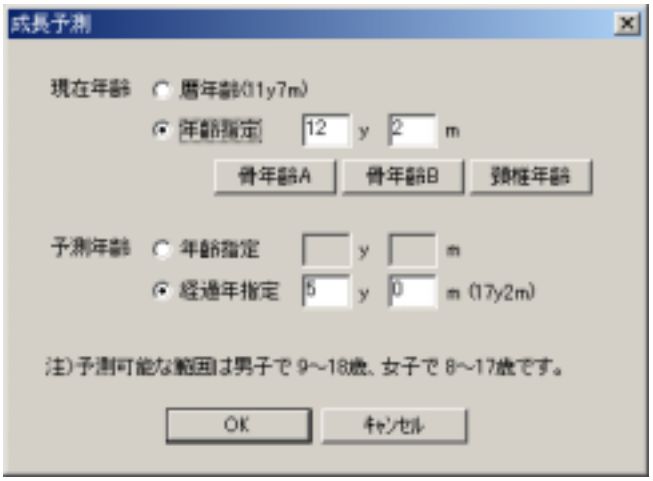
“Ricketts ５”の結果を表示します。

５－２－６．プロフィログラムのカスタマイズ

プロフィログラムの使用ポイントの選択を行います。

５－２－７．プロフィログラム予測値の作成

プロフィログラム予測値の設定を実行すると、以下の予測値作成画面が表示されます。



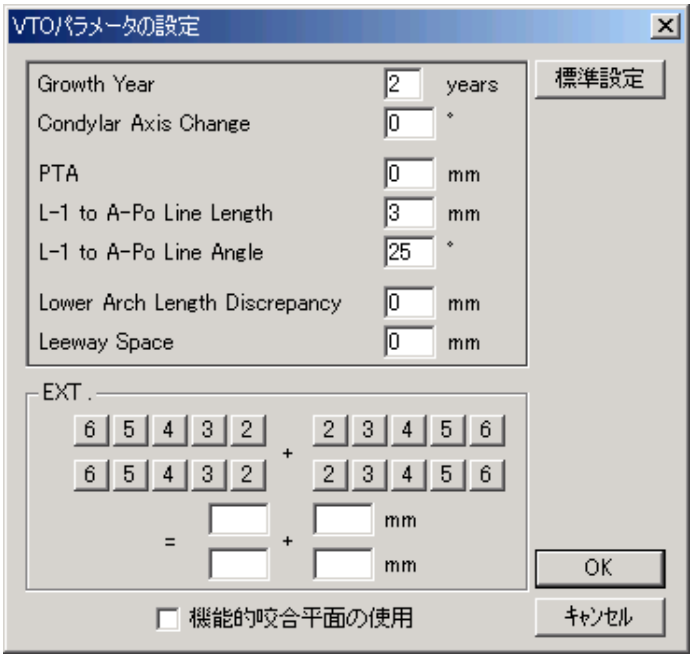
現在年齢で指定した年齢から予測年齢で指定した年齢までの成長（標準の成長率）によりプロフィログラムの成長予想図を作成します。

現在年齢には暦年齢のほかに手骨計測により求められた骨年齢と頚椎年齢が指定できます。同一検査日の分析値が存在しない場合は分析一覧より任意に選択します。

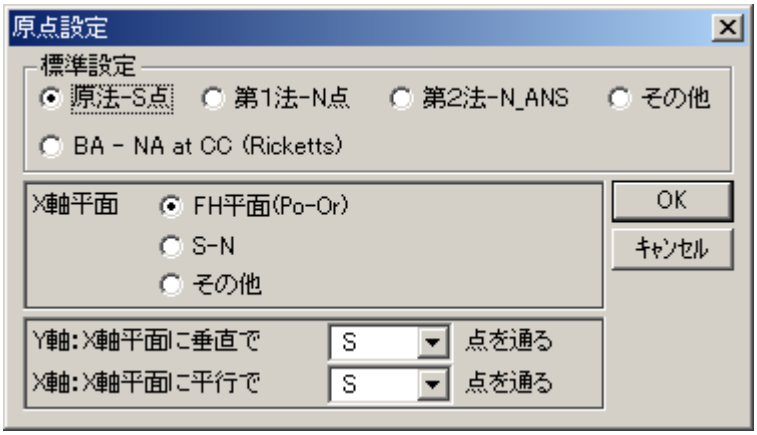
予測年齢は成長後の年齢を直接入力するか、現在年齢からの経過年月を指定します。

予測可能範囲は男子で９～１８歳、女子で８～１７歳です。現在年齢・予測年齢ともに範囲内となるように指定してください。

５－２－８．VTO 予測値の設定



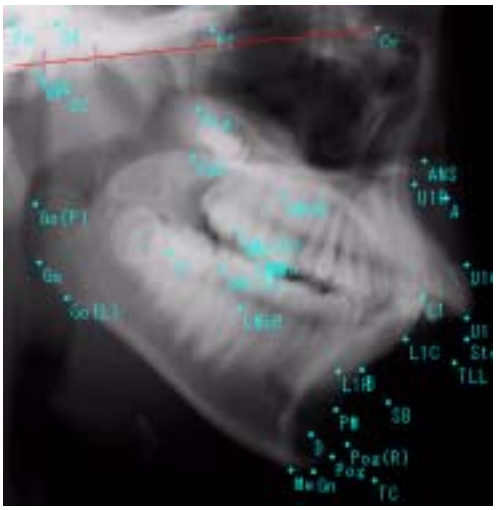
ＶＴＯの予測図を作画するためのパラメータ設定を行ないます。
機能的咬合平面の使用をチェックすると、分析画面上で咬合平面の移動が行なえます。
Riketts 図を表示し咬合平面の左右２点をマウスで移動します。



５－２－９．原点設定

・原法－Ｓ点――――――Ｓ点を原点とし、Ｘ軸に関してはＦＨ平面に平行な直線とします。
・第１法－Ｎ点――――――Ｎ点を原点とし、Ｘ軸に関してはＦＨ平面に平行な直線とします。
・第２法－Ｎ__ＡＮＳ――ＡＮＳ点を通りＦＨ平面に平行な直線にＮ点から垂直な線を引いた時の交点を原点とします。
・その他――――――――任意に設定できます。
・BA － NA at CC――――BA － NA at CC で重ね合わせます。（リケッツ原点）

５－２－１０．CO-CR コンバージョン

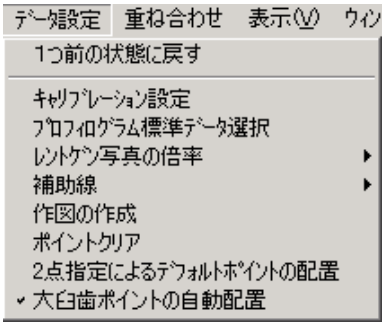


下顎頭との交点指定をクリックすると、画面上に赤色のラインが表示されるので、そのライン上の下顎頭との交点２箇所でクリックします。
ＣＰＩパラメータを入力しＣＲをクリックすると、顎のポイントが移動します。
ＣＯクリックまたは、終了で元に戻ります。

５－２－１１．軟組織

・ポイント追加・・・・任意の場所に軟組織ポイントを追加します。
メニュー実行後に画像上任意の位置でマウスクリックします。
・ポイント削除・・・・追加された軟組織ポイントを削除します。
メニュー実行後に削除したい軟組織ポイントをマウスクリックで選択します。
・ポイントクリア・・・追加された軟組織ポイントを全て削除します。

５－３．データ設定

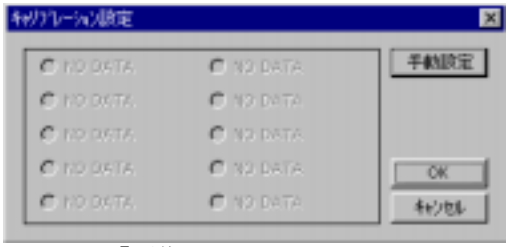


５－３－１．１つ前の状態に戻す
ポイントの移動・補助線の移動等の直前に行なった処理を取り消します。

５－３－２．キャリブレーション設定

スキャナまたは画像データから初回のみ距離計測のためのスケールを入力します。「キャリブレーション設定」ダイアログボックスが表示されるので、マウスで指定した２点の距離をmm単位で入力して下さい。

①“手動設定”ボタンをクリックします。



②ここでは「画像」とともにスキャナ取り込みしたスケールの２点をマウスで指定します。

③２点間に対する距離をmm単位で入力して“登録”ボタンをクリックします。

④設定したキャリブレーションに対して“登録データ用見出し”を入力して「ＯＫ」ボタンをクリックします。

５－３－３．プロフィログラム標準データ選択

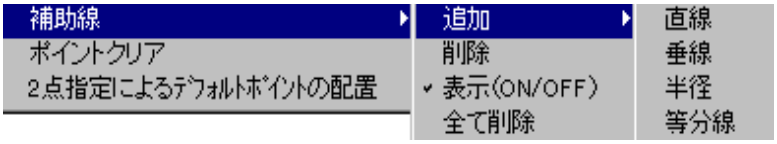
“プロフィログラム標準データの選択”ダイアログボックスが表示されます。任意のステージを選択して「ＯＫ」ボタンをクリックして下さい。

５－３－４．レントゲン写真の倍率

レントゲン写真の倍率を 1.1 倍または 1.0625 倍のどちらかを選択します。
または、手入力による設定を行ないます。デフォルトは 1.1 倍です。

５－３－５．補助線

画像上に任意のラインを表示させます。



①追加

補助線はＭＡＸ３０本作成できます。（直線・垂線・半径）
等分線はＭＡＸ２０本作成できます。

②削除

補助線および等分線の削除モードになります。
削除するラインをマウスで選択します。

③表示（ON/OFF）

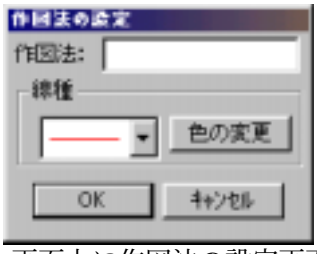
補助線および等分線の表示・非表示を選択します。

④全て削除

設定されている補助線を全て削除します。

５－３－６．作図の作成

分析画像上で、任意のポイントを選択し作図法の設定を行ないます。



画面上に作図法の設定画面が表示されるので、作図法の名前とラインの設定をし、分析画面で任意のポイントを選択すると、画面上にラインが表示されていきます。右クリックで新しく設定されたラインから削除できます。全ての指定が終了したら、設定画面の「ＯＫ」ボタンをクリックします。

５－３－７．ポイントクリア

設定されている計測ポイントを初期状態に戻し、再配置します。

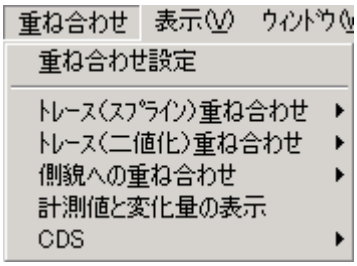
５－３－８．２点指定によるデフォルトポイントの配置

任意の 2 点をマウスで選択しデフォルトの分析ポイントの配置が行なえます。

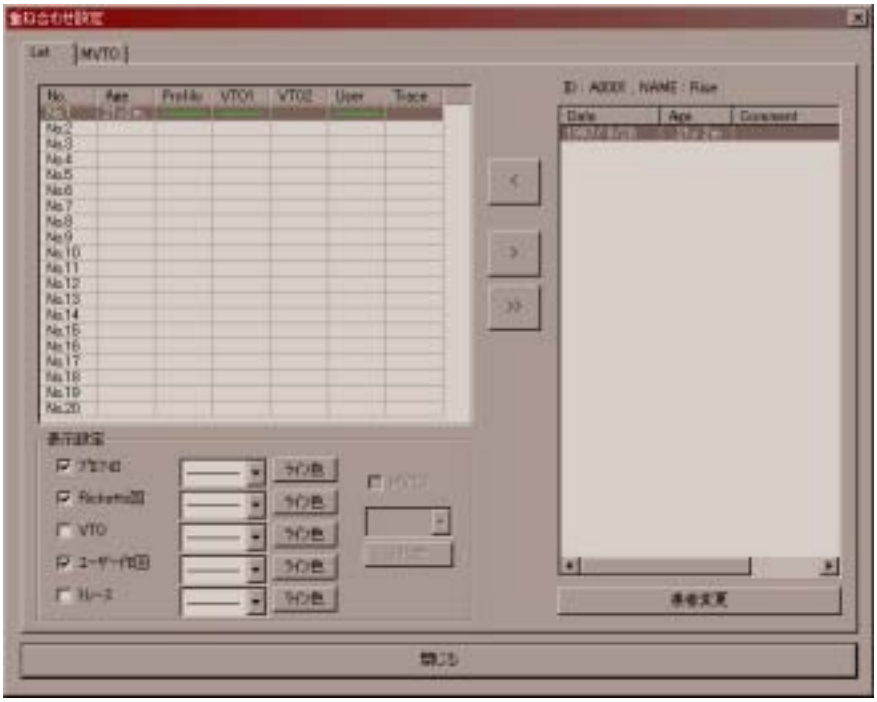
５－３－９．大臼歯ポイントの自動配置

このメニューをチェックしておくと（デフォルト）大臼歯のポイントを移動するときに自動で補正されます。

５－４．重ね合わせ



５－４－１．重ね合わせ設定



各作図、**計測値変化量の表示**で重ね合わせを行なうデータの選択を行ないます。

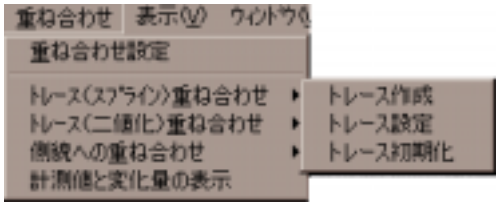
左のリストで選択されている分析データの表示設定を行ないます。
「>」ボタンで現在選択されているデータの選択を解除します。
「>>」ボタンで全てのデータをリストから削除します。
重ね合わせのライン色とラインの種類をそれぞれ変更します。

画面右側のリストから任意のデータを選択し（複数選択可）、「<」ボタンを押すと、画面左側のリストの上から空いているスペースにデータを設定します。

「患者変更」ボタンを押すと、患者リストが表示されるので、任意の患者を選択します。

右のリストで複数選択するには、Shift キーを押しながら、選択する最初と最後のデータを順にクリックまたは、Ctrl キーを押しながら任意のデータをクリックまたは、マウスドラッグ（マウスの左ボタンを押しながらのマウス移動）による選択を行ないます。

５－４－２．トレース（スプライン）重ね合わせ

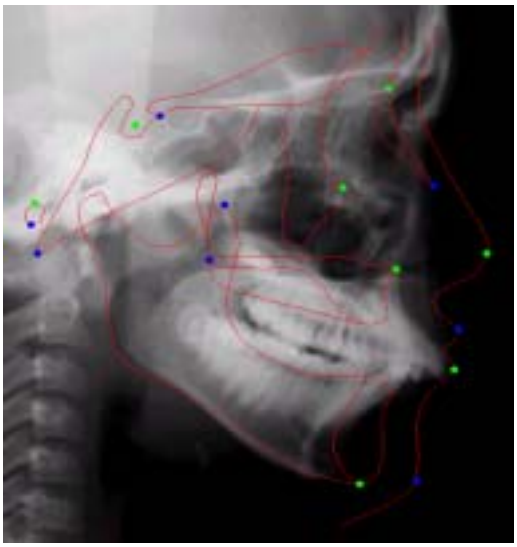


①トレース作成

・トレース未作成の場合使用する部位を選択します。

このとき「詳細モード」にチェックを付けておくと指定ポイントの多いモードでトレースの作成が行なえます。

・分析画面表示中の場合は、分析画面上に枠とともに選択された部位のトレースが表示されます。この枠を移動、サイズ変更して任意の位置、大きさに配置し枠の外でクリック、またはマウスの右クリックで枠を解除します。

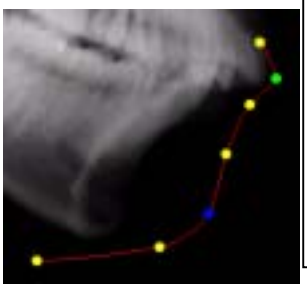


画面上に部位毎の図形とともに緑と青のポイントが表示されます。
それぞれのポイントをマウスでドラッグし図形を調節します。

緑のポイントで移動、青のポイントで拡大・縮小・回転を行ないます。

右クリックで戻ります。

・上の画面でダブルクリックすると、カーソルにもっとも近い部位のトレースを修正できます。



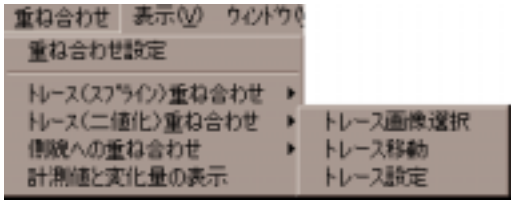
それぞれのポイントをドラッグし図形を調整します。

右クリックで戻ります。

②トレース設定……使用する部位の選択をします。

③トレース初期化……トレースの作成を枠の配置からやり直します。

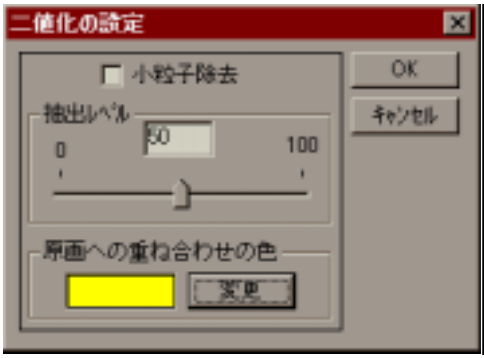
５－４－３．トレース（二値化）重ね合わせ



①トレース画像選択……患者の画像一覧から重ね合せるトレース画像を選択します。
選択後トレース移動モードになります。

②トレース移動……トレースの位置をマウスドラッグで調整します。
移動が終わったら右クリックします。

③トレース設定……重ね合わせの際の各種設定を行ないます。

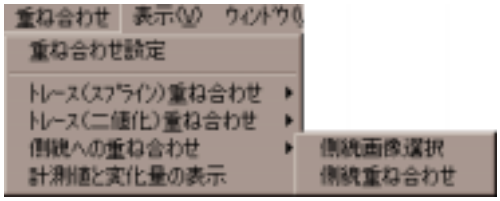


小粒子除去…細かい粒子を取り除きます。

抽出レベル……トレースラインがはっきり出ないときに調節します。

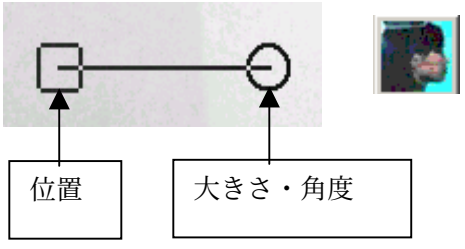
原画への重ね合せの色……トレースラインの表示色を選択します。

５－４－４．側貌への重ね合わせ



①側貌画像選択……患者の画像一覧から重ね合せる側貌画像を選択します。

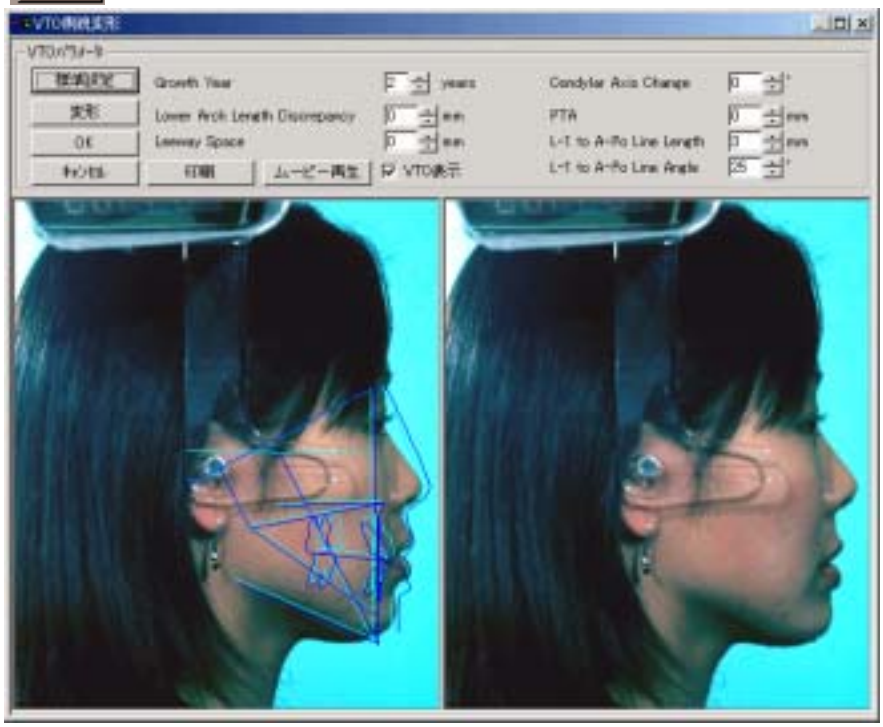
②側貌重ね合わせ…側貌画像を表示し、重ね合わせの位置を調整します。



トレース画像の位置合わせ
「微調整」ウィンドウと「分析用画像」ウィンドウに調整するためのコントローラーが表示されます。ここで微調整を行ないます

VTO 顔面変形

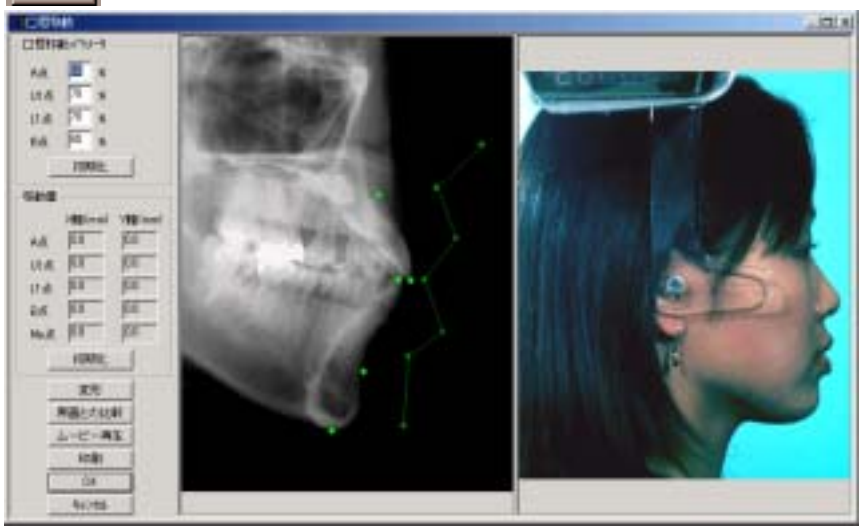
側貌重ね合わせ画面でこのボタンをクリックすると、以下の画面を表示します。



この画面で VTO のパラメータを設定し、変形ボタンをクリックすると、パラメータに応じて顔面が変形します。

口唇移動

側貌重ね合わせ画面でこのボタンをクリックすると、以下の画面を表示します。



口唇移動パラメータＡ，Ｕ１，Ｌ１，Ｂそれぞれのポイント移動に対する軟組織の移動割合を指定します。

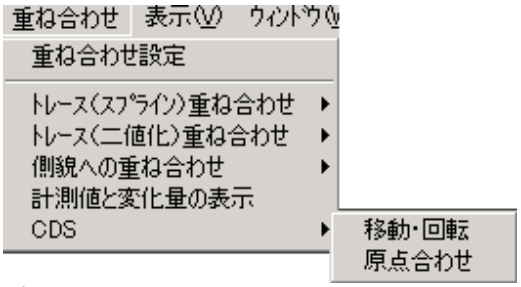
Ａ，Ｕ１，Ｌ１，Ｂ，Ｍｅそれぞれのポイントをマウスで移動し、変形ボタンをクリックすると、パラメータに応じて顔面が変形します。

それぞれ、ムービー再生ボタンをクリックすると変形過程を動画再生します。

５－４－５．計測値と変化量の表示

選択された重ね合わせデータで各分析の計測値と変化量を表示します。

５－４－６．ＣＤＳ



移動・回転

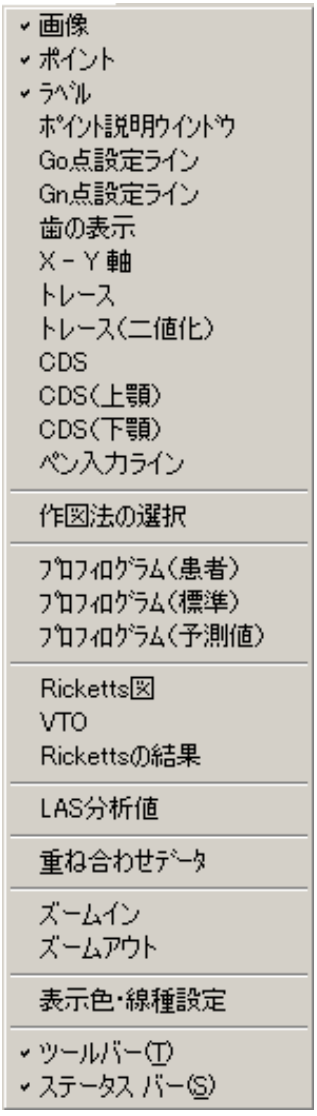
画像上にCDS画像を表示しマウス左ドラッグで移動・マウス右ドラッグ（左右移動）で回転を行います。

原点合わせ

CDS画像の原点を現在設定されている原点に合わせます。

（５－２－８．原点設定　参照）

５－５．表示(V)



５－５－１．画像

画像の表示・非表示を選択します。

５－５－２．ポイント

分析ポイントの表示・非表示を選択します。

５－５－３．ラベル

分析ポイント・補助線の名称の表示・非表示を選択します。

５－５－４．ポイント説明ウィンドウ

ポイント説明」ウィンドウの表示・非表示を選択します。

５－５－５．Go点設定ライン

Go点設定用の補助線の表示・非表示を選択します。

５－５－６．Gn点設定ライン

Gn点設定用の補助線の表示・非表示を選択します。

５－５－７．歯の表示

プロフィロ・VTO作画時の歯の表示・非表示を選択します。

５－５－８．Ｘ－Ｙ軸

Ｘ－Ｙ軸の表示・非表示の選択を行ないます。

５－５－９．トレース

トレース（スプライン）の表示・非表示の選択を行います。

５－５－１０．トレース（二値化）

トレース（二値化）の表示・非表示の選択を行います。

５－５－１１．CDS

CDS画像の表示・非表示を選択します。

５－５－１２．CDS（上顎）

CDS（上顎）の表示・非表示の選択を行います。

５－５－１３．CDS（下顎）

CDS（下顎）の表示・非表示の選択を行います。

５－５－１４．ペン入力ライン
画像処理で入力されたラインの表示・非表示の選択を行います。

５－５－１５．作図法の選択

画面に表示するユーザー設定の作図法を選択します。

５－５－１６．プロフィログラム（患者）
プロフィログラム（患者）の表示・非表示の選択を行います。

５－５－１７．プロフィログラム（標準）
プロフィログラム（標準）の表示・非表示の選択を行います。

５－５－１８．プロフィログラム（予測値）
プロフィログラム（予測値）の表示・非表示の選択を行います

５－５－１９．Ricketts 図
Ricketts 図の表示・非表示を選択します。

５－５－２０．VTO
設定された値をもとに予測された VTO 図の表示・非表示を選択します。

５－５－２１．LAT 分析値
レベルアンカレッジで使用する分析値の表示を行います。

５－５－２２．Ricketts の結果
“分析用画像ウィンドウ”に以下の Ricketts の分析結果を表示します。
・Facial axis――――――顔面軸各
・Facial depth ――――――顔面の深さ
・Mandibular plane ――――下顎下縁平面角
・L.F.H. ――――――――――下顔面高
・Convexity――――――――下顎骨屈曲度
・L1-APO(DISTANCE) ――――上顎突出量
・L1-APO(DEGREE) ――――下顎切歯突出量
・U6-PTV ――――――――――上顎大臼歯の位置
・Lower lip-E.plane――――下唇突出度

５－５－２３．重ね合わせデータ
　　重ね合わせデータの表示・非表示を一括して選択します。

５－５－２４．ズームイン
　　ウィンドウの拡大表示を行います。

５－５－２５．ズームアウト
　　ウィンドウの縮小表示を行います。

５－５－２６．表示色・線種設定

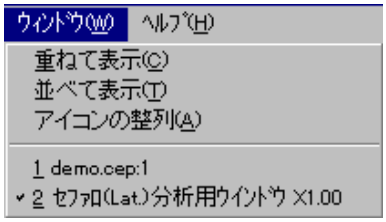
「線種指定」ダイアログボックスが表示されます。

ポイントの表示色、作画時の表示色・線種の設定を行います。

５－５－２７．ツールバー（T）
　　ツールバーの表示・非表示を選択します。

５－５－２８．ステータス バー（S）
　　ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

５－６．ウィンドウ(W)

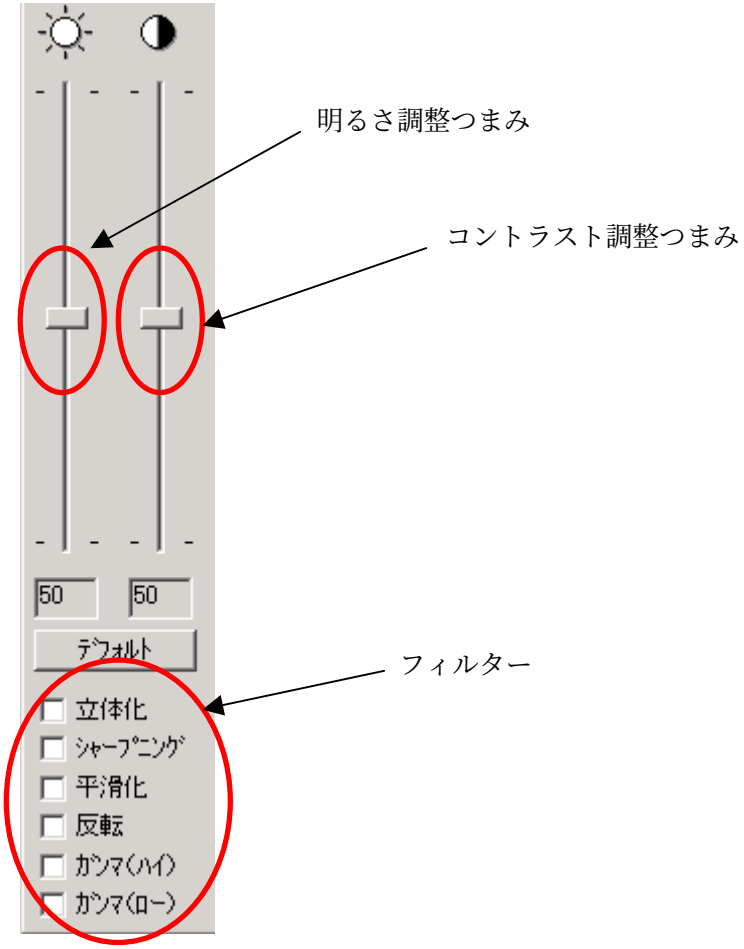


５－６－１．重ねて表示（C）
　　表示されているウィンドウを重ねて表示します。

５－６－２．並べて表示（T）
　　表示されているウィンドウを並べて表示します。

５－６－３．アイコンの整列（A）
　　アイコンを整列します。

５－７．画像のフィルター処理

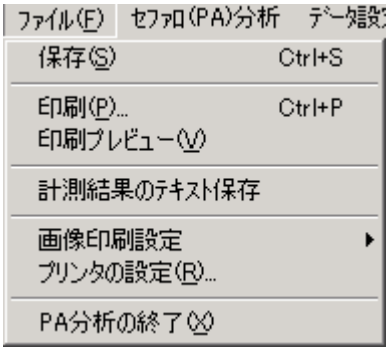


分析画面の右側に表示されているバーを移動させると画像の明るさ（左）と
コントラスト（右）の調整が行なえます。
その下の各種フィルターをチェックすると、それぞれのフィルター処理が画像に加えられます。
バーを中央（50）に戻してフィルターのチェックを外せば原画に戻ります。

６．「セファロ(PA)分析メニュー」リファレンス

ここでは、セファロ(PA)分析を実行時に表示されるメニューの説明を行います。

６－１．ファイル（Ｆ）



６－１－１．保存（Ｓ）

現在分析中のデータ保存します。

６－１－２．印刷（Ｐ）

現在アクティブなウィンドウの情報を印刷します。

６－１－３．印刷プレビュー（Ｖ）

現在アクティブなウィンドウの印刷結果を画面に表示します。

６－１－４．計測結果のテキスト保存

計測結果をテキストファイルに保存します。

６－１－５．画像印刷設定

分析画面の印刷時のサイズを標準（用紙に合わせたサイズ）か実寸（実際の大きさ）の２つから選択します。

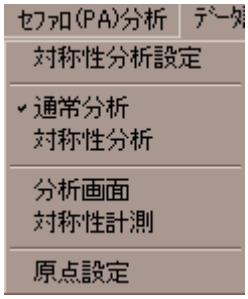
６－１－６．プリンタの設定（Ｒ）

プリンタの使用機種、用紙等の設定を行ないます.

６－１－７．ＰＡ分析の終了（Ｘ）

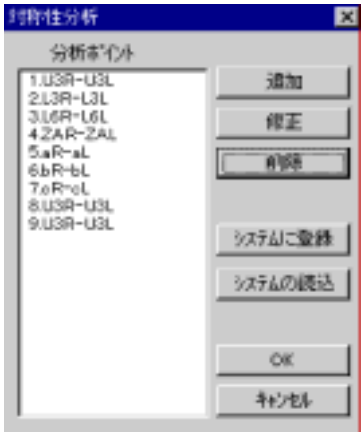
分析を終了します。

６－２．セファロ(PA)分析



６－２－１．対称性分析設定

対称性分析で使用するポイントを通常分析のポイントから選択または、新規にポイントを定義します。



追加……任意の分析ポイントを追加します。
修正……リストより選択されているポイントを修正
削除……リストより選択されているポイントを削除
システムに登録……現在設定中の分析ポイントを
システムに登録します。
新規分析時には、システムに登録されているポイントが設定されています。
システムの読込……現在の設定を全て解除して、
システムに登録されている分析
ポイントを読み込みます。

６－２－２．通常分析

通常計測を行うためのポイントを配置します。

６－２－３．対称性分析

対称性計測を行うためのポイントを配置します。

６－２－４．分析画面

計測結果を表示します。

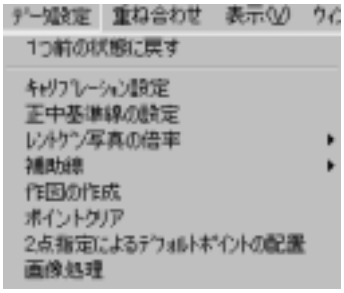
６－２－５．対称性計測

対称性計測を行い計測結果を表示します。

６－２－６．原点設定

作図を重ね合わせるための原点を任意に設定できます。

６－３．データ設定



６－３－１．１つ前の状態に戻す

ポイントの移動・補助線の移動等の直前に行った処理を取り消します。

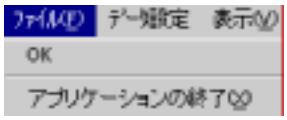
６－３－２．キャリブレーション設定

５－３－２　参照

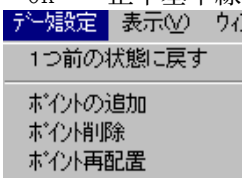
６－３－３．正中基準線の設定

対称性分析を行う場合の正中基準線を設定します。

正中基準線の設定を実行すると、次のようにメニューが切り替わります。



・ OK……正中基準線の設定を終了します。



１つ前の状態に戻す……ポイントの移動・追加等の直前に行った処理を取り消します。

ポイントの追加…… 基準線を決定するためのポイントを追加します。

対となるポイントをマウスクリックで追加していきます。

ポイントが一対のみの場合は、その２点を結んだラインが基準線となります。

一度配置したポイントはマウスで移動可能です。

ポイント削除…… 一番新しく追加したポイントを削除します。

ポイント再配置…… 設定されているポイントを全て削除します。

６－３－４．レントゲン写真の倍率

レントゲン写真の倍率を 1.1 倍または 1.0625 倍のどちらかを選択します。

または、手入力による設定を行ないます。デフォルトは 1.1 倍です。

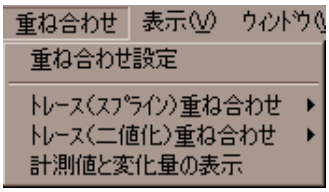
６－３－５．補助線
５－３－５　参照

６－３－６．作図の作成
５－３－６　参照

６－３－７．ポイントクリア
設定されている計測ポイントを初期状態に戻し、再配置します。

６－３－８．２点指定によるデフォルトポイントの配置
任意の２点をマウスで選択しデフォルトの分析ポイントの配置が行えます。

６－４．重ね合わせ



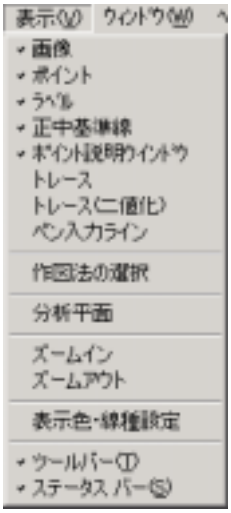
６－４－１．重ね合わせ設定
５－４－１　参照

６－４－２．トレース（スプライン）重ね合わせ
５－４－２　参照

６－４－３．トレース（二値化）重ね合わせ
５－４－３　参照

６－４－４．計測値と変化量の表示
選択された重ね合わせデータで各分析の計測値と変化量を表示します。

６－５．表示（V）



６－５－１．画像
画像の表示・非表示を選択します。

６－５－２．ポイント
分析ポイントの表示・非表示を選択します。

６－５－３．ラベル
分析ポイント・補助線の名称の表示・非表示を選択します。

６－５－４．正中基準線
正中基準線の表示・非表示を選択します。

６－５－５．ポイント説明ウィンドウ
ポイント説明ウィンドウの表示・非表示を選択します。

６－５－６．トレース
トレース（スプライン）の表示・非表示の選択を行います。

６－５－７．トレース（二値化）
トレース（二値化）の表示・非表示の選択を行います。

６－５－８．ペン入力ライン
画像処理で入力されたラインの表示・非表示の選択を行ないます。

６－５－９．作図法の選択
画面に表示するユーザー設定の作図法を選択します
５－５－１２　参照

６－５－１０．分析平面
分析平面図の表示・非表示を選択します。

６－５－１１．ズームイン
ウィンドウの拡大表示を行います。

６－５－１２．ズームアウト
ウィンドウの縮小表示を行います。

６－５－１３．表示色・線種設定
５－５－２１　参照

６－５－１４．ツールバー（T）
ツールバーの表示・非表示を選択します。

６－５－１５．ステータス バー（S）
ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

６－６．ウィンドウ(W)
５－６　参照

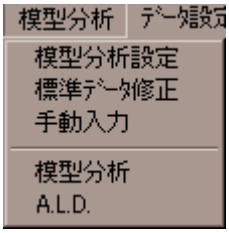
7．「模型分析メニュー」リファレンス

ここでは、模型分析実行時に表示されるメニューの説明を行います。

7－1．ファイル（F）

6－1　参照

7－2．模型分析



7－2－1．模型分析設定

・U1,U2…上顎歯それぞれの有無を指定。

・ L1,L2…下顎歯それぞれの有無を指定。

・ 側方歯群予測…チェックされていると、側方歯群（3～5）のどれかが欠けている場合に予測値をもちいて計測を行う。

上顎予測値 男 = 0.389×(U1R+U1L+U2R+U2L)+10.28

女 = 0.421×(U1R+U1L+U2R+U2L)+9.03

下顎予測値 男 = 0.523×(L1R+L1L+L2R+L2L)+9.73

女 = 0.549×(L1R+L1L+L2R+L2L)+8.52

・ 正中補正…Upper,Lower それぞれについて正中補正の有無、正中補正有りの場合左右どちらに何ミリ偏っているかの設定を行う。

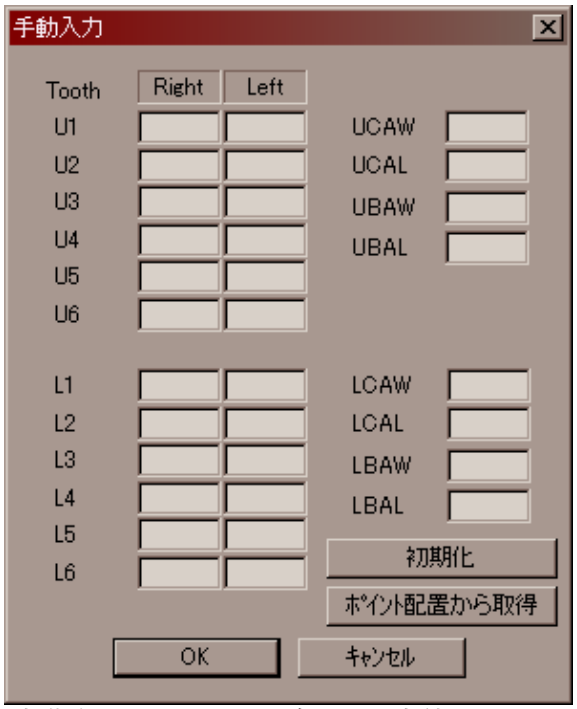
・ Spee 補正…上下左右それぞれの Spee の湾曲補正値を入力します。入力された値が A.L.D.にプラスされます。

7－2－2．標準データ修正

模型分析の標準値を修正します。

7－2－3．手動入力

模型分析の測定値を手動で入力します。



初期化……全ての入力値をクリアします。

ポイント配置から取得……現在のポイント配置から入力値を取得します。

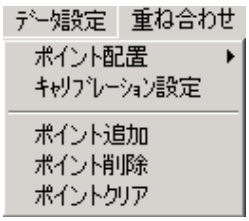
7－2－4．模型分析

模型計測結果を表示します。

7－2－5．A.L.D.

A.L.D.(Arch length discrepancy)計測結果を表示します。

7－3．データ設定



7－3－1．ポイント配置

歯冠長のポイント配置と歯列弓長のポイント配置を切り替えます。

7－3－2．キャリブレーション設定

5－3－2　参照

7－3－3．ポイント追加

歯列弓長のポイント配置時に特徴点の追加を行います。

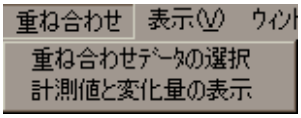
7－3－4．ポイント削除

歯列弓長のポイント配置時に追加された特徴点の削除を行います。

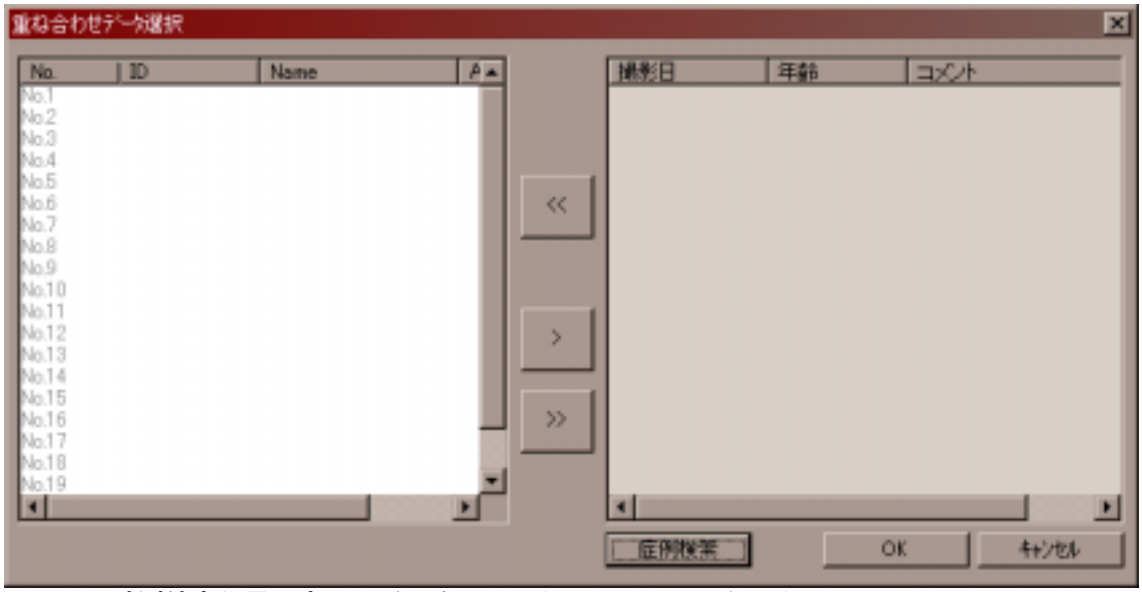
7－3－5．ポイントクリア

歯列弓長のポイント配置時に追加された特徴点を全て削除します。

７－４．重ね合わせ



７－４－１．重ね合わせデータの選択



計測値変化量の表示で重ね合わせを行うデータの選択を行います。

「>」ボタンで現在選択されているデータの選択を解除します。
「>>」ボタンで全てのデータをリストから削除します。

画面右側のリストから任意のデータを選択し、「<<」ボタンを押すと、画面左側のリストの上から空いているスペースにデータを設定します。
画面右側のリストからダブルクリックで選択したときは、左のリストで選択中のデータと入れ替えます。

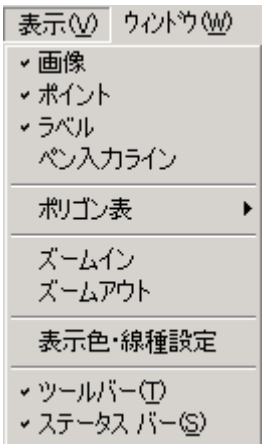
「症例検索」ボタンを押すと、患者リストが表示されるので、任意の患者を選択します。

右のリストで複数選択するには、Shift キーを押しながら、選択する最初と最後のデータを順にクリックまたは、Ctrl キーを押しながら任意のデータをクリックまたは、マウスドラッグ（マウスの左ボタンを押しながらのマウス移動）による選択を行います。

７－４－２．計測値と変化量の表示

選択された重ね合わせデータで模型分析の計測値と変化量を表示します。

７－５．表示（V）



７－５－１．画像
画像の表示・非表示を選択します。

７－５－２．ポイント
分析ポイントの表示・非表示を選択します。

７－５－３．ラベル
ポイント名の表示・非表示を選択します。

７－５－４．ポリゴン表
ポリゴン表の表示様式の選択をします。

７－５－５．ズームイン
ウィンドウの拡大表示を行います。

７－５－６．ズームアウト
ウィンドウの縮小表示を行います。

７－５－７．表示色・線種設定
５－５－２１　参照

７－５－８．ツールバー（T）
ツールバーの表示・非表示を選択します。

７－５－９．ステータス バー（S）
ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

７－６．ウィンドウ(W)
５－６　参照

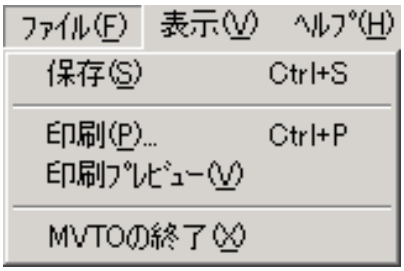
8．「ＭＶＴＯメニュー」リファレンス

ここでは、ＭＶＴＯ実行時に表示されるメニューの説明を行います。

8－1．Ｌａｔ．分析の選択

ＭＶＴＯ新規作成時に登録されているＬａｔ．分析からＭＶＴＯ作成に使用する分析を選択します。

8－2．ファイル（F）



8－2－1．保存（S）

現在分析中のデータ保存します。

8－2－2．印刷（P）

現在アクティブなウィンドウを印刷します。

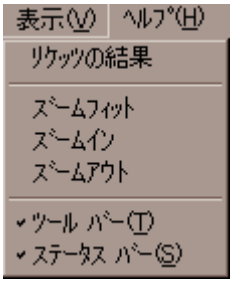
8－2－3．印刷プレビュー（V）

現在アクティブなウィンドウの印刷結果を画面に表示します。

8－2－4．MVTO の終了（X）

分析を終了します。

8－3．表示（V）



8－3－1．リケッツの結果

リケッツの結果表示を行います。

8－3－2．ズームフィット

表示を画面サイズに合わせます。

8－3－3．ズームイン

拡大表示を行います。

８－３－４．ズームアウト

縮小表示を行います。

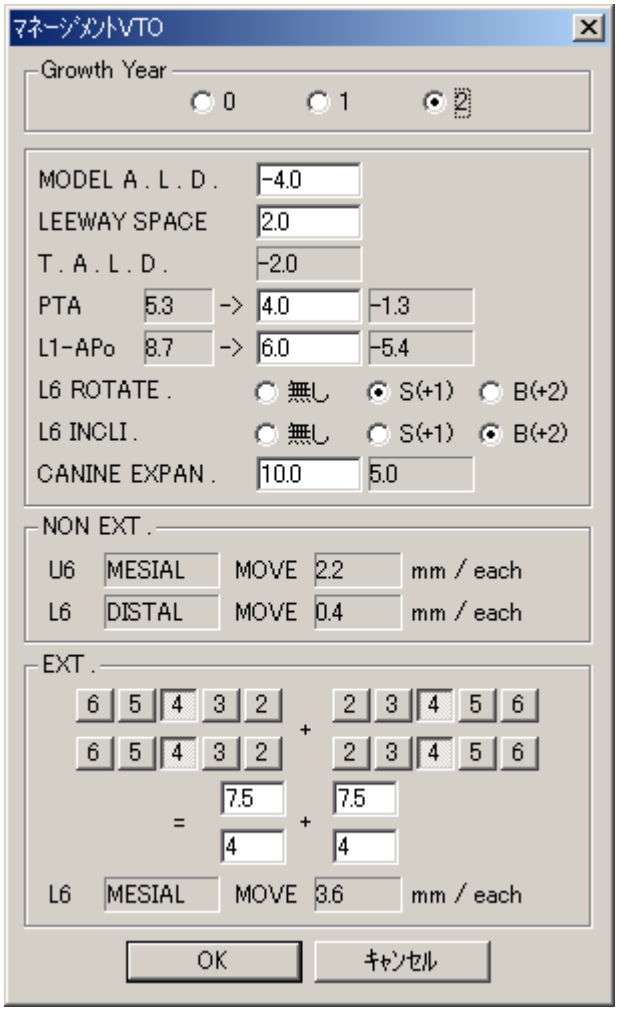
８－３－５．ツールバー（T）

ツールバーの表示・非表示を選択します。

８－３－６．ステータス バー（S）

ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

８－４．予測パラメータの設定

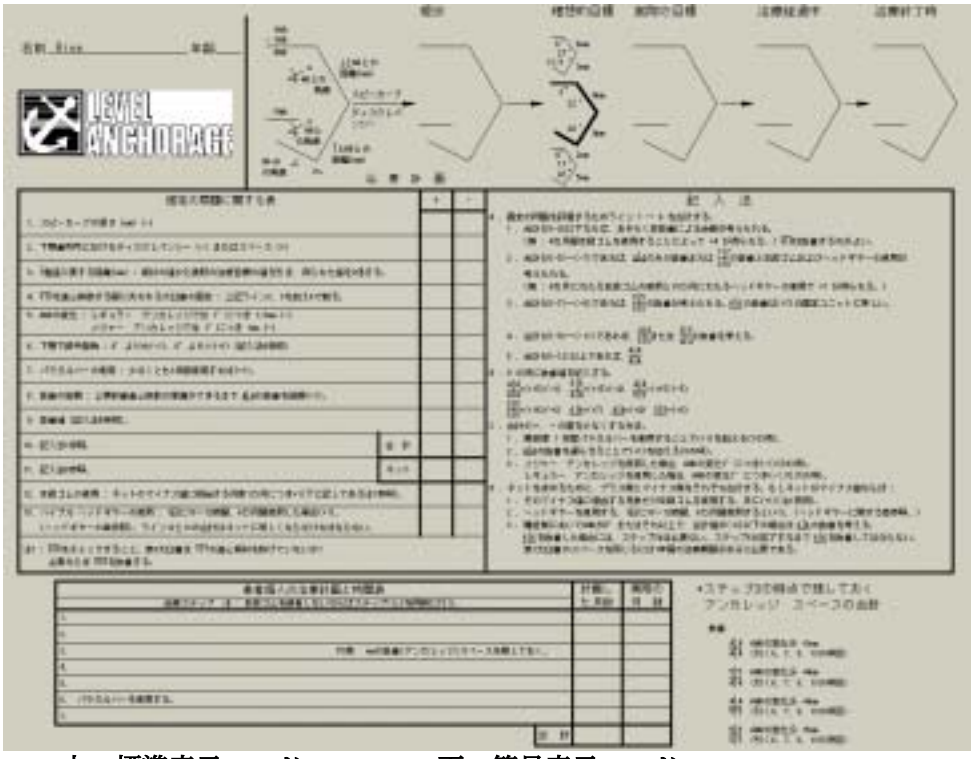


画面上でマウスの左ボタンをクリックすると、パラメータ設定画面が表示されます。
各パラメータの値を入力します。
抜歯が必要な場合は、上下左右の抜歯部位を選択します。抜歯部位を選択すると確保されるスペースの合計がそれぞれ表示されます。この値は手動でも入力できます。

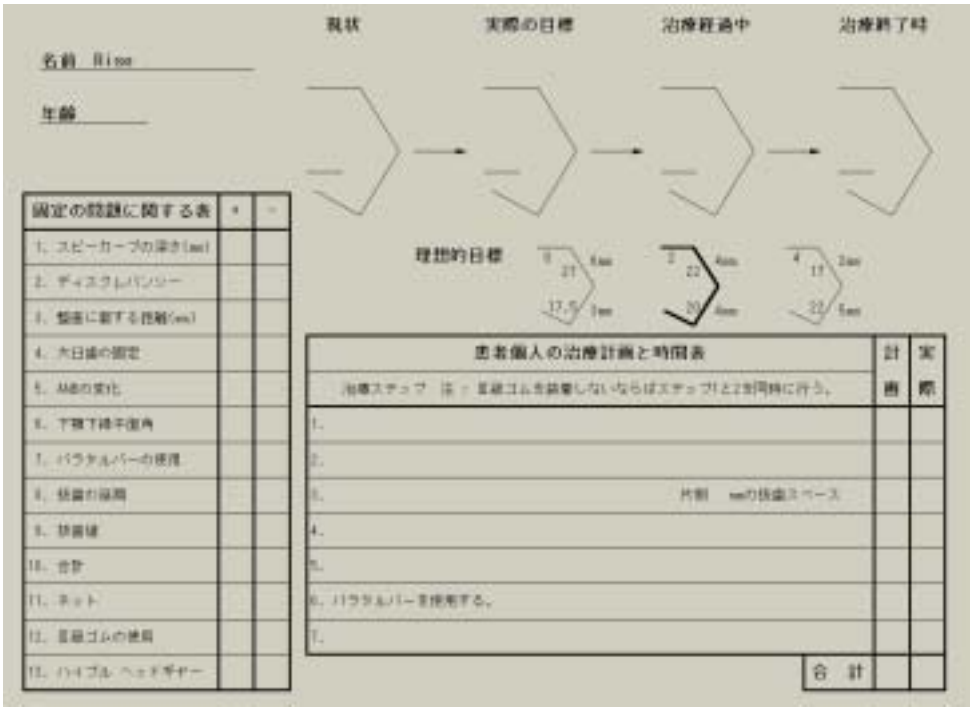
９．「ＬＡＳメニュー」リファレンス

ここでは、ＬＡＳ実行時に表示されるメニューの説明を行います。

９－１．ＬＡＳ画面説明

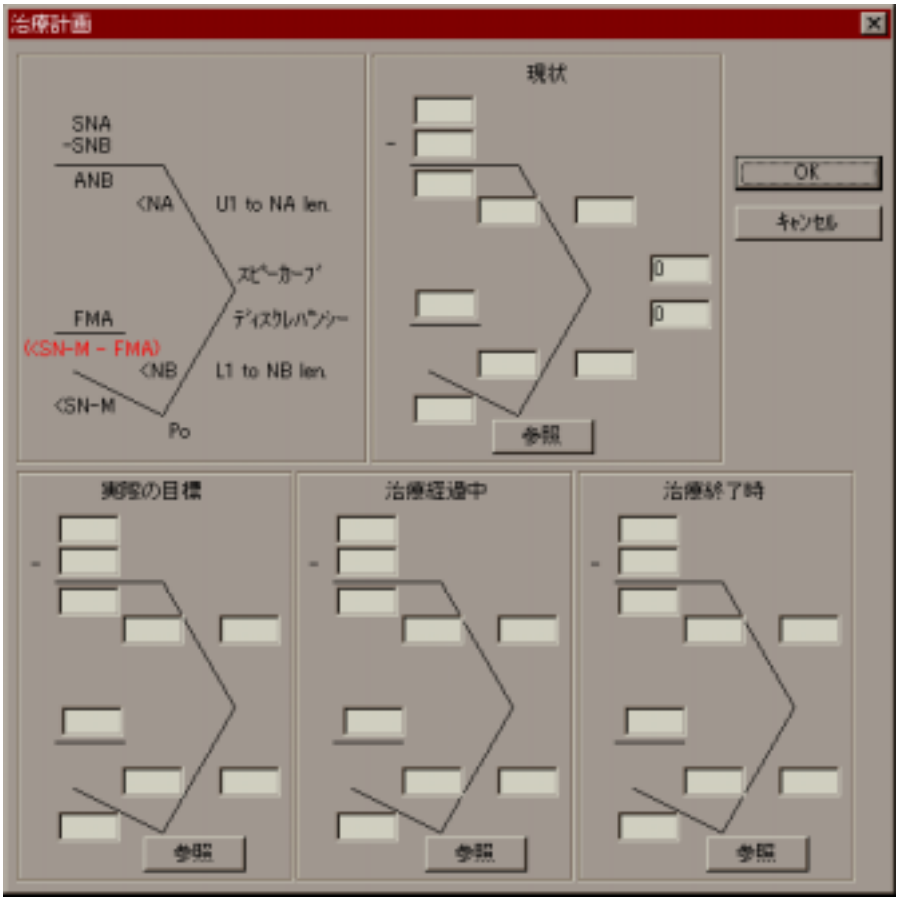


上：標準表示モード　　下：簡易表示モード



「治療計画」、「固定の問題に関する表」、「患者個人の治療計画と時間表」の各項目上でマウスの左ボタンをクリックすることで、入力画面を開きます。

９－１－１．治療計画

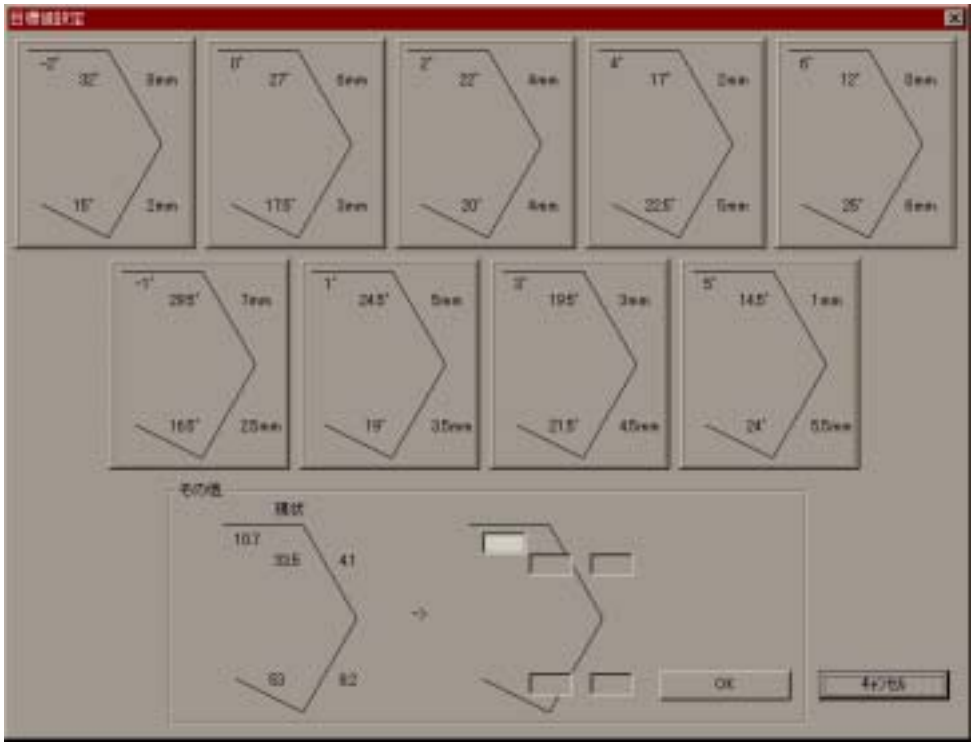


各項目を入力または、参照をクリックしデータを選択します。

分析データの選択

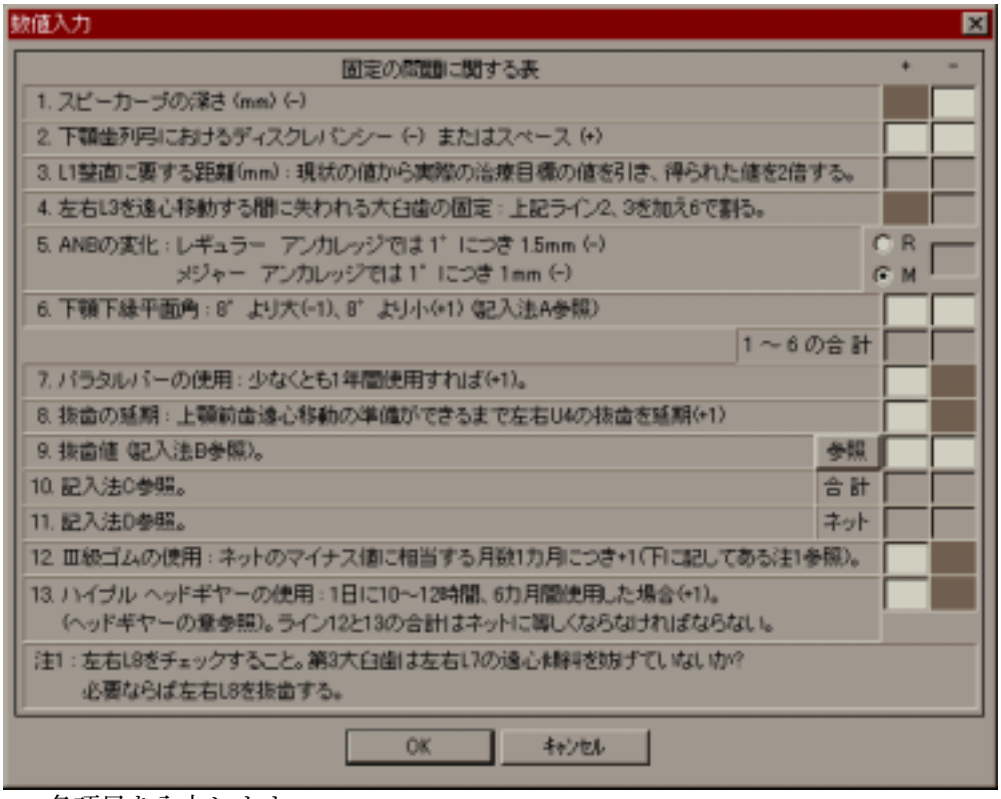
表示された患者のＬａｔ．分析データリストより任意のデータを選択します。患者選択をクリックし別患者のデータも参照できます。

目標の選択



表示されている各目標値から選択または、手動入力します。

９－１－２．固定の問題に関する表



各項目を入力します。

抜歯値の参照

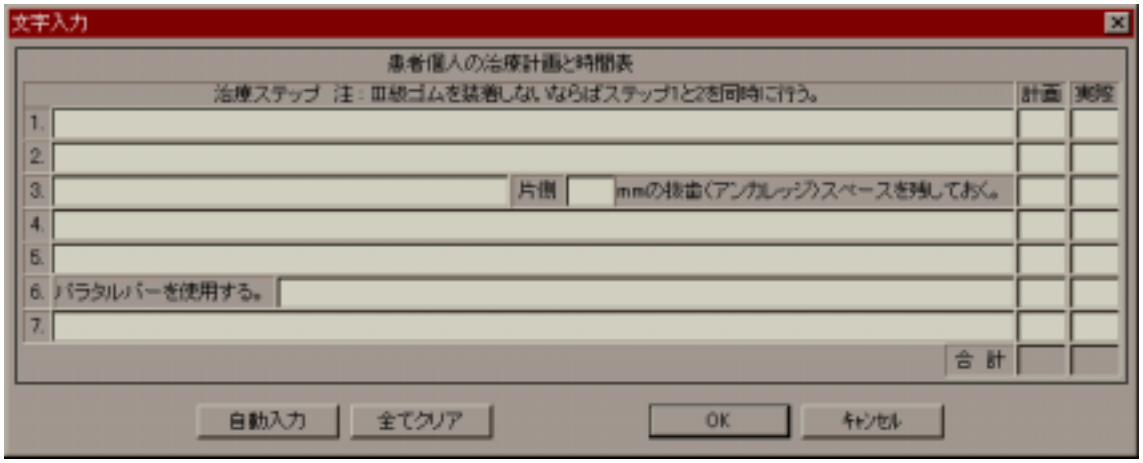
表示されている各抜歯部位を選択または、その他をクリックし任意に作成します。

抜歯値の作成

抜歯する上下左右任意の歯をクリックすると、アンカレッジ値の合計が表示されます。

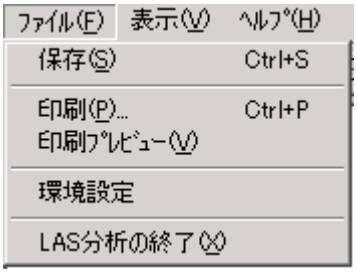
任意のアンカレッジ値を入力することもできます。

９－１－３．患者個人の治療計画と時間表



各項目を入力します。
自動入力……各項目を参照して自動で入力します。
全てクリア…患者個人の治療計画と時間表の全ての項目を初期化します。

９－２．ファイル（F）

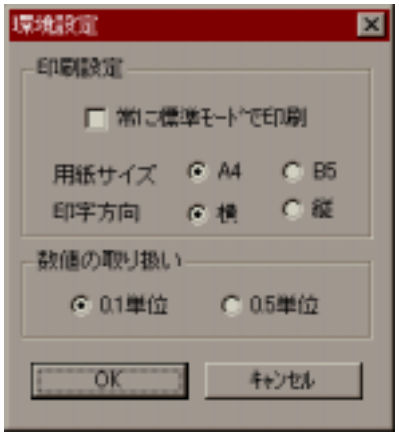


９－２－１．保存（Ｓ）
現在分析中のデータ保存します。

９－２－２．印刷（Ｐ）
ＬＡＳの表を印刷します。

９－２－３．印刷プレビュー（Ｖ）
現在アクティブなウィンドウの印刷結果を画面に表示します。

9－2－4．環境設定



印刷設定

常に標準モードで印刷…表示モードに関係なく常に標準モードで印刷します。

用紙サイズ……印刷する用紙サイズを選択します。

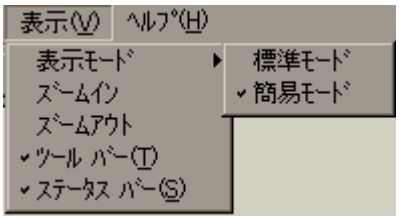
印字方向……プリンタの印字方向を選択します。

数値の取り扱い……小数点以下の数値の取り扱いを指定します。

9－2－5．LAS 分析の終了（X）

分析を終了します。

9－3．表示（V）



9－3－1．表示モード

表示モードの切り替えを行います。

9－3－2．ズームイン

拡大表示を行います。

9－3－3．ズームアウト

縮小表示を行います。

9－3－4．ツールバー（T）

ツールバーの表示・非表示を選択します。

9－3－5．ステータス バー（S）

ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

９－４．ツールバーの機能解説

現在分析中のデータ保存します。

ＬＡＳの表を印刷します。

表示モードを標準に切り替えます。

表示モードを簡易に切り替えます。

表示サイズをウィンドウサイズに合わせます。

拡大表示を行います。

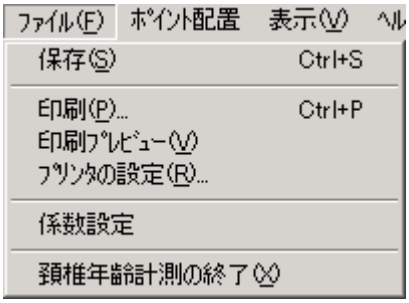
縮小表示を行います。

プログラムのバージョン情報を表示します。

１０．「頚椎年齢計測メニュー」リファレンス

ここでは、頚椎年齢計測実行時に表示されるメニューの説明を行ないます。

１０－１．ファイル（F）



１０－１－１．保存（S）

現在分析中のデータ保存します。

１０－１－２．印刷（P）

頚椎分析の結果を印刷します。

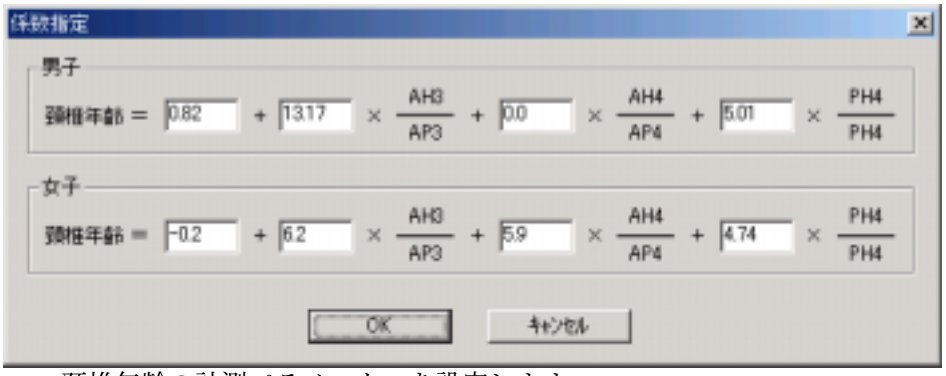
１０－１－３．印刷プレビュー（V）

頚椎分析の印刷結果を画面に表示します。

１０－１－４．プリンタの設定（R）

プリンタの使用機種、用紙等の設定を行ないます.

１０－１－５．係数設定



頚椎年齢の計測パラメーターを設定します。

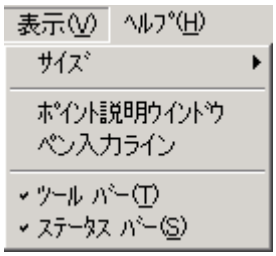
１０－１－６．頚椎年齢計測の終了（X）

頚椎年齢計測を終了します。

１０－２．ポイント配置

頚椎ポイントをＳＰ３、ＳＡ３、ＩＰ３、ＩＡ３、ＭＰ３、ＭＡ３、ＳＰ４、ＳＡ４、ＩＰ４、ＩＡ４、ＭＰ４、ＭＡ４の順に配置します。

１０－３．表示（Ｖ）



１０－３－１．サイズ

画像表示サイズを変更します。

１０－３－２．ポイント説明ウインドウ

ポイント説明ウインドウの表示・非表示を切り替えます。

１０－３－３．ペン入力ライン

画像処理で入力されたラインの表示・非表示の選択を行ないます。

１０－３－４．ツールバー（T）

ツールバーの表示・非表示を選択します。

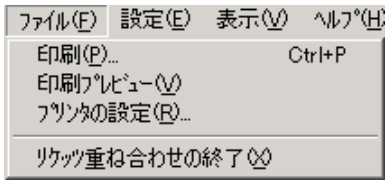
１０－３－５．ステータス バー（S）

ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

１１．「リケッツ重ね合せメニュー」リファレンス

ここでは、リケッツ重ね合せ実行時に表示されるメニューの説明を行ないます。

１１－１．ファイル（F）



１１－１－１．印刷（P）

重ね合せ画面を印刷します。

１１－１－２．印刷プレビュー（V）

重ね合せ画面の印刷結果を画面に表示します。

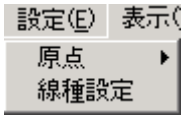
１１－１－３．プリンタの設定（R）

プリンタの使用機種、用紙等の設定を行います。

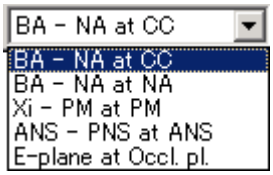
１１－１－４．リケッツ重ね合せの終了（X）

頚椎年齢計測を終了します。

１１－２．設定（E）



１１－２－１．原点



重ね合せの原点を指定します。
原点はツールバー上でも指定可能です。

１１－２－２．線種設定

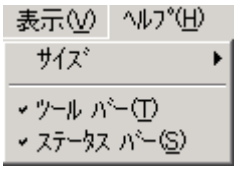
初期時の重ね合せの色と種類を指定します。

左のリストより変更したいラインを選択し、右上のコンボボックスで線の種類を選択し、ライン色ボタンで線の色を指定します。

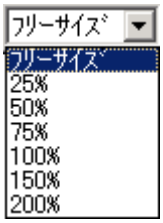
追加ボタンで一番下にラインを追加します。

減少ボタンで一番下のラインを削除します。

１１－３．表示（Ｖ）



１１－３－１．サイズ



画像表示サイズを変更します。
ツールバー上でも指定可能です。

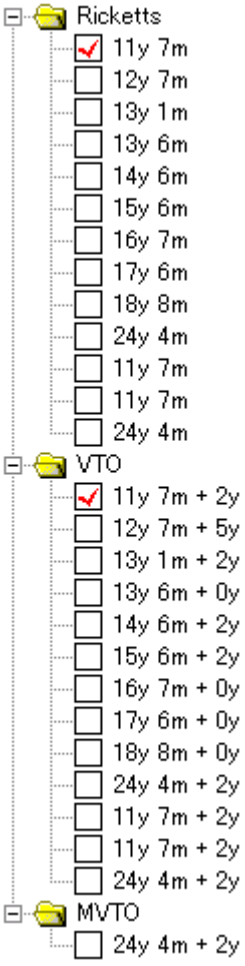
１１－３－２．ツールバー（T）

ツールバーの表示・非表示を選択します。

１１－３－３．ステータス バー（S）

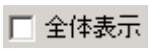
ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

１１－４．重ね合せデータ選択



リケッツ重ね合せを実行すると、選択中患者の分析済みデータがツリー形式で表示されます。

表示されたデータから重ね合せに使用するデータを選択してください。（赤いチェックが付きます）



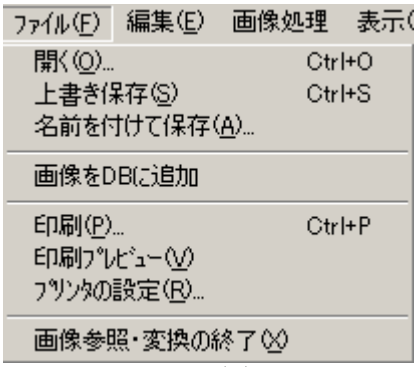
ツールバーの全体表示にチェックを付けておくと、選択されているデータの全てのリケッツラインが表示されます。

ツールバーの線種で左のリストより現在選択されているデータの色と線種を変更できます。

ツールバーの背景色で背景の色を指定できます。

１２．「画像処理メニュー」リファレンス

ここでは、画像処理実行時に表示されるメニューの説明を行います。



１２－１．ファイル（F）

１２－１－１．開く(O)

現在編集中の画像を閉じて新しく別の画像をファイルから開きます。

１２－１－２．上書き保存(S)

現在編集中の画像を上書き保存します。

１２－１－３．名前を付けて保存(A)

現在編集中の画像を別名で保存します。

１２－１－４．画像を DB に追加

現在編集中の画像を開かれている患者のデータベースに追加登録します。

１２－１－５．印刷(P)

現在編集中の画像を印刷します。

１２－１－６．印刷プレビュー(V)

現在編集中の画像の印刷結果を画面で確認します。

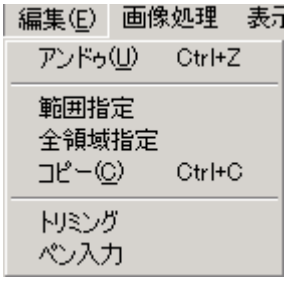
１２－１－７．プリンタの設定(R)

プリンタの機種、用紙等の設定を行ないます。

１２－１－８．画像参照・変換の終了(X)

現在編集中の画像を閉じて画像処理を終了します。

１２－２．編集(E)



１２－２－１．アンドゥ(U)

編集中の画像を１つ前の状態に戻します。

１２－２－２．範囲指定

画像処理領域をマウスドラッグで指定します。

１２－２－３．全領域指定

画像処理領域を画像全体に設定します。

１２－２－４．コピー(C)

指定領域の画像をクリップボードにコピーします。

１２－２－５．トリミング

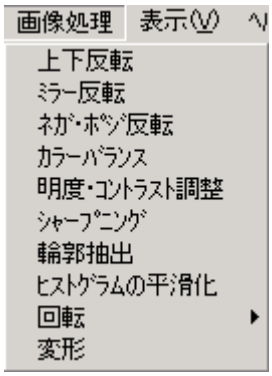
指定領域以外の画像を取り除きます。

１２－２－６．ペン入力

画像に自由曲線とスプライン曲線を書き込みます。

１２－５参照

１２－３．画像処理



１２－３－１．上下反転

指定領域の画像を上下反転します。

１２－３－２．ミラー反転

指定領域の画像を左右反転します。

１２－３－３．ネガ・ポジ反転

指定領域の画像をネガ・ポジ反転します。

１２－３－４．カラーバランス

指定領域のカラーバランスを変更します。

１２－３－５．明度・コントラスト調整

範囲指定した領域で「明度・コントラスト調整」を行います。
メニューを実行するとダイアログボックスが表示されます。
ここで確認しながら画像処理が行えます。

１２－３－６．シャープニング

指定領域の画像のシャープニング処理をします。

１２－３－７．輪郭抽出

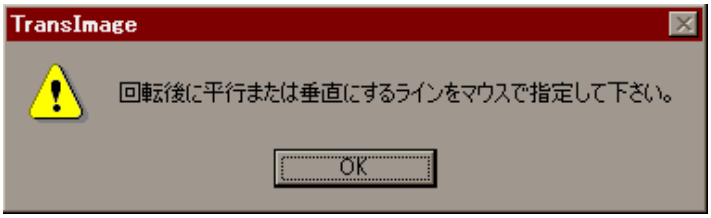
範囲指定した領域で「輪郭抽出」を行います。
メニューを実行するとダイアログボックスが表示されます。
ここで確認しながら画像処理が行えます。

１２－３－８．ヒストグラムの平滑化

指定領域の画像のヒストグラムを平滑化します。

１２－３－９．回転

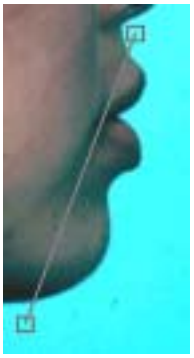
左回転……画像の全領域を反時計回りに 90 度回転します。
右回転……画像の全領域を時計回りに 90 度回転します。
任意回転



確認メッセージで“ＯＫ”ボタンをクリック後、マウスで平行または垂直にするラインをドラックしてください。指定したラインが平行か垂直の回転角度の小さいほうになるように画像の全領域が回転します。

１２－３－１０．変形

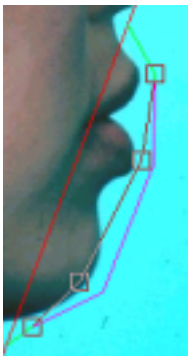
画像を任意変形します。



画像上に画像変形の基準線が表示されるので、上下２つの枠をマウスドラッグで移動し任意の位置に移動します。

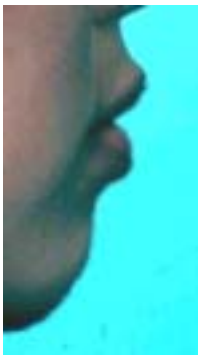
変形するための基準ポイントをマウスで指定していきます。

指定が終了したら操作メニューまたは、ツールバーの「ＯＫ」を選択します。



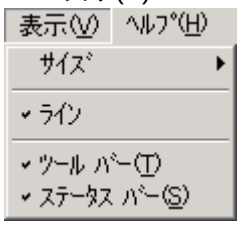
変形させたい箇所のポイントをマウスドラッグで移動します。

移動が終了したら操作メニューまたは、ツールバーの「ＯＫ」を選択します。



これで変形は完了です。

１２－４．表示(V)



１２－４－１．サイズ

画像の表示サイズを指定します。

１２－４－２．ライン

ペン入力ラインの表示・非表示を選択します。

１２－４－３．ツール バー(T)

ツールバーの表示・非表示を選択します。

左から

開く	（１２－１－１ 参照）
上書き保存	（１２－１－２ 参照）
範囲指定	（１２－２－２ 参照）
コピー	（１２－２－４ 参照）
左回転	（１２－３－８ 参照）
右回転	（１２－３－８ 参照）
ペン入力	（１２－２－６ 参照）
印刷	（１２－１－５ 参照）
バージョン確認	プログラムのバージョン情報を確認します。

に対応します。

１２－４－４．ステータス バー(S)

ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

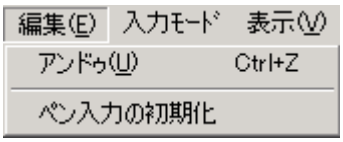
１２－５．ペン入力メニュー

ペン入力時はメニュー・ツールバーが切り替わります。

１２－５－１．操作

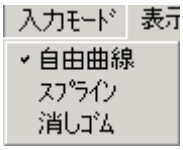
OK ……ペン入力を終了して通常メニューに戻ります。
Cancel ……ペン入力をキャンセルして通常メニューに戻ります。

１２－５－２．編集



アンドゥ……一つ前の状態に戻します。
ペン入力の初期化……全てのペン入力を削除します。

１２－５－３．入力モード



自由曲線……自由曲線を入力します。
スプライン……スプライン曲線を入力します。
スプライン入力中は指定済みポイントをドラッグして再移動できます。
消しゴム……入力されたラインをドラッグで削除します。

１２－５－４．ツールバー解説

左から

OK
Cancel
自由曲線
スプライン
消しゴム

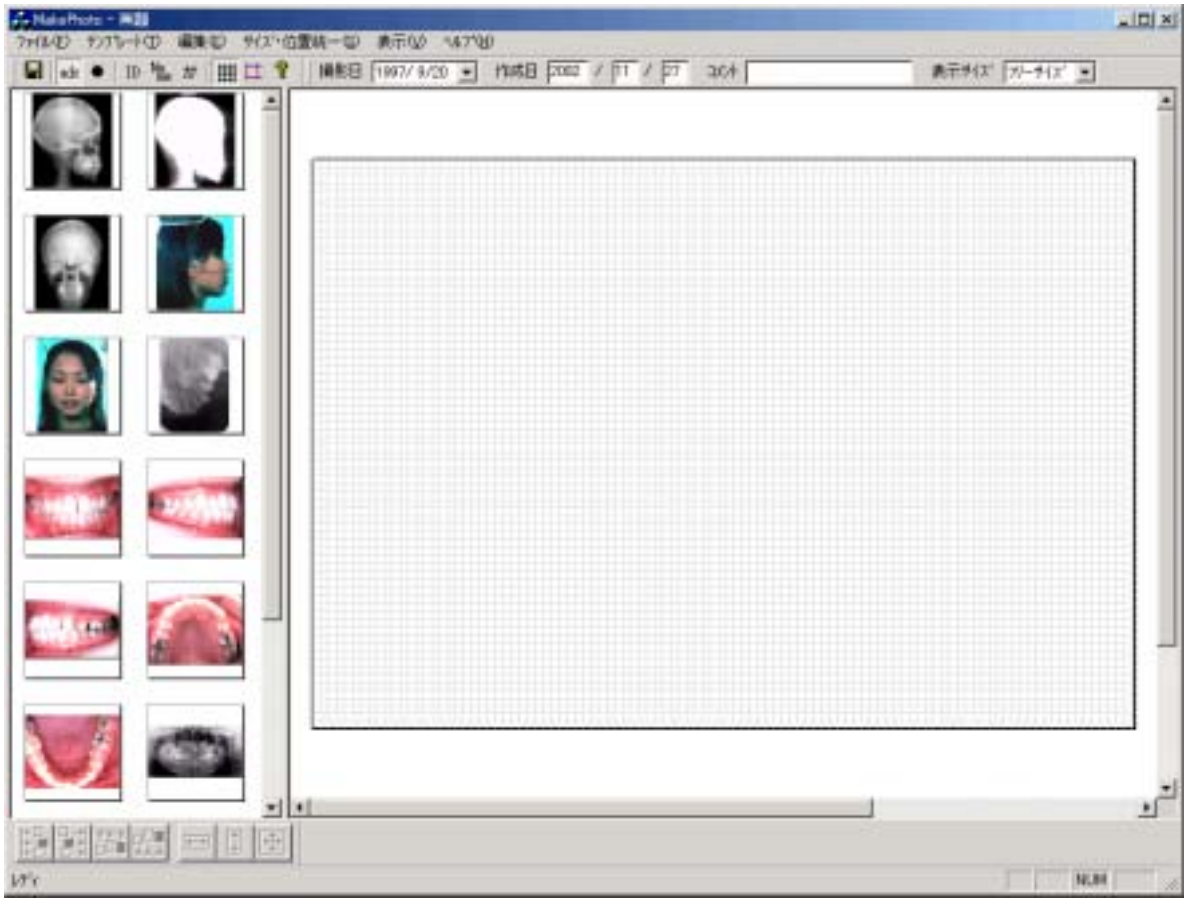
に対応します。

１３．「組み写真メニュー」リファレンス

ここでは、組み写真作成 & 参照時に表示されるメニューの説明を行ないます。

１３－１．組み写真の新規作成・編集

組み写真の新規作成または編集を実行すると、以下の画面が開きます。

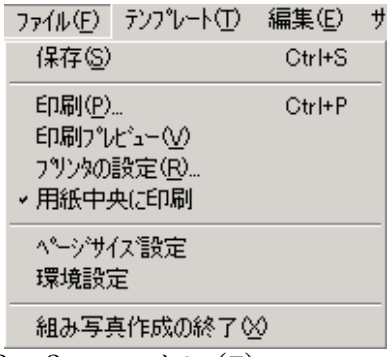


組み写真作成の基本的な流れは

テンプレート選択→撮影日指定→画像貼り付け

となります。

画像の貼り付けは左の画像一覧からドラッグ＆ドロップで行います。



１３－２．ファイル（F）

１３－２－１．保存(S)
現在編集中の組み写真を保存します。

１３－２－２．印刷(P)
現在編集中の画像を印刷します。

１３－２－３．印刷プレビュー(V)
現在編集中の画像の印刷結果を画面で確認します。

１３－２－４．プリンタの設定(R)
プリンタの機種、用紙等の設定を行います。

１３－２－５．用紙中央に印刷
印刷時に用紙の中央に印刷します。

１３－２－６．ページサイズ設定
組み写真の作成サイズを指定します。

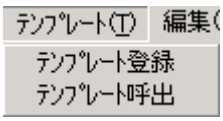
用紙と方向を指定、もしくは幅と高さをピクセル単位で指定します。

１３－２－７．環境設定

組み写真作成時の画像読み込みサイズを指定します。
この値が小さいほど、画像移動時のレスポンスが良くなります。
実際に印刷する場合は縮小無しで読み込みます。

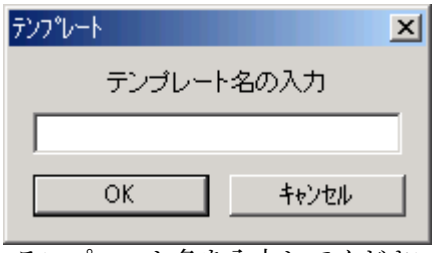
１３－２－８．組み写真作成の終了(X)
組み写真作成を終了します。

１３－３．テンプレート



１３－３－１．テンプレート登録

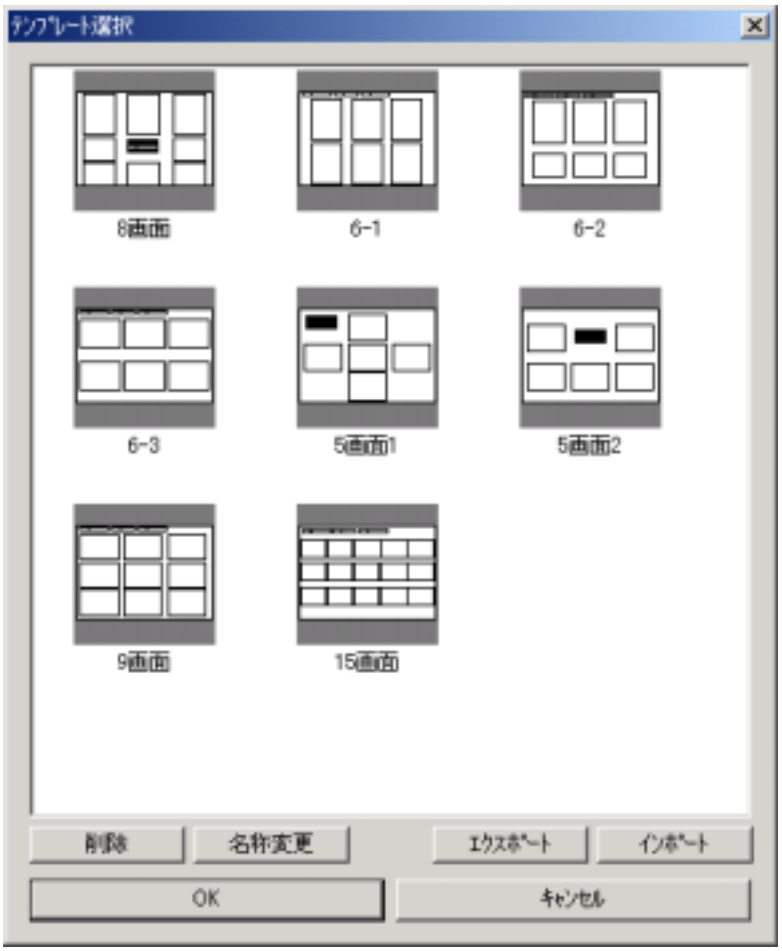
現在編集中の組写真をテンプレートとして登録します。



テンプレート名を入力してください。

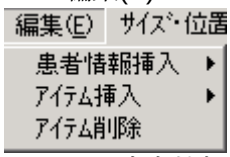
１３－３－２．テンプレート呼出

登録されたテンプレート一覧から使用するテンプレートを選択します。



削除……選択されたテンプレートを削除します。
名称変更……選択されたテンプレートの名称を変更します。
エクスポート……選択されたテンプレートを外部ファイルに保存します。
インポート……テンプレートファイルを取り込みます。

１３－４．編集(E)



１３－４－１．患者情報挿入

ＩＤ、氏名などの患者情報を挿入します。

１３－４－２．アイテム挿入

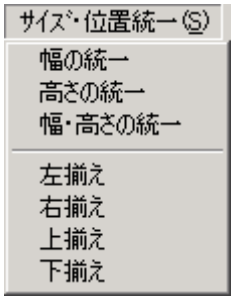
文字列・●（目隠し）を挿入します。

患者情報・アイテムを挿入する場合は、各メニュー実行後挿入したい位置でマウスドラックしてください。

１３－４－３．アイテム削除

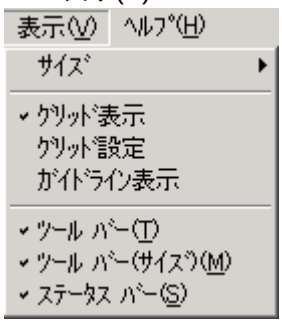
選択中のアイテムを削除します。

１３－５．サイズ・位置統一



それぞれ、アイテムを複数選択している場合に■が四隅に付いているアイテム（その他の選択アイテムには□が付きます）に合わせてサイズ、位置を統一します。
アイテムを複数選択するには、●入力以外のモード時にマウスドラックで複数のアイテムを囲むか Ctrl キーを押しながらアイテムをクリックします。このときに最後に選択されたアイテムに■が付きます。■が付いたアイテムを Ctrl キーを押しながらクリックすると選択が解除されます。
どの入力モードの時にもマウスの右クリックで文字列の入力モード（デフォルト）になります。

１３－６．表示(V)



１３－６－１．サイズ

表示サイズを指定します。フリーサイズのときにはウィンドウサイズに合わせます。

１３－６－２．グリッド表示

グリッドラインの表示・非表示を切り替えます。グリッドが表示されている
ときは、アイテム移動時にグリッド上にしか移動しなくなります。

１３－６－３．グリッド設定

グリッドラインの幅を指定します。

１３－６－４．ガイドライン表示

ガイドライン（縦横それぞれ２本）の表示・非表示を切り替えます。
ガイドラインはマウスで任意の位置に移動可能です。

１３－６－５．ツール バー(T)

ツールバーの表示・非表示を選択します。
左から

保存
文字列入力
●入力
ID 入力
氏名入力
フリガナ入力
グリッド表示
ガイドライン表示
バージョン確認　プログラムのバージョン情報を確認します。

１３－６－６．ツール バー(サイズ)(M)

サイズ・位置統一用のツールバーの表示・非表示を選択します。
左から

左揃え、右揃え、上揃え、下揃え
幅の統一、高さの統一、幅・高さの統一

に対応します。

１３－６－７．ステータス バー(S)

ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

１３－７．情報表示バー

１３－７－１．撮影日

画像の撮影日を指定します。ウィンドウ左の画像リストには指定された撮影日の画像が表示されます。
[>]ボタンクリックで作成日に撮影日をセットできます。

１３－７－２．作成日

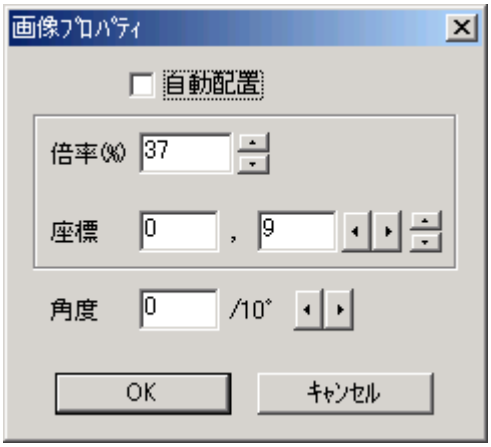
作成日を入力します。年齢は作成日の年齢となります。

１３－７－３．コメント

ここで入力されたコメントは組み写真リストに表示されます。

１３－７－４．表示サイズを指定します。

１３－８．画像サイズ・オフセット位置の調整

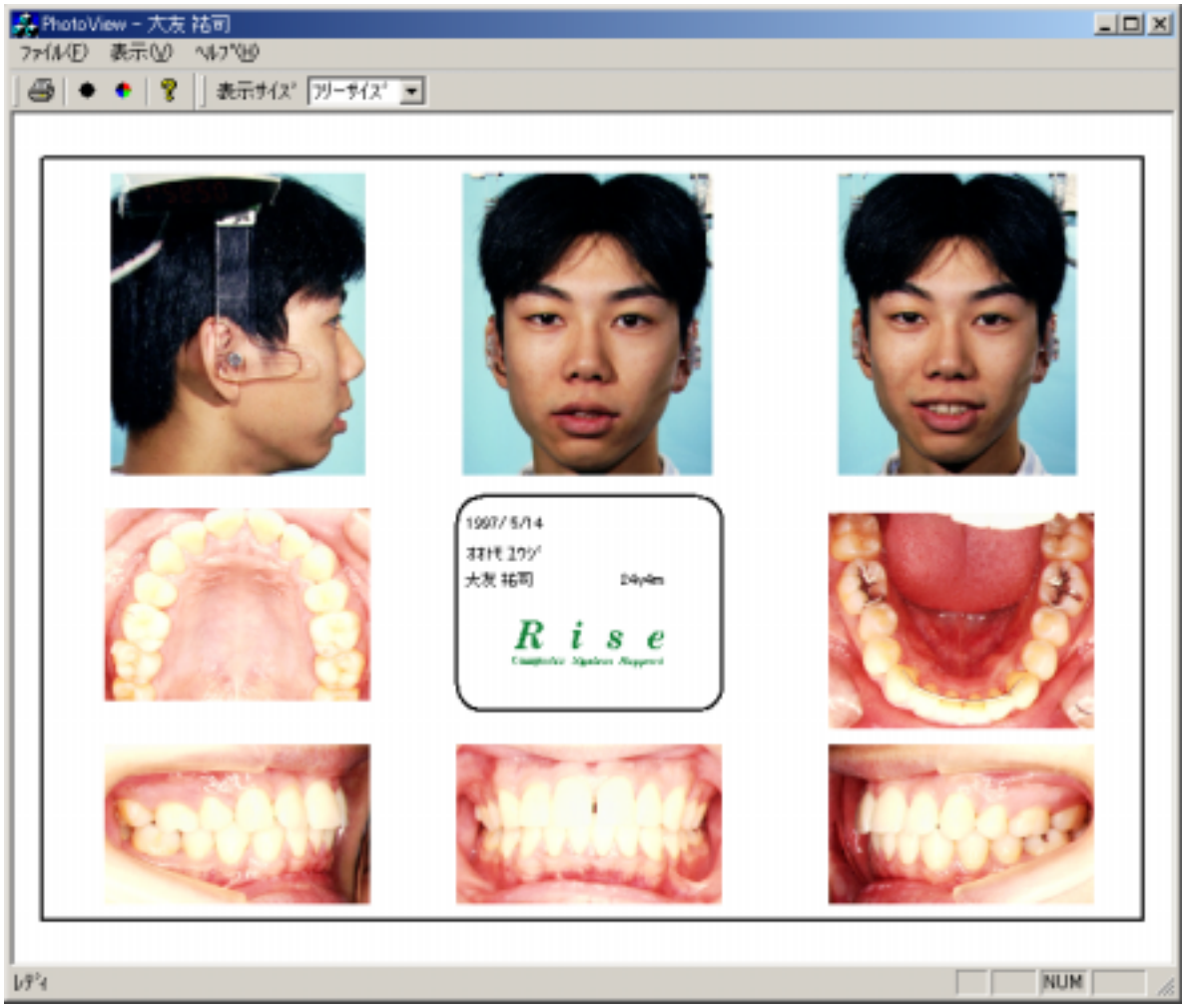


貼り付けた画像をダブルクリックすると、画像プロパティを表示します。
ここで画像の大きさ、位置、角度の指定が行えます。

また、貼り付けた画像を Shift キーを押しながらドラッグすることで
オフセット位置の調整が行えます。

１３－９．組み写真の表示・印刷

作成済みの組み写真の表示・印刷を実行すると、以下の画面が表示されます。



表示メニューで●（目隠し）の表示・非表示、色が切り替えられます。

ツールバー解説

左から

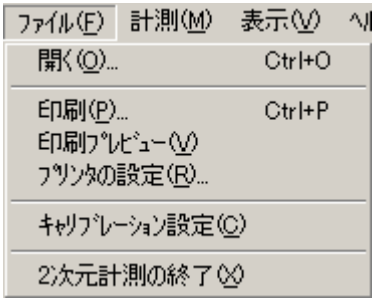
印刷
●の表示切替
●の色指定
バージョン情報の表示
表示サイズの指定

となります。

１４．「画像計測メニュー」リファレンス

ここでは、画像計測実行時に表示されるメニューの説明を行ないます。

１４－１．ファイル(F)



１４－１－１．開く(O)

現在編集中の画像を閉じて新しく別の画像をファイルから開きます。

１４－１－２．印刷(P)

現在編集中の画像を印刷します。

１４－１－３．印刷プレビュー(V)

現在編集中の画像の印刷結果を画面で確認します。

１４－１－４．キャリブレーション設定(C)

５－３－２．参照

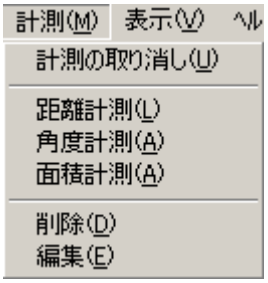
１４－１－５．プリンタの設定(R)

プリンタの機種、用紙等の設定を行います。

１４－１－６．２次元計測の終了(X)

現在編集中の画像を閉じて計測を終了します。

１４－２．計測(M)



１４－２－１．計測の取り消し(U)

最後に追加された計測の取り消しとやり直し。

１４－２－２．距離計測(L)

画面上任意の２点をマウスクリックし距離を計測します。

１４－２－３．角度計測(A)

画面上任意の３点をマウスクリックし角度を計測します。

１４－２－４．面積計測(A)

画面上任意の点（３～５０）をマウスクリックし囲まれた領域の面積を計測します。
右クリックで指定終了となります。

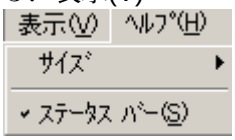
１４－２－５．削除(D)

画面上任意の計測アイテムのラベルをクリックし削除します。

１４－２－６．編集(E)

画面上任意の計測アイテムのラベルをクリックしポイントの移動・追加・削除を行ないます。

１４－３．表示(V)



１４－３－１．サイズ

画像の表示サイズを指定します。

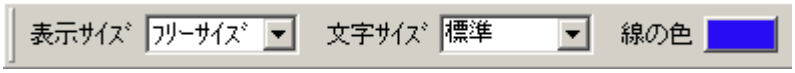
１４－３－２．ステータス バー(S)

ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

１４－４．ツールバー解説

左から

画面スクロール	画面ドラッグでスクロールします。
距離計測	２点間距離の計測
角度計測	３点の角度を計測
面積計測	任意数の点で囲まれた領域の面積計測
削除	任意アイテムの削除
編集	任意アイテムのポイント修正
印刷	画面の印刷
バージョン確認	プログラムのバージョン情報を確認します。



表示サイズ	画面の表示サイズを変更します。
文字サイズ	ラベルの文字サイズを変更します。
線の色	線の表示色を変更します。

計測アイテム編集用ツールバーです。

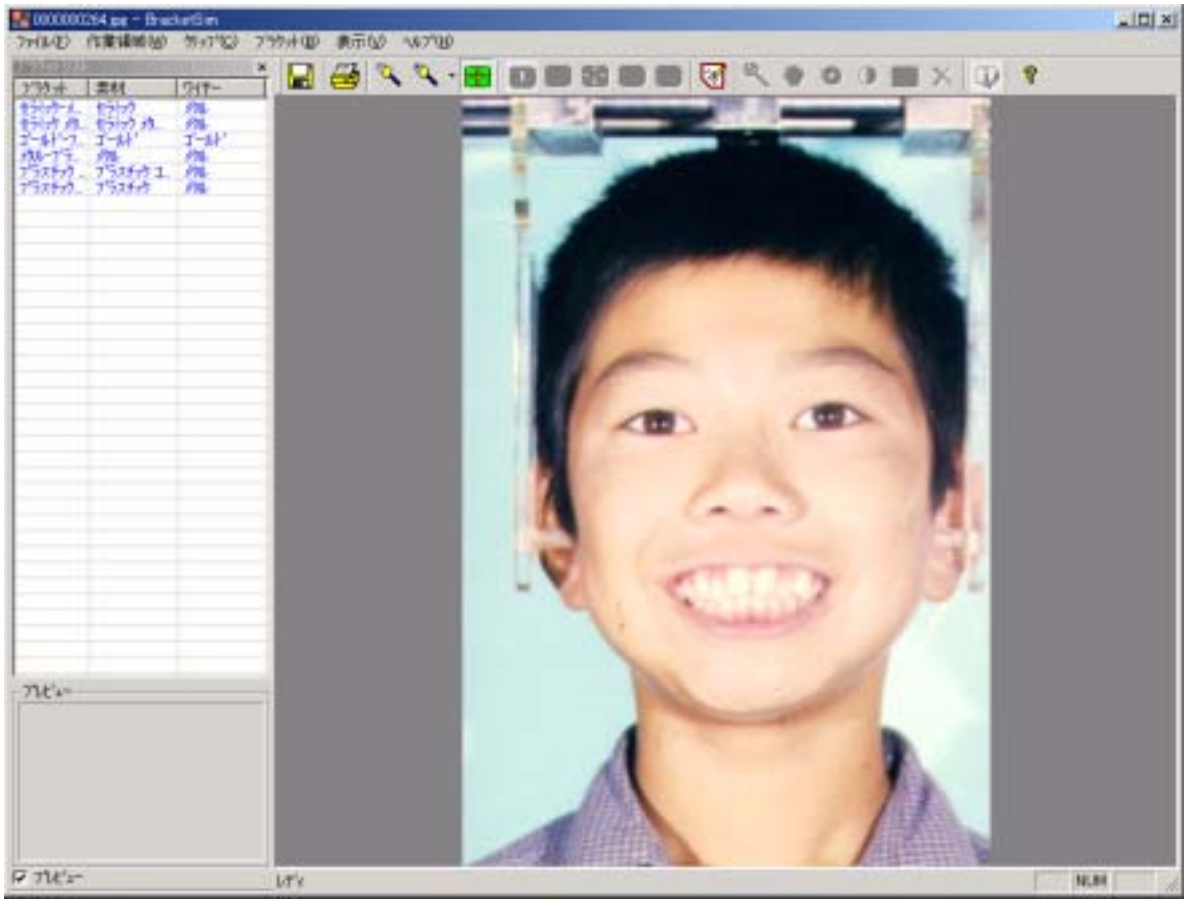
左から

ポイント移動	任意のポイントをドラッグで移動します。
ポイント追加	面積アイテムの任意の位置にポイントを追加します。
ポイント削除	面積アイテムの任意のポイントを削除します。
ＯＫ	アイテム編集を終了します。
キャンセル	アイテム編集を取り消します。

１５．「ブラケットシミュレーション」リファレンス

ここでは、ブラケットシミュレーションの操作手順および実行時に表示されるメニューの説明を行います。

１５－１．起動画面



画面左側のブラケットリストから画像上にブラケットをドラッグまたはダブルクリックで貼付けできます。

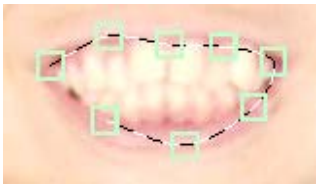
画面左下のプレビューにチェックマークを付けておくと選択されたブラケット画像のプレビュー表示を行ないます。

１５－２．クリッピング

画像上にブラケットを貼り付ける領域をクリッピングします。

クリップメニューまたはツールバーよりクリップ領域指定を実行します。
クリップ領域指定を実行すると、下図のクリップツールが表示されます。

画像上の任意の場所でマウスの左クリックをして領域を囲んでいきます。



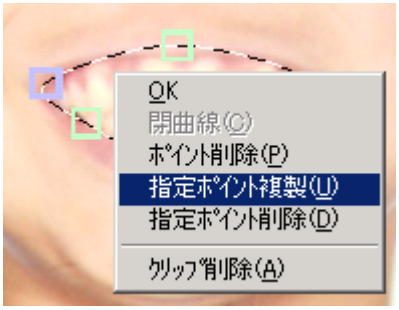
指定済みのポイントをドラッグすると移動できます。

ポイント削除
クリップツールの削除ボタンまたは右クリックで表示されるメニューのポイント削除で最後に配置したポイントを削除できます。

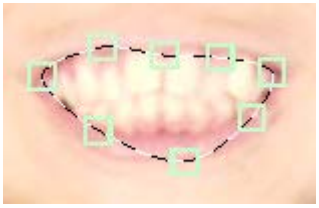
閉曲線
クリップツールの閉曲線ボタンまたは右クリックで表示されるメニューの閉曲線を実行すると、クリップ領域を閉じます。
クリップ領域を閉じると、右クリックまたはツールバーより以下のメニューが実行可能になります。

指定ポイント複製
選択ポイント（青枠で表示）と同じ場所にポイントを追加します。

指定ポイント削除
選択ポイント（青枠で表示）を削除します。



終了
クリップ領域の指定が終わったら OK ボタンまたは右クリックで表示されるメニューの OK で終了します。



１５－３．ブラケットの貼付け

任意の画像上にブラケットリストよりドラッグまたはダブルクリックすることでブラケットが張り付きます。

ブラケットを貼り付けた画像に対して再度貼付け操作を行なうと、ブラケット画像の交換を行ないます。

ブラケット移動

貼り付けたブラケットをマウスクリックで選択し、ブラケットメニューの移動またはツールバーの移動ボタンでブラケットの移動・回転が行なえます。

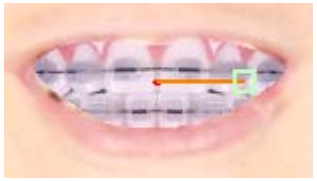
ブラケットをドラッグすると移動します。
ブラケット内の緑枠の領域をドラッグすると、回転します。

ブラケット回転

貼り付けたブラケットをマウスクリックで選択し、ブラケットメニューの回転またはツールバーの回転ボタンでブラケットの回転が行なえます。
ブラケットをドラッグすると回転します。

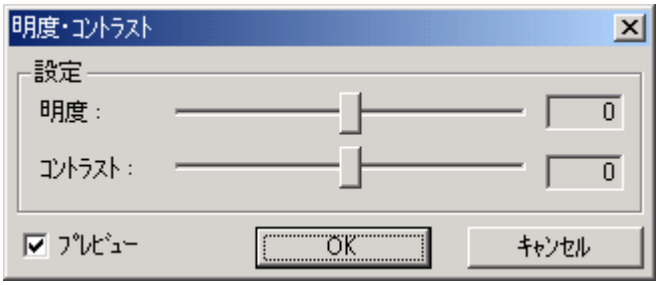
ブラケットサイズ変更

貼り付けたブラケットをマウスクリックで選択し、ブラケットメニューの拡大・縮小またはツールバーの拡大・縮小ボタンでブラケットのサイズ変更が行なえます。
ブラケットを上下にドラッグすると拡大・縮小します。



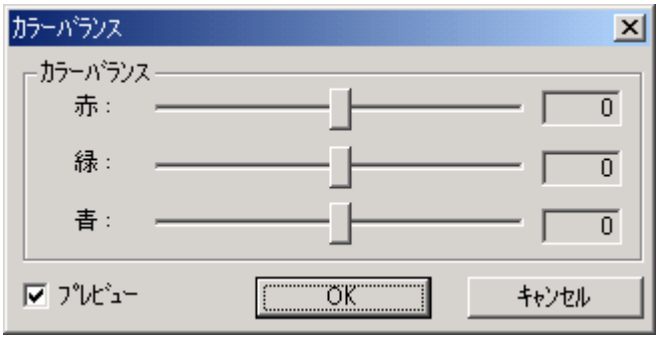
明度・コントラスト調整

ブラケットメニューの明度・コントラストまたはツールバーの明度・コントラストボタンでブラケット画像の明度・コントラスト調整が行えます。



カラーバランス変更

ブラケットメニューのカラーバランスまたはツールバーのカラーバランスでブラケットカラーバランス変更が行えます。



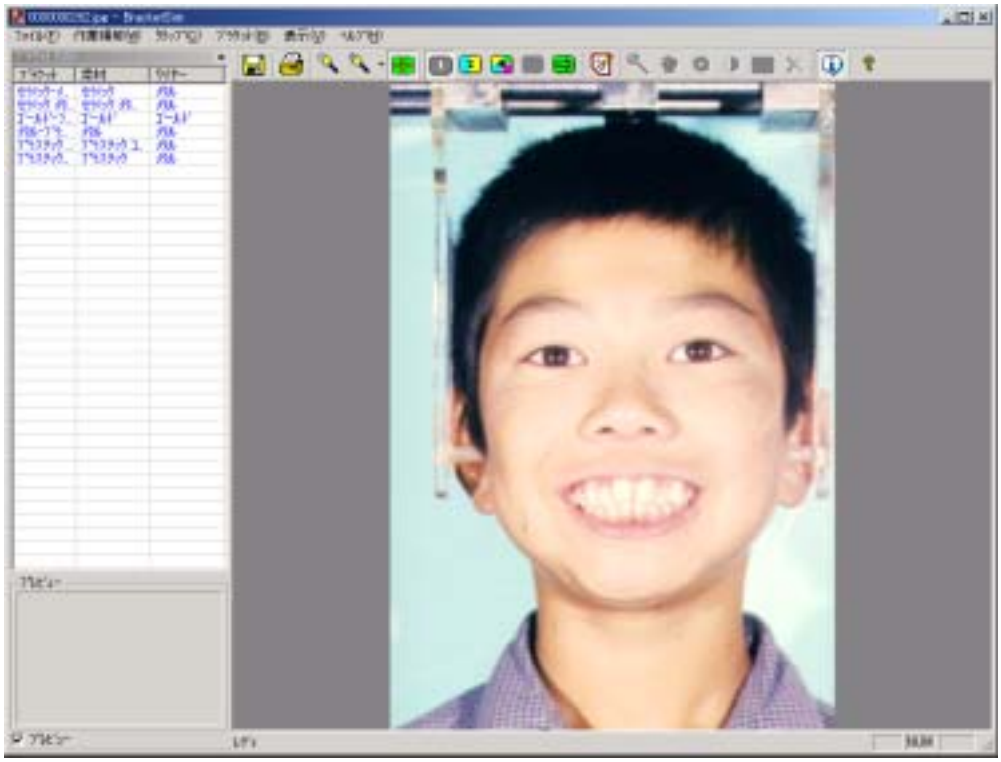
それぞれプレビューにチェックマークを付けておくと画像上に処理結果が反映されます。

１５－５．マルチ表示

最大４つまでのマルチ表示が可能です。マルチ表示した場合は１番目の表示エリア（左上）は原画参照用となりますのでブラケットの貼付けはできません。
クリップ領域を設定するとマルチ表示用のツールバーが有効になります。

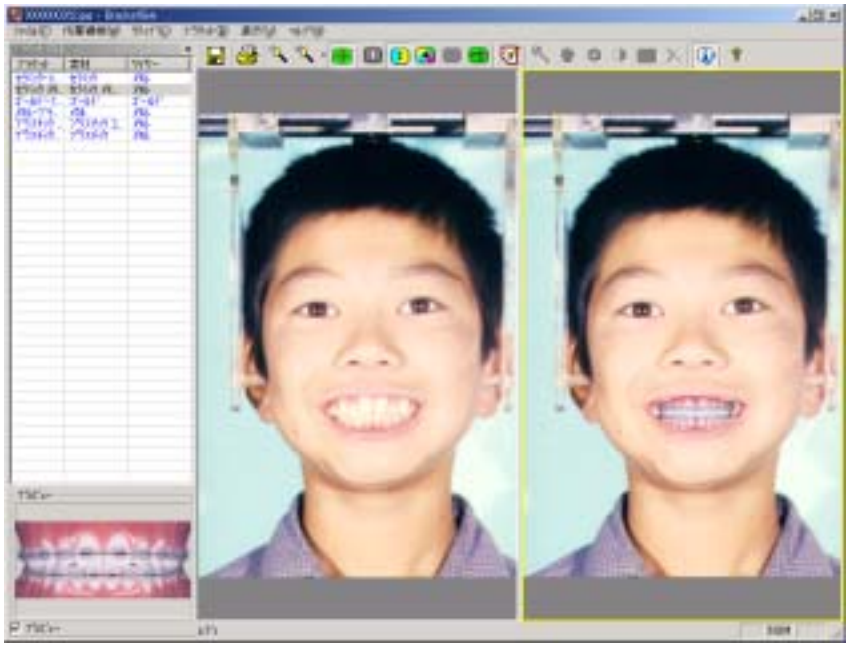
ツールバーを操作することで画像表示数と表示画像の指定が行えます。

１画面表示モード



初期状態では常にこのモードになっています。マルチ表示用のツールバーの矢印ボタンで作業領域の切り替えが行えます。
作業領域を切り替えながらブラケットを貼付けることで、最大３つのブラケットが同時に貼付け可能です。

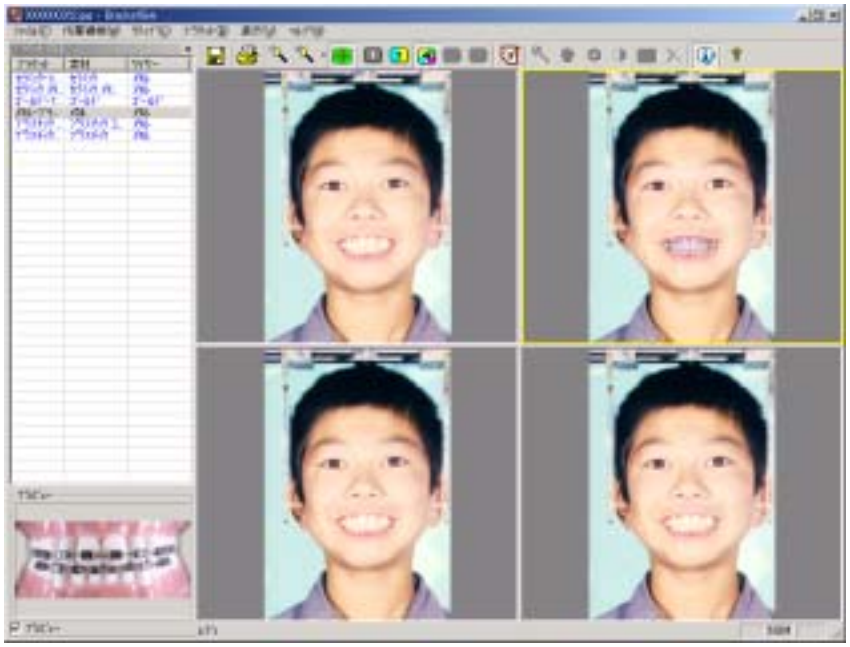
２画面モード



２画面モードでは左側は常に原画参照用となります。ブラケットの貼付け等の作業を行う時は右側の作業領域を選択します。選択領域には黄色の枠が表示されます。

マルチ表示用のツールバーの矢印ボタンで作業領域の切り替えが行えます。

４画面モード

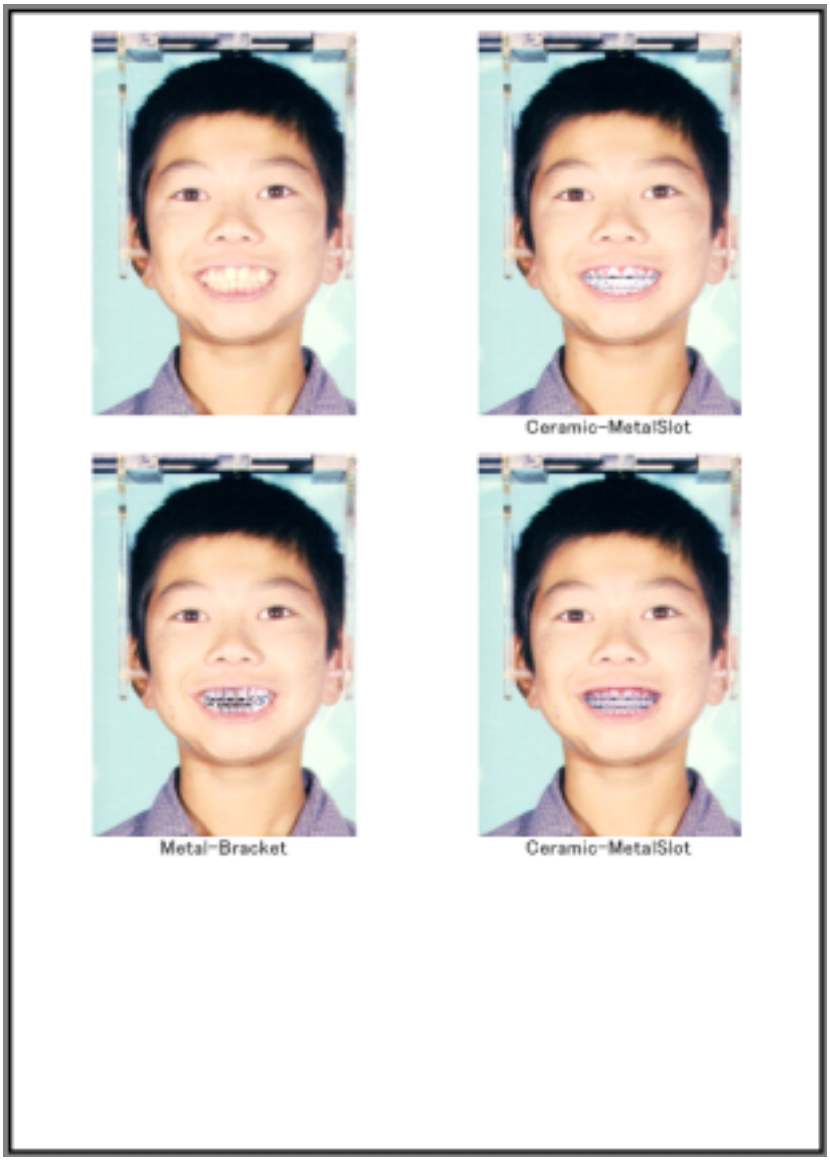


４画面モードでは左上が原画参照用となり、残りの３つが作業領域となります。

２画面・４画面モードともに表示領域の枠をドラッグすることにより各領域のサイズを変更できます。

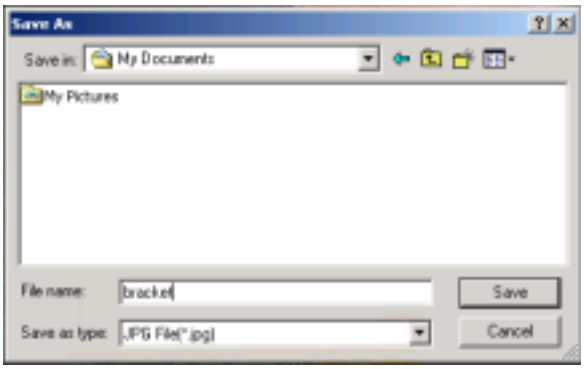
１５－６．印刷

ファイルメニューの印刷またはツールバーの印刷ボタンで現在の表示モードに合わせた印刷が可能です。
４画面モードの場合は以下の印刷結果が得られます。



１５－７．画像保存

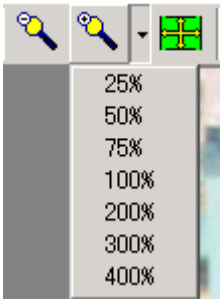
ファイルメニューの画像保存またはツールバーの保存ボタンで作業結果を Jpeg 画像として保存できます。



保存メニューを実行すると保存ファイル指定ダイアログが表示されるので任意のファイル名を指定してください。

１５－８．その他

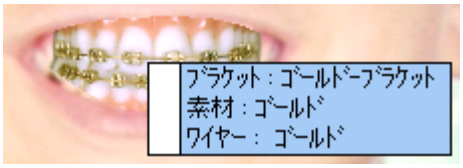
表示サイズの調整



ツールバーの縮小・拡大ボタンで表示サイズの調整が行なえます。拡大ボタンの右の▼をクリックし倍率を選択すると、指定倍率で表示されます。その右のフィットサイズボタンで表示領域に合わせたサイズとなります。

情報表示

ツールバーの情報表示ボタンで貼付けたブラケットの情報表示のＯＮ・ＯＦＦが切り替えられます。



選択されている作業領域内のブラケット画像上にマウスカーソルを移動するとブラケットの情報がポップアップ表示されます。

ツールバー

左から

画像保存	作業結果を Jpeg 画像で保存
印刷	作業結果の印刷

拡大・縮小

縮小	画像を縮小表示
拡大	画像を拡大表示 （ドロップダウンで指定倍率選択）
フィットサイズ	画像を画面サイズに合わせて表示

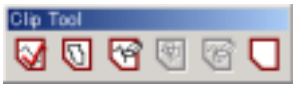
作業領域

１	１画面表示表示モード
２	２画面表示表示モード
４	４画面表示表示モード
前の画像	前の画像を表示
次の画像	次の画像を表示

クリッピング

クリップ領域指定　　クリップモードの開始

[クリップツールバー]（右クリックで表示されるメニューと同じ）



ＯＫ	クリッピングの終了
閉曲線	閉曲線モードの実行
ポイント削除	最後に追加されたポイントの削除
指定ポイント複製	選択ポイントと同じ場所にポイントを追加
指定ポイント削除	選択ポイントを削除
クリップ削除	クリッピングの初期化

ブラケット

拡大・縮小	ブラケットの拡大縮小モード
移動	ブラケットの移動モード
回転	ブラケットの回転モード
明度コントラスト	ブラケットの明度・コントラスト調整
カラーバランス	ブラケットのカラーバランス調整
削除	ブラケットの削除
情報表示	ブラケット情報のポップアップ表示 ON/OFF

ヘルプ

バージョン情報	バージョン情報の表示

メニュー

ファイル

画像保存	作業結果を Jpeg 画像で保存
画像を WinCephDB に追加	作業結果をデータベースに保存
印刷	作業結果の印刷
印刷プレビュー	作業結果の印刷プレビュー
プリンタの設定	プリンタの設定変更
ブラケットシミュレーションの終了	

作業領域

フィットサイズ	画像を画面サイズに合わせて表示
画像数	
1	１画面表示表示モード
2	２画面表示表示モード
4	４画面表示表示モード
前の画像	前の画像を表示
次の画像	次の画像を表示

クリップ（右クリックで表示されるメニューと同じ）

クリップ領域指定	クリップモードの開始
ＯＫ	クリッピングの終了
閉曲線	閉曲線モードの実行
指定ポイント複製	選択ポイントと同じ場所にポイントを追加
指定ポイント削除	選択ポイントを削除
クリップ削除	クリッピングの初期化

ブラケット

拡大・縮小	ブラケットの拡大縮小モード
移動	ブラケットの移動モード
回転	ブラケットの回転モード
削除	ブラケットの削除
明度・コントラスト調整	ブラケットの明度・コントラスト調整
カラーバランス	ブラケットのカラーバランス調整
情報表示	ブラケット情報のポップアップ表示 ON/OFF

表示

ステータスバー	画面下のステータスバーの表示 ON/OFF
ブラケットビュー	画面右のブラケットリスト表示 ON/OFF
ブラケットツール	画面上のブラケットツールバー表示 ON/OFF

ヘルプ

バージョン情報	バージョン情報の表示

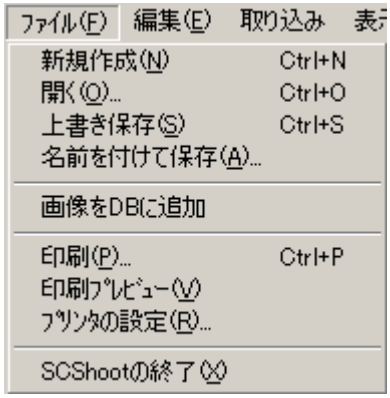
１６．「画像キャプチャーメニュー」リファレンス

ここでは、画像キャプチャー実行時に表示されるメニューの説明を行います。

１６－１．キャプチャープログラムの起動

Windows タスクバーの「スタート」メニューを開き「プログラム」メニューから「*WinCeph* 7.0」グループの「SCShoot」を選択します。
または、デスクトップの「SCShoot」アイコンをダブルクリックします。

１６－２．ファイル（F）



１６－２－１．新規作成(N)

現在表示されている画像をクリアします。

１６－２－２．開く(O)

現在編集中の画像を閉じて新しく別の画像をファイルから開きます。

１６－２－３．上書き保存(S)

現在編集中の画像を上書き保存します。

１６－２－４．名前を付けて保存(A)

現在編集中の画像を別名で保存します。

１６－２－５．画像を DB に追加

現在編集中の画像を開かれている患者のデータベースに追加登録します。

１６－２－６．印刷(P)

現在編集中の画像を印刷します。

１６－２－７．印刷プレビュー(V)

現在編集中の画像の印刷結果を画面で確認します。

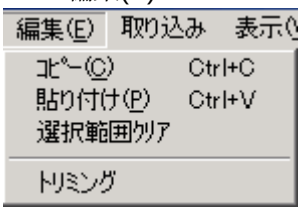
１６－２－８．プリンタの設定(R)

プリンタの機種、用紙等の設定を行います。

１６－２－９．SCShoot の終了(X)

現在編集中の画像を閉じて「SCShoot」を終了します。

１６－３．編集(E)



１６－３－１．コピー(C)

指定領域の画像をクリップボードにコピーします。

１６－３－２．貼り付け(P)

クリップボードの画像を貼り付けます。

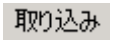
１６－３－３．選択範囲クリア

現在の領域選択を解除して範囲選択をやり直します。

１６－３－４．トリミング

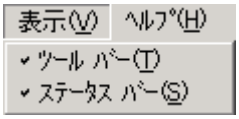
指定領域以外の画像を取り除きます。

１６－４．取り込み

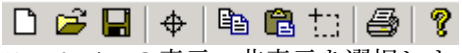


取り込みを実行すると、「SCShoot」が一旦閉じてカーソルの形が変わります。
カーソルを取り込みたい画面上に移動して左クリックしてください。
「SCShoot」に画像が取り込まれます。

１６－５．表示(V)



１６－５－１．ツール バー(T)



ツールバーの表示・非表示を選択します。
左から

新規作成
開く
上書き保存
取り込み
コピー
貼り付け
選択範囲クリア
印刷
バージョン確認　プログラムのバージョン情報を確認します。

に対応します。

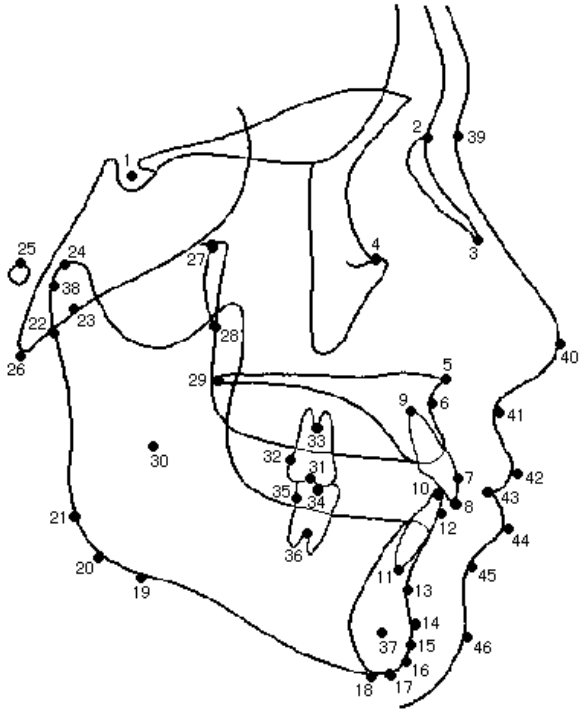
１６－５－２．ステータス バー(S)

ステータスバー（画面の下に表示されているバー）の表示・非表示を選択します。

１７．補足説明

１７－１．各ポイントの解説

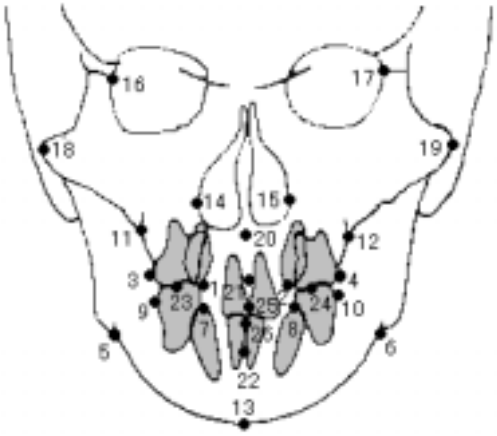
１７－１－１．Lateral 分析ポイント



1. S ・・・・・・・・ Sella turcica（トルコ鞍の中心）
2. N ・・・・・・・・ Nasion（鼻前頭縫合の前方限界点）
3. R ・・・・・・・・ R （鼻骨先端点）注）WinCeph では使用していません。
4. Or ・・・・・・・ Orbitale（眼窩外周の下縁で FH plane に接する点）
5. ANS ・・・・・ Anterior Nasal Spine（前鼻棘の尖端）
6. A ・・・・・・・・ point A（前鼻棘と上顎歯槽縁間の正中矢状断面上の最深点）
7. U1C ・・・・・ Upper1 crown（上顎中切歯歯冠最大豊隆点）
8. U1 ・・・・・・・ Upper1（上顎中切歯切縁）
9. U1R ・・・・・ Upper1 root（上顎中切歯根尖）
10. L1 ・・・・・・・ Lower1（下顎中切歯切縁）
11. L1R ・・・・・・ Lower1 root（下顎中切歯根尖）
12. L1C ・・・・・ Lpwer1 crown（下顎中切歯歯冠最大豊隆点）
13. B ・・・・・・・・ point B（下顎結合部の前縁と下顎歯槽縁間の正中矢状断面上の最深点）
14. PM ・・・・・・ PM (Protuberance menti) (Ricketts)（オトガイ隆起の上縁）
15. Pog(R) ・・・ Pogonion (Ricketts)（下顎結合部の前縁と facial plane の接点）
16. Pog ・・・・・・ Pogonion (Iizuka)（下顎結合部最突出点）
17. Gn ・・・・・・・ Gnathion (Iizuka)（Facial plane(N-Pog)と下顎下線平面のなす角の 2 線が下顎結合部で交わる点）
18. Me ・・・・・・ Menton（下顎結合部の正中矢状断面上の最下方点）
19. Go(L) ・・・・ Lower Gonion (下顎角下線で下顎下線平面と接する点)
20. Go ・・・・・・・ Gonion (Iizuka)（下顎下線平面と下顎枝後縁平面のなす角の 2 線が下顎角部と交わる点）
21. Go(P) ・・・・ Posterior Gonion (下顎角後縁で下顎枝後縁平面と接する点)
22. Ar ・・・・・・・ Articulare（下顎枝後縁と後頭骨基底部下縁の交点）

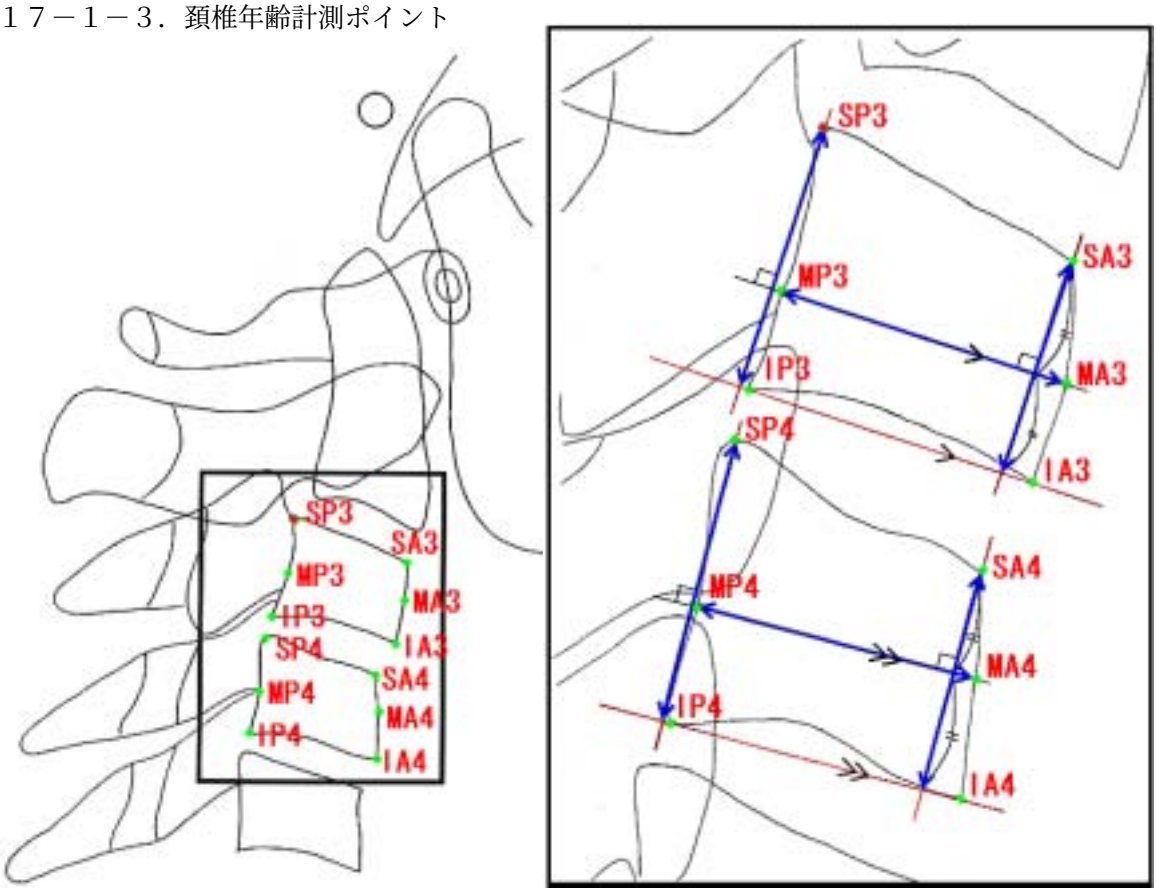
23. DC ・・・・・・ conDyle Center (Ricketts)（Ba－N plane 上の点で下顎頭を横切る部分の中点）
24. Cd ・・・・・・・ Condyle（下顎頭最上後方点）
25. Po ・・・・・・・ Porion（骨外耳道上縁点）
26. Ba ・・・・・・・ Basion（後頭骨の大後頭孔を形成する部分の前下縁）
27. PT ・・・・・・・ Pterygoid point（正円孔の翼口蓋窩後壁への出口の下縁）
28. Ptm ・・・・・ Pterygomaxillary fissure（翼口蓋窩最下点）
29. PNS ・・・・・ Posterior Nasal Spine（後鼻棘最後方点）
30. Xi ・・・・・・・ Xi (Ricketts) （下顎枝中心点－FH plane に平行で下顎枝最深点、下顎切痕を通る線と、下顎枝前縁、後縁が通る線で囲む長方形の対角線の交点）
31. UMo ・・・・・ Upper Molar（上顎第一大臼歯咬合面中央点）
32. UMo(D) ・・ Distal Upper Molar（上顎第一大臼歯歯冠最遠心点）
33. UMoR ・・・ Upper Molar Roots（上顎第一大臼歯根分岐部点）
34. LMo ・・・・・ Lower Molar（下顎第一大臼歯咬合面中央点）
35. LMo(D) ・・ Distal Lower Molar（下顎第一大臼歯歯冠最遠心点）
36. LMoR ・・・・ Lower Molar Roots（下顎第一大臼歯根分岐部点）
37. D ・・・・・・・・ D point（SN 平面に対する下顎結合部の中央点）
38. Cde ・・・・・ Condyle end (on SN plane level)（下顎頭最後方点）
39. N(S) ・・・・・ Na (Nasion) (on FH plane level)（軟組織における鼻前頭縫合の前方点）
40. TN ・・・・・・・ Top of Nose（鼻の最前方点）
41. SN ・・・・・・ SubNasal（鼻下点）
42. TUL ・・・・・ Top of Upper Lip（上唇最突出点）
43. Sto ・・・・・・ Stomion（上下唇の接する点または上唇最下点）
44. TLL ・・・・・ Top of Lower Lip（下唇最突出点）
45. SB・・・・・・・・ Supra Mentale（オトガイ唇溝最深点）
46. TC・・・・・・・・ Top of Chin（オトガイ最突出点）
47. PTV・・・・・・・ PTV ライン上の点

１７－１－２．PA 分析ポイント



1. U3R ・・・・・・　上顎犬歯の尖頭（右）
2. U3L ・・・・・・　上顎犬歯の尖頭（左）
3. U6R ・・・・・・　上顎第一大臼歯頬側最大豊隆点（右）
4. U6L ・・・・・・　上顎第一大臼歯頬側最大豊隆点（左）
5. AGR ・・・・・・　抗下顎角隆起（antigonial protuberance）の側方下縁（右）
6. AGL ・・・・・・　抗下顎角隆起（antigonial protuberance）の側方下縁（左）
7. L3R ・・・・・・　下顎犬歯の尖頭（右）
8. L3L ・・・・・・　下顎犬歯の尖頭（左）
9. L6R ・・・・・・　下顎第一大臼歯頬側最大豊隆点（右）
10. L6L ・・・・・・　下顎第一大臼歯頬側最大豊隆点（左）
11. JR ・・・・・・・　頬隆起（jugal process）上の点で上顎骨の粗面と頬骨突起の交点（右）
12. JL ・・・・・・・　頬隆起（jugal process）上の点で上顎骨の粗面と頬骨突起の交点（左）
13. Me ・・・・・・　頤隆起の直下で頤三角の中心の下にあたる下顎結合の下縁
14. NCR ・・・・・　鼻腔の外周で最も幅径の大きい部分の点（右）
15. NCL ・・・・・　鼻腔の外周で最も幅径の大きい部分の点（左）
16. ZR ・・・・・・・　頬骨前頭縫合の内側で眼窩との交点（右）
17. ZL ・・・・・・・　頬骨前頭縫合の内側で眼窩との交点（左）
18. ZAR ・・・・・　頬骨弓の起始部の中心部にある点（右）
19. ZAL ・・・・・　頬骨弓の起始部の中心部にある点（左）
20. ANS ・・・・・　前鼻棘（Anterior nasal spine）鼻腔の直下で硬口蓋の上にある点
21. A ・・・・・・・・　歯冠と歯肉の接点で、上顎中切歯乳頭部にあたる点
22. B ・・・・・・・・　歯冠と歯肉の接点で、下顎中切歯乳頭部にあたる点
23. 6R ・・・・・・・　上下第一大臼歯咬合面の中点（右）
24. 6L ・・・・・・・　上下第一大臼歯咬合面の中点（左）
25. UMid ・・・・　上顎左右中切歯の接触点（Upper midline）
26. LMid ・・・・　下顎左右中切歯の接触点（Lower midline）
27. GC ・・・・・・　頭蓋の正中基準

１７－１－３．頚椎年齢計測ポイント



１７－２．各計測項目の解説

１７－２－１．線分析

1. N - S ・・・・・・・ S と N の距離
2. N - ANS ・・・・ N と ANS の距離
3. ANS - Me ・・・ ANS と Me の距離
4. N - Me ・・・・・・ N と Me の距離
5. S' - Ptm' ・・・・・ S, Ptm の PNS-ANS への投影距離
6. A' - Ptm' ・・・・・ A, Ptm の PNS-ANS への投影距離
7. Ptm' - Ms ・・・・・ Ptm, UM の PNS-ANS への投影距離
8. A' - Ms ・・・・・・ A, UM の PNS-ANS への投影距離
9. Is - Is' ・・・・・・・ U1 から PNS-ANS への垂線距離
10. Mo - Ms ・・・・・ UM から PNS-ANS への垂線距離
11. Is - Mo ・・・・・・ U1 と UM の距離
12. Gn - Cd ・・・・・・ Gn と Cd の距離
13. Pog' - Go ・・・・・ Pog から Go(L)-Me へ垂線を引いた点と Go の距離
14. Cd - Go ・・・・・・ Cd と Go の距離
15. Ii - Ii' ・・・・・・・・ L1 から Go(L)-Me への垂線距離
16. Mo - Mi ・・・・・・ LM から Go(L)-Me への垂線距離
17. Ii - Mo ・・・・・・・ L1 と Mo の距離

１７－２－２．角度分析

1. Facial angle ・・・・・・・・・・・・ Po-Or と N-Pog との角度
2. Convexity ・・・・・・・・・・・・・・ N-A と A-Pog との角度
3. A-B plane ・・・・・・・・・・・・・・ A-B と N-Pog との角度
4. Y-axis ・・・・・・・・・・・・・・・・・ Po-Or と S-Gn との角度
5. FH to SN ・・・・・・・・・・・・・・ Po-Or と S-N との角度
6. ∠SNA ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ∠S･N･A
7. ∠SNB ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ∠S･N･B
8. ∠ANB ・・・・・・・・・・・・・・・・・ ∠S･N･A - ∠S･N･B
9. N-Pog to SN ・・・・・・・・・・・・ N-Pog と S-N との角度
10. Nasal floor to SN ・・・・・・・・ S-N と ANS-PNS との角度
11. Nasal floor to FH ・・・・・・・・ Po-Or と ANS-PNS との角度
12. Mandibular pl. to SN ・・・・ S-N と Go(L)-Me との角度
13. Mandibular pl. to FH ・・・・ Po-Or と Go(L)-Me との角度
14. Ramus pl. to SN ・・・・・・・・ S-N と Go(P)-Ar との角度
15. Ramus pl. to FH ・・・・・・・・ Po-Or と Go(P)-Ar との角度
16. Gonial angle ・・・・・・・・・・・・ Go(L)-Me と Go(P)-Ar との角度
17. U1 to SN ・・・・・・・・・・・・・・ S-N と U1-U1R との角度
18. U1 to FH ・・・・・・・・・・・・・・ Po-Or と U1-U1R との角度
19. L1 to mandibular pl. ・・・・・ L1-L1R と Go(L)-Me との角度
20. Interincisal angle ・・・・・・・ L1-L1R と U1-U1R との角度
21. Occlusal pl. to SN ・・・・・・・ S-N と (UMo と LMo の中点)-(U1 と L1 の中点) との角度
22. Occlusal pl. to FH ・・・・・・ Po-Or と (UMo と LMo の中点)-(U1 と L1 の中点) との角度

１７－２－３．Ricketts & McNamara

1. Facial axis ・・・・・・・・・・・・・・	N-Ba と PT-(N-Pog(R) と Go(L)-Me の交点)との角度
2. Facial depth ・・・・・・・・・・・・	Po-Or と N-Pog(R) との角度
3. Mandibular P. ・・・・・・・・・・・・	Po-Or と Go(L)-Me との角度
4. L.F.H. ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	∠ANS･Xi･PM
5. Mandibular A. ・・・・・・・・・・	180 度－∠DC･Xi･PM
6. T.F.H. ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	N-Ba と PM-Xi との角度
7. Convexity ・・・・・・・・・・・・・・	A から N-Pog(R)への垂線距離
8. L1-APO(DISTANCE) ・・・・	L1 から A-Pog(R) への垂線距離
9. L1-APO(DEGREE) ・・・・・・	A-Pog(R) と L1-L1R との角度
10. U6-PTV ・・・・・・・・・・・・・・・	UMo(D) から PTV-*CF への垂線距離
11. Lower lip-E.plane ・・・・・・・	TLL から TN-TC への垂線距離
12. Cranial deflection ・・・・・・・	N-Ba と Po-Or との角度
13. Cranial length-anterior ・・	N と *CF の距離
14. P.F.H. ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	*CF と (Go(L)-Me と Go(P)-Ar との交点) の距離
15. Ramus Position ・・・・・・・・・	Xi- *CF と Po-Or との角度
16. Porion Location ・・・・・・・・・	Po と *CF との距離
17. Corpus Length ・・・・・・・・・・	Xi と PM との距離
18. A to McNamara line ・・・・・	McNamara line に対する A 点の垂線距離
19. Pog to McNamara line ・・・	McNamara line に対する Pog(R)点の垂線距離

注）*CF ・・・ PTV から Po-Or へ 垂線を引いた時の接点

１７－２－４．Open Bite

1. Ar-Gn to FH ・・・・・・・・・・・・	Po-Or と Ar-Gn との角度
2. Nasal floor to FH・・・・・・・・・	Po-Or と PNS-ANS との角度
3. Mandibular plane to FH・・・	Po-Or と Go(L)-Me との角度
4. Ar-PNS-ANS・・・・・・・・・・・・	180 度 - ∠Ar･PNS･ANS
5. Gonial angle・・・・・・・・・・・・・	Go(L)-Me と Go(P)-Ar との角度
6. U1-6-L1・・・・・・・・・・・・・・・・・	∠U1･UMo･L1 (U1 が L1 より上の時ﾏｲﾅｽ)
7. 6-U1 to FH・・・・・・・・・・・・・	Po-Or と UMo-U1 との角度
8. 6-L1 to FH・・・・・・・・・・・・・・	Po-Or と UMo-L1 との角度
9. PNS-Ar-6・・・・・・・・・・・・・・・	∠PNS･Ar･UMo
10. Go-Ar-6・・・・・・・・・・・・・・・	∠UMo･Ar･Go
11. ANS-Ar-U1・・・・・・・・・・・・・	∠ANS･Ar･U1
12. Gn-Ar-L1・・・・・・・・・・・・・・・	∠L1･Ar･Gn

１７－２－５．Steiner & Tweed

1. ∠SNA・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･A
2. ∠SNB ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･B
3. ∠ANB ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･A - ∠S･N･B
4. ∠SND ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･D
5. 1_ to NA length ・・・・・・・・・・　U1C から N-A への垂線距離
6. 1_ to NA angle ・・・・・・・・・・・　N-A と U1C-U1R との角度
7. 1~ to NB length ・・・・・・・・・　L1C から N-B への垂線距離
8. 1~ to NB angle ・・・・・・・・・・　N-B と L1C-L1R との角度
9. Pog to NB ・・・・・・・・・・・・・・　Pog から N-B への垂線距離
10. 1 to 1~ ・・・・・・・・・・・・・・・・・　U1-U1R と L1-L1R との角度
11. Occlusal pl. to SN ・・・・・・・・　S-N と (UMo と LMo の中点)-(U1 と L1 の中点)との角度
12. Go-Gn to SN ・・・・・・・・・・・・　S-N と Go-Gn との角度
13. SL ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Pog から S-N へ垂線を引いた時の接点と S との距離
14. SE ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　CdE から S-N へ垂線を引いた時の接点と S との距離
15. FMA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Po-Or と Go(L)-Me との角度
16. IMPA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Me-Go(L) と L1-L1R との角度
17. FMIA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Po-Or と L1-L1R との角度

１７－２－６．Northwestern

1. ∠NAPog ・・・・・・・・・・・・・・　∠N･A･Pog
2. ∠SNA ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･A
3. ∠SNB ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･B
4. ∠ANB ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･A - ∠S･N･B
5. S-N to Go-Gn ・・・・・・・・・・・　S-N と Go-Gn との角度
6. FH to NPog・・・・・・・・・・・・・・　FH 平面と N-Pog との角度
7. FH to mandibular plane・・　FH 平面と GoL-Me との角度
8. FH to S-Gn・・・・・・・・・・・・・・　FH 平面と S-Gn との角度
9. ∠SNGn・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･Gn
10. U1 to SN・・・・・・・・・・・・・・・　U1R-U1 と S-N との角度
11. U1 to L1・・・・・・・・・・・・・・・・　U1R-U1 と L1-L1R との角度
12. L1 to Go-Gn・・・・・・・・・・・・・　L1-L1R と Go-Gn との角度
13. L1 to Occlusal plane・・・・・・　咬合平面と L1-L1R との角度
14. AB to Occlusal plane・・・・・　咬合平面と A-B との角度
15. U1 to N-Pog・・・・・・・・・・・・・　U1 から N-Pog への垂線距離

１７－２－７．Kim

1. Facial angle ・・・・・・・・・・・・　Po-Or と N-Pog との角度
2. A-B plane ・・・・・・・・・・・・・・　A-B と N-Pog との角度
3. Palatal plane to FH ・・・・・・ Po-Or と ANS-PNS との角度
4. A-B plane to mand.pl. ・・・・　A-B と Go(L)-Me との角度
5. IIA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　U1R-U1 と L1-L1R との角度
6. ULP ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　TUL から TN-TC への垂線距離
7. LLP ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　TLL から TN-TC への垂線距離
8. A.P.D.I. ・・・・・・・・・・・・・・・・　項目 1+2+3
   - mean±SD の範囲 ・・・・ Class Ⅰ
   - mean－SD より小 ・・・・ Class Ⅱ
   - mean＋SD より大 ・・・・ Class Ⅲ
9. O.D.I. ・・・・・・・・・・・・・・・・・　項目 3+4
   - mean±SD の範囲 ・・・・ 標準
   - mean－SD より小 ・・・・ openbite
   - mean＋SD より大 ・・・・ deepbite
10. C.F. ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　項目 8+9
    - C.F. ＞ 152 ・・・・ 非抜歯
    - C.F. ≦ 152 ・・・・ 抜歯
11. Extraction Index ・・・・・・・・
    - IIA ＜ 130 ・・・・ ODI + APDI - (130 - IIA) / 5 - (ULP + LLP)
    - IIA ≧ 130 ・・・・ ODI + APDI + (IIA - 130) / 5 - (ULP + LLP)
12. Kix Index ・・・・・・・・・・・・・・・　A.P.D.I. / O.D.I.

１７－２－８．Jarabak

1. Saddle angle ・・・・・・・・・・・・　∠N･S･Ar
2. Artical angle ・・・・・・・・・・・・　∠S･Ar･Go(P)
3. Gonial angle ・・・・・・・・・・・・　Go(L)-Me と Go(P)-Ar との角度
4. The three angle ・・・・・・・・・　項目 1+2+3
5. Ante. cra. base len. ・・・・・・　S と N の距離
6. Poste. cra. base len. ・・・・・・ S と Ar の距離
7. Upper gonial angle ・・・・・・　∠N･Go･Ar
8. Lower gonial angle ・・・・・・　∠N･Go･Me
9. Ramus height ・・・・・・・・・・・　Ar と Go´ の距離
10. Mandibular body len. ・・・・　Me と Go´ の距離
11. Mand. body to ante. ・・・・・　項目 10 / 5
12. SNA ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･A
13. SNB ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･B
14. ANB ・・・・・・・・・・・・・・・・・　∠S･N･A - ∠S･N･B
15. SN - GoGn ・・・・・・・・・・・・・　S-N と Go(L)-Me との角度
16. SN - Y-axis ・・・・・・・・・・・・・　S-N と S-Gn との角度
17. Posterior facial hei. ・・・・・・　S と Go´ の距離
18. Anterior facial hei. ・・・・・・　N と Me の距離
19. Facial height ratio ・・・・・・　項目 17 / 18
20. Facial plane ・・・・・・・・・・・・　S-N と N-Pog との角度
21. Facial convexity ・・・・・・・・・　N-A と A-Pog との角度
22. Occl. plane to Go-Gn ・・・・・　Go(L)-Me と (UMo と LMo の中点)-(U1 と L1 の中点) との角度
23. Dental convexity ・・・・・・・・　L1-L1R と U1-U1R との角度
24. L1 to Go-Gn(deg.) ・・・・・・・　L1-L1R と Go(L)-Me との角度
25. L1 to Go-Gn(mm) ・・・・・・・　L1 から Go-Me への垂線距離
26. U1 to SN ・・・・・・・・・・・・・・　S-N と U1-U1R との角度
27. U1 to Facial plane ・・・・・・・　U1 から N-Pog への垂線距離
28. L1 to Facial plane ・・・・・・・　L1 から N-Pog への垂線距離
29. Lower lip ・・・・・・・・・・・・・・　TLL から TN-TC への垂線距離
30. Upper lip ・・・・・・・・・・・・・・　TUL から TN-TC への垂線距離

注）Go´ ・・・ Ar-Go(P) と Me-Go(L) の交点

１７－２－９．Others

1. Harvold-McNamara triangle
   - a. Lower anterior facial height ・・・ ANS と Me の距離
   - b. Maxillary length (Cd-A) ・・・・・・・ Cd と A の距離
   - c. Mandibular length (Cd-Gn) ・・・・ Cd と Gn の距離
   - (Cd-Gn) - (Cd-A) ・・・・・・・・・・・・・・・ c-a
     - 25～30 ・・・ Class Ⅰ
     - ＜25 ・・・・・ Class Ⅱ
     - ＞30 ・・・・・ Class Ⅲ
2. Wits appraisal
   - AB to Occlusal plane ・・・・・・・・・・・・ A･B それぞれから(UMo と LMo の中点)-(U1 と L1 の中点) へ垂線を引いた交点の距離
3. Z angle
   - TUL から TN-TC への垂線距離 > TLL から TN-TC への垂線距離
     - TN-TUL と Or-Po との角度
   - TUL から TN-TC への垂線距離 <= TLL から TN-TC への垂線距離
     - TN-TLL と Or-Po との角度
4. Overjet ・・・・・・・・・・・・ (UMo と LMo の中点)-(U1 と L1 の中点) に U1C、L1C それぞれから垂線を下ろした点の間の距離
5. Overbite ・・・・・・・・・・・ (UMo と LMo の中点)-(U1 と L1 の中点) に U1、L1 それぞれの垂線距離の合計

１７－２－１０．PA(Ricketts)

1.Molar relation left ‥‥‥‥‥ U6L,L6L の 交合平面(6R-6L) への投影距離
2.Molar relation right ‥‥‥‥ U6R,L6R の 交合平面への投影距離
3.Intermolar width(mand)‥‥‥ L6R,L6L の交合平面への投影距離
4.Intercanine width(mand)‥‥ L3R と L3L の距離
5.Denture midline ‥‥‥‥‥ UMid,LMid の 交合平面への投影距離
6.Max mand width left ‥‥‥‥ JL から AGL-ZL への垂線距離
7.Max mand width right ‥‥‥ JR から AGR-ZR への垂線距離
8.Max mand midline ‥‥‥‥ ZR-ZL と ANS-Me との角度
9.Molar to jaw left(mand) ‥‥ L6L から交合平面へ垂線を引いたポイントから JL-AGL への垂線距離
10.Molar to jaw right(mand)‥‥‥ L6R から交合平面へ垂線を引いたポイントから JR-AGR への垂線距離
11.Denture jaw midlines ‥‥‥‥ LMid から ANS-Me への垂線距離
12.Occlusal plane tilt ‥‥‥‥‥ ZR から交合平面への垂線距離と ZL から交合平面への垂線距離との差
13.Postural symmetry ‥‥‥‥‥ ∠ZR･AGR･ZAR と∠ZL･AGL･ZAL との差
14.Nasal width ‥‥‥‥‥‥‥ NCR と NCL の距離
15.Nasal height ‥‥‥‥‥‥‥ ANS から ZR-ZL への垂線距離
16.Maxillary width ‥‥‥‥‥ JR と JL の距離
17.Mandibular width ‥‥‥‥‥ AGR と AGL の距離
18.Facial width ‥‥‥‥‥‥‥ ZAR と ZAL の距離

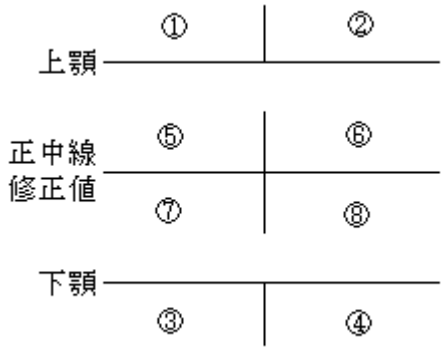
１７－２－１１．模型分析

1.U1 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎中切歯幅径（右・左）
2.U2 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎側切歯幅径（右・左）
3.U3 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎犬歯幅径（右・左）
4.U4 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎第一小臼歯幅径（右・左）
5.U5 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎第二小臼歯幅径（右・左）
6.U6 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎第一大臼歯幅径（右・左）
7.UCAW ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎歯列弓幅径*
8.UCAL ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎歯列弓長径**
9.UBAW ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎歯槽弓幅径
10.UBAL ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 上顎歯槽弓長径
11.L1 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎中切歯幅径（右・左）
12.L2 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎側切歯幅径（右・左）
13.L3 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎犬歯幅径（右・左）
14.L4 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎第一小臼歯幅径（右・左）
15.L5 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎第二小臼歯幅径（右・左）
16.L6 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎第一大臼歯幅径（右・左）
17.LCAW ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎歯列弓幅径*
18.LCAL ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎歯列弓長径**
19.LBAW ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎歯槽弓幅径
20.LBAL ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 下顎歯槽弓長径

*歯列弓幅径：第一小臼歯頬側咬頭頂間距離
**歯列弓長径：第一大臼歯遠心面を結ぶ線から左右中切歯近心隣接点より垂線を下ろした足の長さ

21.上顎前歯歯冠幅径 ・・・・・・・・・・・ U1R + U1L + U2R + U2L + U3R + U3L
22.上顎歯冠幅径総和 ・・・・・・・・・・・ 21.上顎前歯歯冠幅径 +
U4R + U4L + U5R + U5L + U6R + U6L
23.下顎前歯歯冠幅径 ・・・・・・・・・・・ L1R + L1L + L2R + L2L + L3R + L3L
24.下顎歯冠幅径総和 ・・・・・・・・・・・ 23.下顎前歯歯冠幅径 +
L4R + L4L + L5R + L5L + L6R + L6L
25.ant. tooth ratio ・・・・・・・・・・・ 23.下顎前歯歯冠幅径 ÷ 21.上顎前歯歯冠幅径 × 100
26.total tooth ratio ・・・・・・・・・・ 24.下顎歯冠幅径総和 ÷ 22.上顎歯冠幅径総和 × 100
27.側方歯群予測(U) ・・・・・・・・・・ 上顎の側方歯群予測値
28.側方歯群予測(L) ・・・・・・・・・・ 下顎の側方歯群予測値

１７－２－１２．模型分析（Arch length discrepancy）



① ・・・・・ R6m(U)から midline(U)までの距離（歯列弓長）
－ (U1R＋U2R＋U3R＋U4R＋U5R)
② ・・・・・ L6m(U)から midline(U)までの距離（歯列弓長）
－ (U1L＋U2L＋U3L＋U4L＋U5L)
③ ・・・・・ R6m(L)から midline(L)までの距離（歯列弓長）
－ (L1R＋L2R＋L3R＋L4R＋L5R)
④ ・・・・・ L6m(U)から midline(U)までの距離（歯列弓長）
－ (L1L＋L2L＋L3L＋L4L＋L5L)
⑤ ・・・・・ ① － X
⑥ ・・・・・ ② ＋ X
⑦ ・・・・・ ③ － Y
⑧ ・・・・・ ④ ＋ Y

注）X ・・・ 上顎の正中補正値
Y ・・・ 下顎の正中補正値

上に示した⑤～⑧の計算は左偏の場合で、右偏の場合は符号（＋－）が逆になる。
なお、正中補正値は顔面軟組織の鼻等から求めた任意の中心線と中切歯近心隣接点とのズレ（偏位量）を指す。
正面のセファロ（ＰＡ）から求めた骨格の中心線とのズレを求める方法もある。

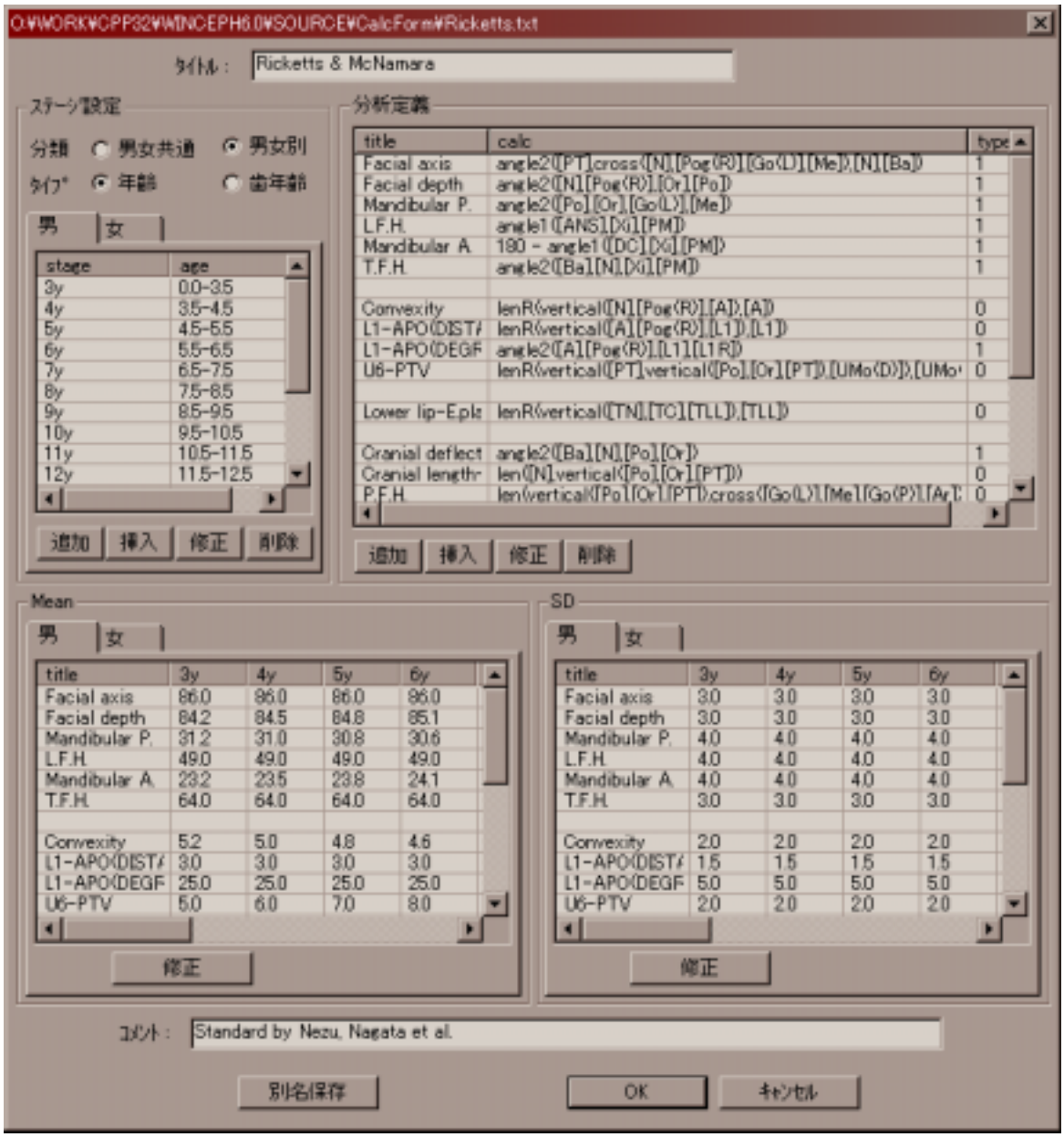
１７－３．分析定義の選択

設定 → 計測項目設定を実行すると、以下の画面が表示されます。

- “ ＜ ” ……未選択分析ファイルリストより選択されている分析定義を分析ファイルリストに追加します。
- “ ＞ ” ……分析ファイルリストから選択されている分析定義を選択解除します。
- “ 修正 ” …リストより選択されている分析定義の修正を行います。
- “ 追加 ” …新規に分析定義を作成します。
- “ 削除 ” …未選択分析ファイルリストより選択されている分析定義を削除します。
- “ ユーザーポイント ” ……ユーザー定義のポイント設定をします。
- “ 仮想ポイント ” ……仮想ポイントの設定をします。

１７－３－１．分析定義の設定

分析定義の選択で修正または追加で分析定義の修正画面が表示されます。



○ステージ設定

分類……標準値のステージ分類を指定します。

タイプ…標準値の年齢タイプを指定します。

追加……表示されているステージ分類（男・女・男女共通）にステージを追加します。

挿入……ステージリストで選択されている現在のカーソル位置にステージを挿入します。

修正……ステージリストで選択されているステージを修正します。

削除……ステージリストで選択されているステージを削除します。

○分析定義

追加……計測項目を追加します。

挿入……分析定義リストで選択されている現在のカーソル位置に項目を挿入します。

タイトル、計測分類、計測法を指定します。

計測分類で距離を指定した場合は、標準値に対してレントゲン倍率補正を行います。（1.1 倍以外）

修正……分析定義リストで選択されている項目を修正します。

削除……分析定義リストで選択されている項目を削除します。

分析定義の書式解説

+-,*,/ 四則演算

=,>,>=,<,<= 比較

len(A,B) A -> B への直線距離

lenR(A,B) A -> B が右向きのとき+、左向きのとき-

lenD(A,B) A -> B が下向きのとき+、上向きのとき-

angle1(A,B,C) A,B,C ⊿A,B,C の内角

angle2(A,B,C,D) 線分 AB と 線分 CD との角度

mid(A,B) 線分 AB の中点

vertical(A,B,C) 線分 AB と C が垂直に交わる点

cross(A,B,C,D) 線分 AB と 線分 CD との交点

case("A") 分析項目 A の計測値

sdu("A") 分析項目 A の SDU((計測値 - 標準値) / SD)

switch(条件 A,条件 B,条件 C,,,,,);"A";"B";"C";"";;;;;;

条件 A が正なら A

条件 A が負で条件 B が正なら B……

書式例

1．len([S],[N])

S と N の距離

2．len([U1],vertical([PNS],[ANS],[U1]))

U1 から PNS-ANS への垂線距離

3．angle1([S],[N],[A])

∠S・N・A

4．angle2([N],[Pog],[Or],[Po])

Po-Or と N-Pog との角度

5．angle2([S],[N],mid([UMo],[LMo]),mid([U1],[L1]))

S-N と (UMo と LMo の中点)-(U1 と L1 の中点)との角度

6．len([S],cross([Ar],[Go(P)],[Me],[Go(L)])) / len([N],[Me])

S と Ar-Go(P) と Me-Go(L) の距離 / N と Me の距離

7．switch(case("C.F.")>152);"CF ＞ 152 非抜歯";"CF ≦ 152 抜歯"

C.F.が 152 より大きいとき" CF ＞ 152 非抜歯" それ以外は" CF ≦ 152 抜歯"

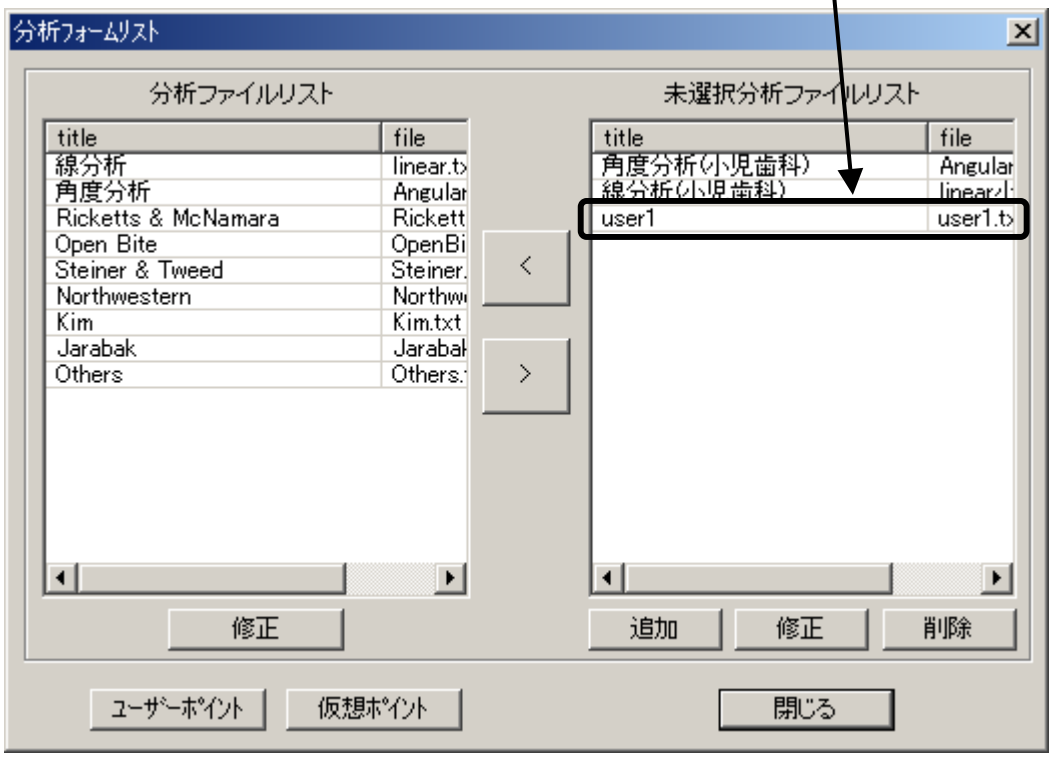
○Mean,SD……各ステージの標準値と SD 値を修正します。

○コメント……印刷時に表示されるコメントを入力します。

１７－３－２．オリジナル分析設定

１５－３－１．分析定義の設定で任意の項目の追加・削除等の変更をし別名保存を行なう、または新規で分析定義を作成すると、ファイル名入力画面が表示されるので任意の名前を入力します。

分析定義の保存が完了すると、分析フォームリストの右側に追加された分析定義が表示されます。

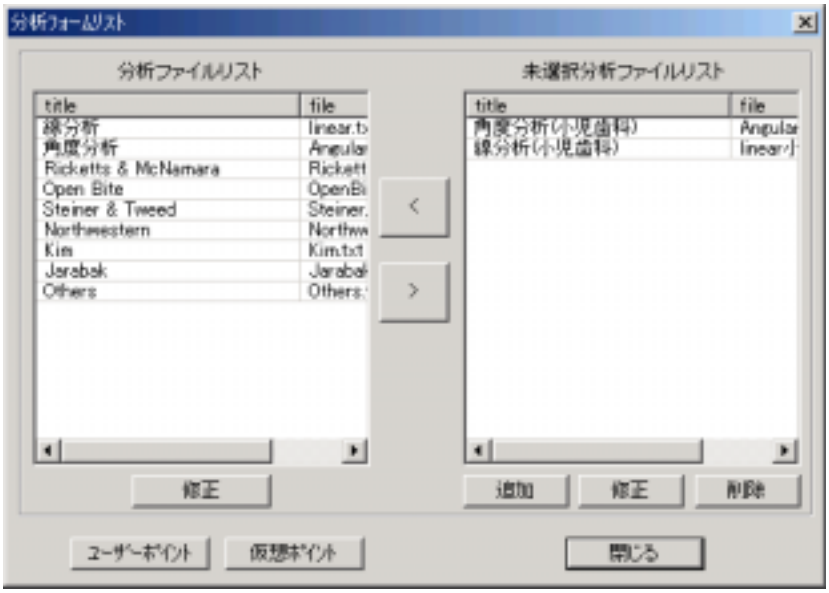


追加された分析定義を選択し“＜”ボタンをクリックし分析リストに加えると、分析時に作成されたオリジナル分析が選択可能になります。

１７－４．小児歯科学会標準値の使用

Lat.分析の線分析・角度分析・プロフィログラムには小児歯科学会の標準値が使用できます。

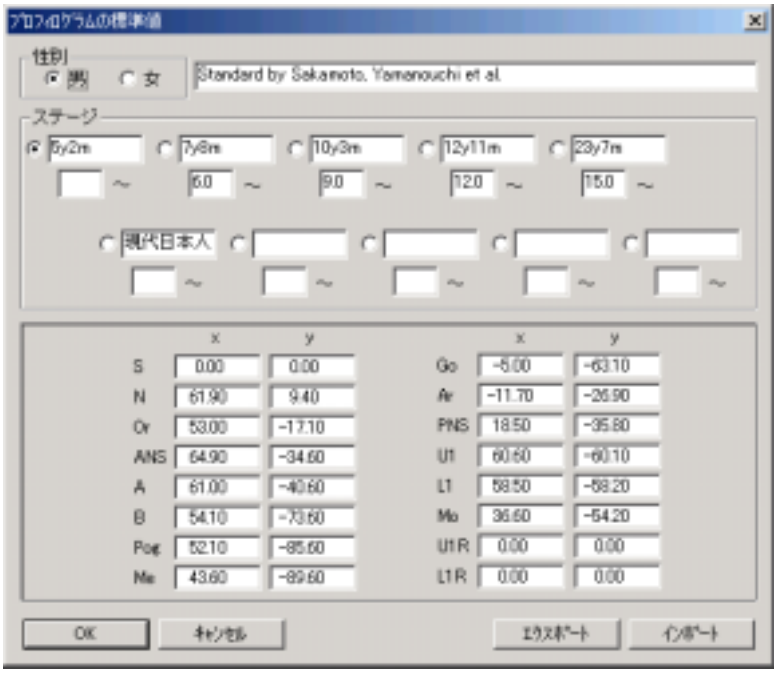
・線分析・角度分析



分析定義の選択画面を開くと（１５－３．参照）右の未選択リストに小児歯科の分析定義が入っているので、必要な分析定義を選択して“＜”をクリックします。

・プロフィログラム

Lat.分析画面でセファロ（Lat.）分析メニューの標準データ修正（５－２－２．参照）を実行すると、以下の画面が表示されます。



インポートをクリックして“小児歯科.prs”ファイルを選択します。
元に戻すときは“Std.prs”を選択してください。

１８．ＷｉｎＣｅｐｈ 参考文献

山内 積，石原勝利，白土祥樹，佐藤亨至，三谷英夫：
最近の日本人正常咬合者の顎顔面形態について
日矯歯誌　５４：９３－１０１，１９９５．

坂本敏彦，三浦不二夫，飯塚哲夫：
頭部エックス線規格写真法による日本人顔面頭蓋の成長に関する研究
－実測長分析，成長率分析，実測長百分率成績－
口病誌　３０：１６９－１８２，１９６３．

飯塚哲夫：
頭部Ｘ線規格写真法による日本人小児の顔の成長に関する研究
口病誌　２５：２６０－２７２，１９５８．

飯塚哲夫，石川富士郎：
頭部Ｘ線規格写真による症例分析法の基準値について
－日本人成人男女正常咬合群－
日矯歯誌　１６：４－１２，１９５７．

坂本敏彦：
日本人顔面頭蓋の成長に関する研究
－ＳＥＬＬＡ ＴＵＲＣＩＣＡ を基準として－
日矯歯誌　18：１－１７，１９５９．

根津 浩，永田 賢司，吉田恭彦，菊池 誠：
バイオプログレッシブ診断学
（株）ロッキーマウンテンモリタ，１９８４．

根津 浩，永田 賢司：
バイオプログレッシブの臨床
（株）ロッキーマウンテンモリタ，１９９０．

神山光男，滝口弘毅：
頭部Ｘ線規格写真法による開咬の分析
日矯歯誌　１７：３１－４０，１９５８．

大坪淳造：
日本人成人正常咬合者の歯冠幅径と歯列弓及び Basal Arch との関係について
日矯歯誌　１６：３６－４６，１９５７．

小児歯科学会：
日本人小児の頭部Ｘ線写真基準値に関する研究
小児歯科学会誌　３３巻　４号　６５９－６９６

Miura,F.,Inoue,N. and Suzuki,K.:
Cephalometric standards for Japanese according to the Steiner analysis
A.J.O. 51:288-295,1965.

Kim,Y.H:
Anteroposterior dysplasia indicator
An adjunct to cephalometric differential diagnosis
A.J.O. 73:619-633,1978.

Kim,Y.H:
Overbite depth indicator with particular reference to anterior open-bite
A.J.O. 65:586-611,June:1974.

Uesato,G.Kawamoto,T.,Kayama,I. and Nakanishi,Y.:
Steiner cephalometric norms for Japanese and Japanese-Americans,
A.J.O. 73:321-327,1978.

Bjork,A:
The face in profile,Svensk Tandlak.T.40,
Suppl.5B,Lund,1947.

第二部　報告書作成マニュアル

1. 報告書作成手順

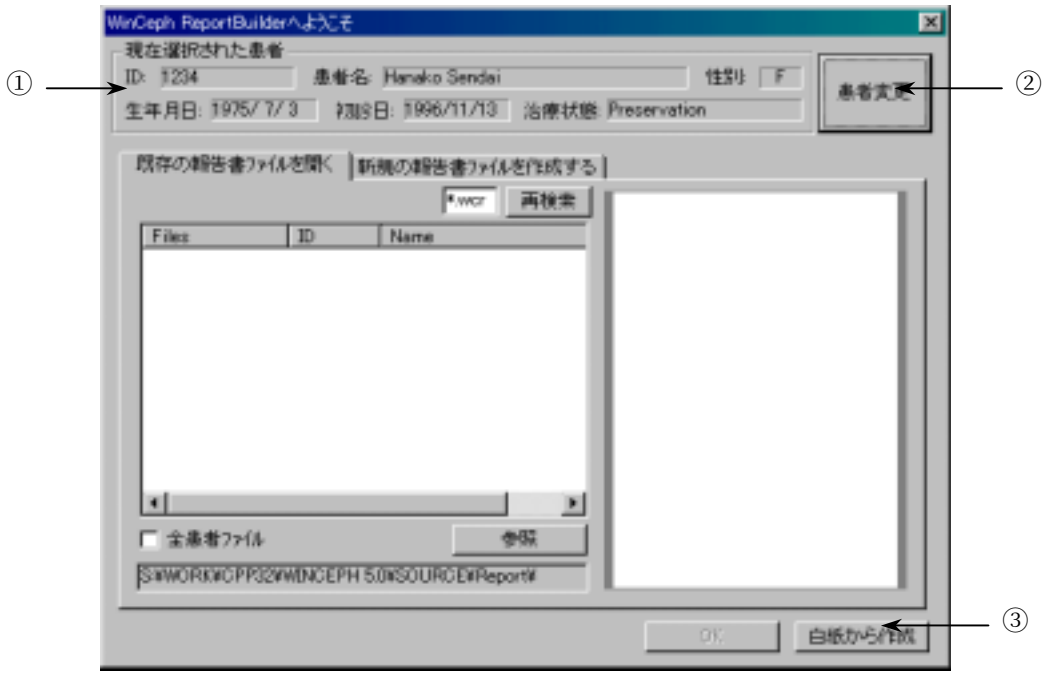
ここでは、*WinCeph* のデータを使って、報告書を作成する手順を説明します。
このプログラムは複数ページの作成が可能です。

ステップ１：
　　メインメニューの患者リストで患者を選択します。

ステップ２：
患者リストから患者を選択し、**報告書ボタン**をクリックします。
報告書作成プログラム ReportBuilder が起動します。

＊注意：
　　患者を選択せずに、報告書ボタンをクリックしても、ReportBuilder が起動できますが、患者情報を選び直すことが必要です。患者情報がないままで報告書を作成しますと、患者のデータベースにアクセスできません。

1-1. 白紙からの作成
　　ReportBuilder が起動したら、「WinCeph ReportBuilder へようこそ」のダイアログが表示されます。

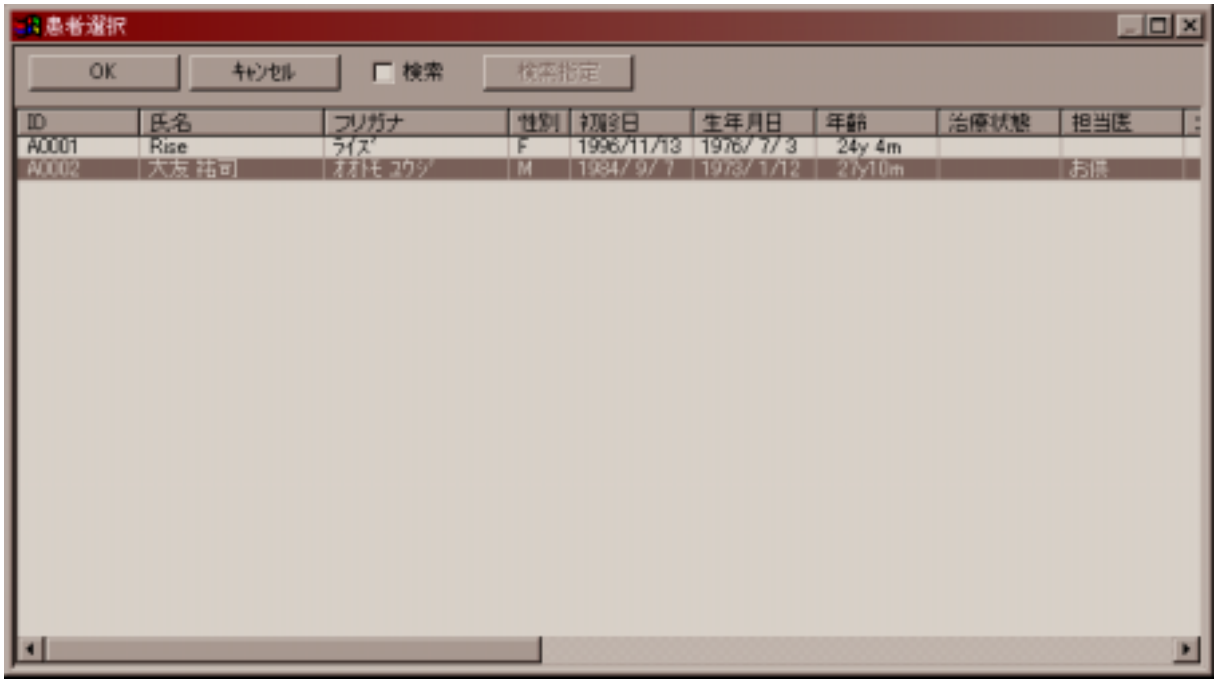


ここで、メインメニューの患者リストで選択された患者情報が①の枠内に表示されます。

1-1-1. 選択患者の変更

②の**患者変更ボタン**をクリックすることにより、患者を選択し直すことができます。

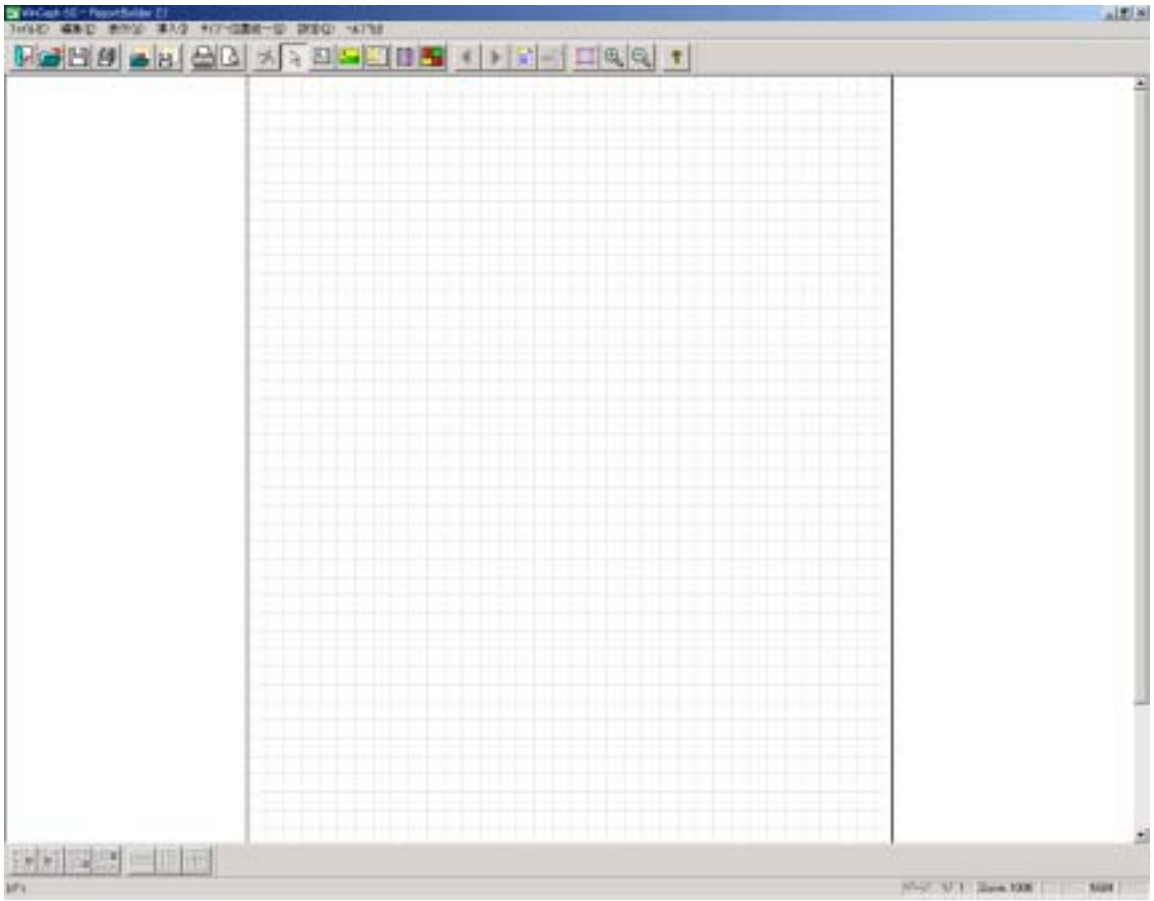
患者変更ボタンをクリックすると、患者リストが表示されます。



患者リストで患者を選択し **OK ボタン**をクリックしてください。登録患者が多い場合、この患者リストで患者の検索をすることもできます。検索したい場合、**検索のチェックボックス**にチェックを付けて、**検索指定ボタン**をクリックしてください。患者検索の詳細説明は本マニュアルの第１部の４－１－５節を参照ししてください。

選択された患者が①に表示されます。

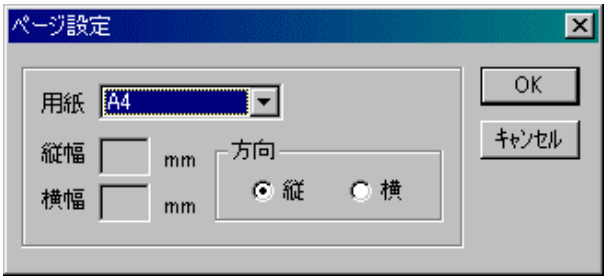
1-1-2. 作成開始
患者が選択されたら、**白紙から作成ボタン**をクリックして報告書作成を開始します。



ここでは、報告書イメージが表示されるので、任意のアイテムを枠内に配置して下さい。
枠からはみ出すと印刷されないので、ご注意ください。

1-1-3. ページ設定
ここでは、報告書の用紙、方向設定を行うことができます。

ステップ１：
　ファイル・メニューの**ページ゛設定**を選択します。すると、ページ設定ダイアログが表示されます。



ステップ２：
　用紙はデフォルトで A4 サイズとなり、B5、B4 やユーザー設定のサイズを設定できますが、ユーザー設定の場合は使用プリンターの用紙対応範囲（縦,横幅）によって異なります。そのプリンター有効範囲を超えると、超えた部分は印刷されません。
　用紙を選択し終わったら、**OK ボタン**をクリックしてください。用紙に対応した画面が表示されます。

1-1-4. アイテムの貼り付け

報告書に 3 種類のアイテム、テキスト・ボックス(テキスト情報)、患者情報と画像情報を貼り付けることができます。各ページには６０個のアイテムまで貼り付けることが可能です。
アイテムを貼り付ける時、枠が表示されますが印刷はされません。

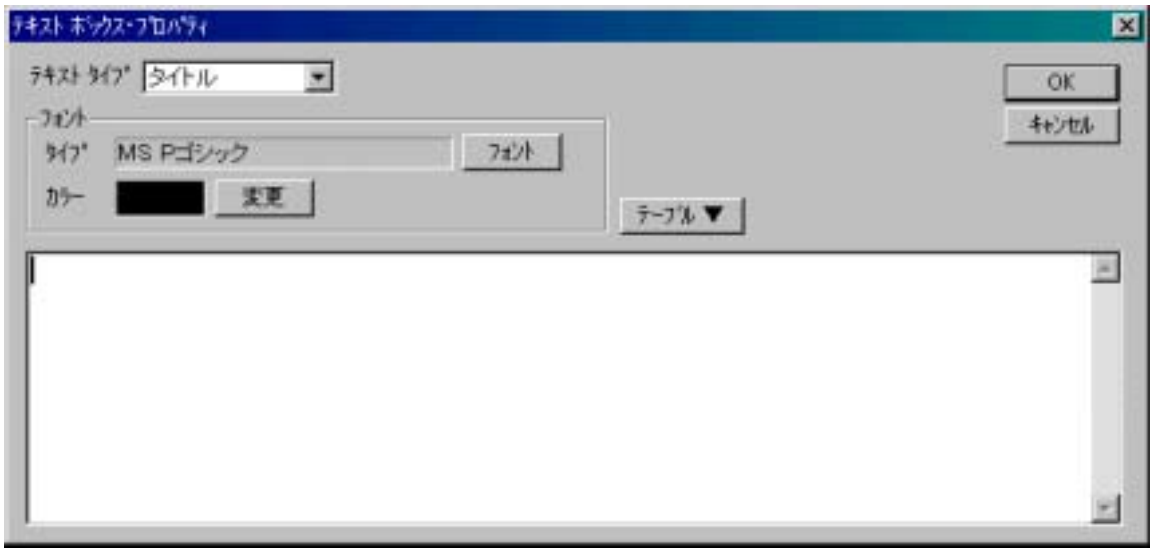
テキスト・ボックスの貼り付け：

ステップ１：

テキスト・ボックスを貼りつけるには、メニューで挿入のアイテムのテキスト・ボックスを選択するか、ツールバーで**テキスト・ボックスのボタン**をクリックします。

ステップ２：

左マウスボタンのドラッグでテキスト・ボックスの四角を指定し、左マウスボタンから指を離したら、テキスト・ボックスのプロパティダイアログが表示されます。



ここではテキストを入力し、テキスト・タイプとフォントなどを変更することができます。

テキスト･タイプには、**タイトル、宛先、日付、コメントと署名**を選択することができます。日付は当日のもので,西暦で挿入されます。コメントはラベルや所見などの自由に入力できるテキストです。タイトル、宛先と署名の項目はテーブルから挿入できますが、テーブルは予め設定されている必要があります。テーブルからテキストを挿入したい場合は、**テーブルボタン**をクリックしデータを選択して **OK ボタン**をクリックして下さい。

テキスト・ボックスのプロパティを変更したら、**OK ボタン**をクリックしてください。

画像の貼り付け：

ステップ１：

画像を貼りつけるには、メニューで挿入のアイテムの画像を選択するか、ツールバーで**画像の挿入ボタン**を クリックします。

ステップ２：

左マウスボタンのドラッグで画像の四角を指定し、左マウスボタンから指を離したら、画像選択ダイアログが表示されます。
ここで画像のある場所を指定し、ファイルを選択します。

データベース画像の貼り付け：

メニューで表示のデータベース画像を選択すると、画像参照画面が表示されます。

この画面より任意の枠または、空白領域に画像をドラッグ＆ドロップすることで画像を貼り付けできます。

＊注意：
最初に患者の情報が選択されていないと、データベースの画像を開けないので、ご注意ください。

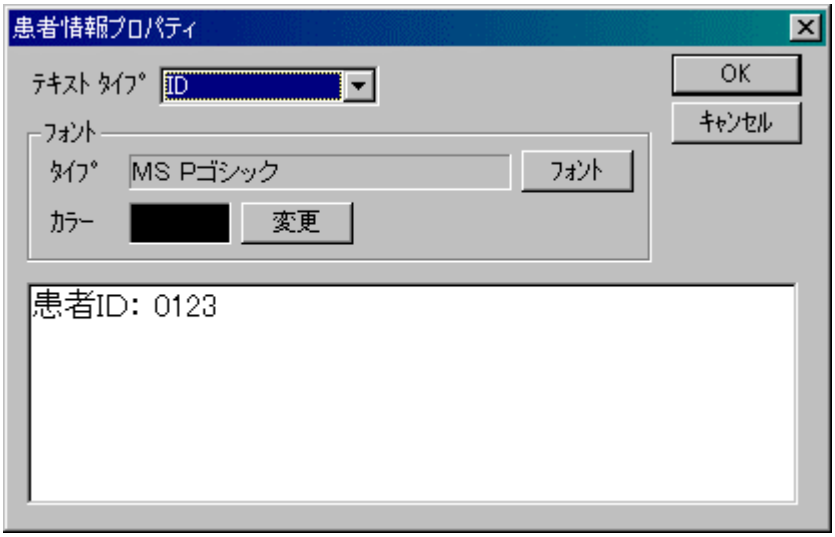
患者情報の貼り付け：

ステップ１：

患者情報を貼りつけるには、メニューで挿入のアイテムの患者情報を選択するか、ツールバーで**患者情報の挿入ボタン** をクリックします。

ステップ２：

左マウスボタンのドラッグで患者情報の四角を指定し、左マウスボタンから指を離したら、患者情報プロパティダイアログが表示されます。



ここでは、患者情報の選択・入力ができ、フォントやテキストの表示カラーも変更できます。テキストタイプには、**ID、患者名、患者名（カナ）、性別や治療状態など**があります。

それぞれの項目はデータベースから読み込んだものですので、最初に患者を選択する必要があります。

1-1-5. 貼りつけたアイテムの編集

画面に貼りつけたアイテムの配置や内容を変更することができます。
アイテムの編集・移動するには　この ボタンを選択の状態にしなければなりません。

アイテムの移動とサイズ変更：

アイテムをマウスクリックで選択し、移動やサイズ変更することができます。後から貼りつけたアイテムは前面になります。選択されたアイテムをドラッグし、移動やサイズ変更します。マウスドラッグ移動以外に、矢印キーで移動できます。

アイテム･プロパティの編集：

選択されたアイテムをダブルクリックするか、右クリックによるメニューでプロパティを選択すると、アイテムのプロパティを変更することができます。

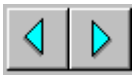
アイテムの削除：

選択されたアイテムは削除することができます。選択されたアイテムを削除するには、ツールバーで**アイテム削除ボタン**をクリックするか、右クリックによるメニューでアイテム削除を選択するか、キーボードの**「Delete」キー**を押してください。

1-1-6. ページ追加・削除・切り替え

ReportBuilder で複数ページの報告書を作成することができます。

＊新規ページを追加したい場合はメニューで挿入のページ追加を選択するか、ツールバーでの**ページ追加ボタン** クリックしてください。追加されたページは最後のページになります。

＊ページを切り替えたい場合は、ツールバーの**前ページと次ページボタン**  をクリックしてください。表示ページは 1 ページのみです。

＊ページを削除することもできます。削除したいページを現在表示ページにして、ツールバーの**ページ削除ボタン**を クリックしてください。

1-1-7. 報告書の拡大・縮小表示

報告書の表示を拡大したり、縮小したりすることができます。拡大・縮小表示したい場合は、メニューで表示のズームイン、ズームアウトを選択するか、ツールバーで**ズームイン、ズームアウトボタン**をク リックして下さい。

1-1-8. 報告書の保存と印刷

作成された報告書を保存したり、印刷することができます。

報告書データの保存：

報告書を保存する場合は、メニューでファイルの上書き保存や名前を付けて保存を選択するか、ツールバーで**報告書の保存ボタン**や**報告書ファイルの名前を付けて保存ボタン** をクリックしてください。すると、ファイル保存ダイアログが表示されるので、ファイル名を入力して保存ボタンをクリックして下さい。報告書ファイルの参照を容易にするため、報告書の保存場所は ReportBuilder プログラムで作成されたフォルダにするか、設定された一ヶ所のフォルダにすることをお勧めします。

報告書の印刷プレビューと印刷：

作成された報告書を全体のイメージで表示したい場合は、メニューでファイルの印刷プレビューを選択するか、ツールバーで**印刷プレビューボタン** をクリックしてください。すると、各ページのイメージを確認できます。

報告書を印刷したい場合は、メニューでファイルの印刷を選択するか、ツールバーで**印刷ボタン**、 または印刷プレビューでの**印刷ボタン**をクリックしてください。

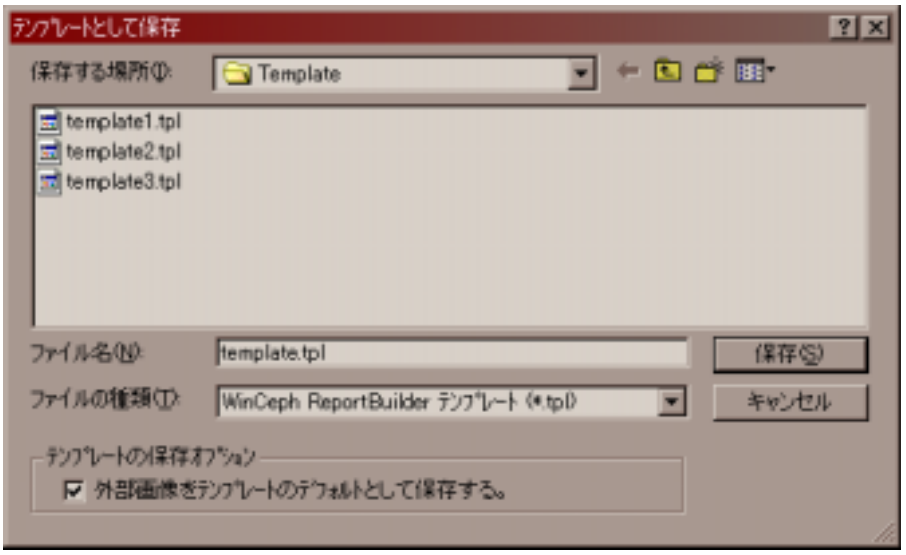
すると、印刷ダイアログが表示され、使用プリンターの選択、印刷ページ、部数や印刷時の画質などが設定できます。報告書に設定された用紙をプリンターにセットしてから**印刷ボタン**をクリックしてください。使用するプリンターがカラーであれば、報告書で使用しているカラーで印刷できます。

1-1-9. 報告書データでテンプレートとしての保存

ReportBuilder では作成された報告書データをテンプレートとして保存できます。保存されたテンプレートは、次に報告書を作成するとき、使用することができます。詳しくは１－２節を参照してください。

テンプレートとして保存する場合は、メニューでファイルのテンプレートとして保存を選択するか、ツールバーで**テンプレートとして保存ボタン** をクリックします。

すると、テンプレート保存ダイアログが表示されるので、ファイル名を指定し、保存オプションを設定して保存してください。



テンプレートの保存オプション：

＊外部画像をテンプレートのデフォルトとして保存する：チェックが付いている場合は、現在報告書に貼り付けている外部画像が次回にテンプレートから報告書を作成するときにデフォルト画像として使用されます。

＊注意：

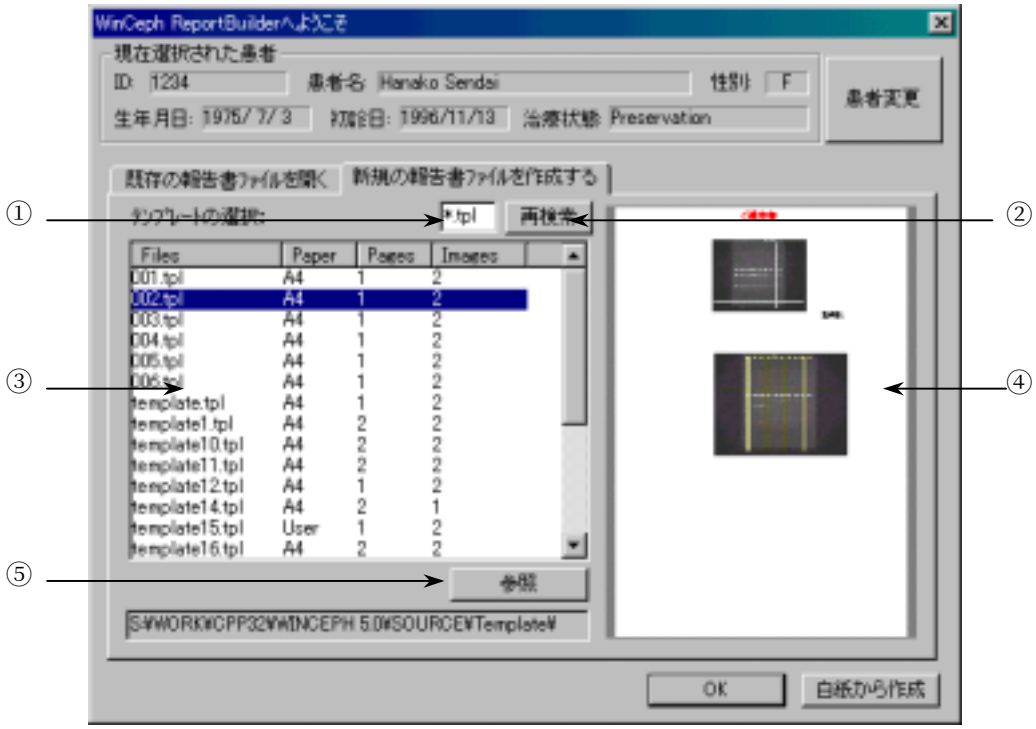
患者情報と患者の画像（データベース）はテンプレートには保存されません。テンプレートの保存場所は ReportBuilder で作成されたフォルダか、プログラムで設定されたフォルダの一ヶ所にすることをお勧めします。

1-2. テンプレートからの作成

ReportBuilder で作成された報告書をテンプレートとして保存でき、保存されたテンプレートから報告書を作成することができます。この場合も、患者情報が必要です。テンプレートに貼り付けた患者情報項目に、選択された患者情報がセットされます。

1-2-1. 起動時のテンプレート選択

ReportBuilder が起動されたとき、情報ダイアログが表示されます。ここで、テンプレートを選択することができ、テンプレート情報とイメージをプレビューすることもできます。



テンプレートの保存フォルダにあるテンプレートファイルが③のリストに表示されます。、別のフォルダのテンプレート・ファイルを参照したい場合、⑤の**参照ボタン**をクリックし、そのフォルダを指定してください。

もし、指定したフォルダでファイルが見つからなかったら、①の部分をファイル名と拡張子を指定し直し、②の**再検索ボタン**をクリックしてください。

リストに表示されたファイルを選択すると、④のプレビューに 1 ページ目の内容が表示されます。

テンプレート・ファイルを選択したら、**ＯＫボタン**をクリックすると、そのテンプレートが報告書作成に選択され、報告書作成画面になります。操作やアイテム貼り付けは１－１節を参照してください。

1-2-2. 報告書作成途中でのテンプレート変更

報告書を作成している途中でテンプレートを変更することができますが、作成しているデータが失われます。

テンプレートを変更する場合は、メニューで編集のテンプレート変更を選択するか、ツールバーでテンプレートボタンをクリックしてください。すると、テンプレートを開くダイアログが表示されます。新しいテンプレートを選択し開くボタンをクリックしてください。

2. 設定

ReportBuilder にはテーブル関連と保存フォルダの設定があります。設定を行う場合は、報告書作成画面で設定メニューの中の項目を選択します。

2-1. テーブル設定

ReportBuilder で使用しているテーブルは、報告書のタイトル、宛先と署名テーブルです。これらのテーブルを予め設定しておくと、使用時に便利になります。

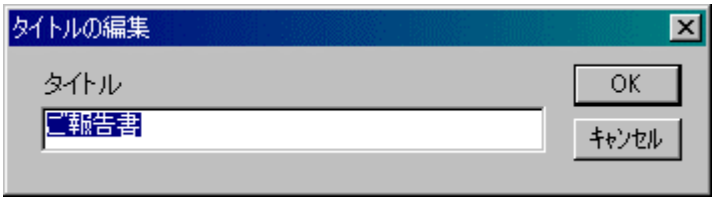
2-1-1. タイトル

報告書作成画面で設定メニューのテーブルのタイトル・テーブルを選択すると、タイトルテーブルのダイアログが表示され、タイトルを設定できます。

OK	リストの変更を保存し、ダイアログを閉じます。
キャンセル	リストの変更（追加・修正・削除）を保存せずにダイアログを閉じます。
追加	新規項目をリストに追加します。
修正	リストに表示された項目を修正します。
削除	リストから選択された項目を削除します。

追加：

追加ボタンをクリックすると項目のタイトルの編集ダイアログが表示されます。ここで入力フィールドに項目を入力し「OK」をクリックします。タイトル名は半角で 40 文字まで入力できます。「キャンセル」をクリックすると入力されたタイトル名はリストに登録されません



修正：

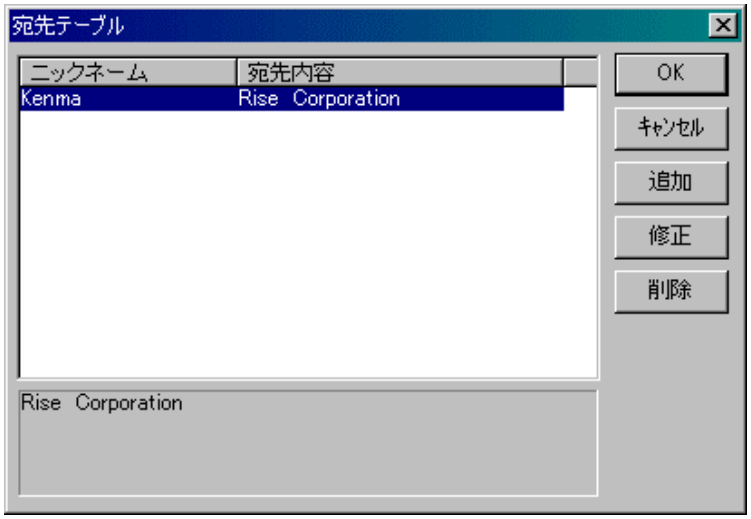
修正したい項目を選択し**修正ボタン**をクリックするか、または、ダブルクリックすると、タイトルの編集ダイアログが表示され、データを修正することができます。

削除：

削除したい項目を選択し、**削除ボタン**をクリックしてください。

2-1-2. 宛先

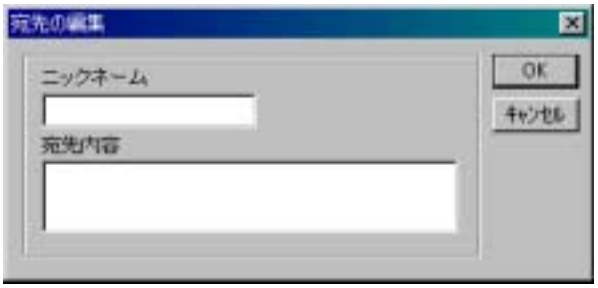
報告書作成画面で設定メニューのテーブルの宛先テーブルを選択すると、宛先テーブルのダイアログが表示され、宛先を設定できます。



OK	宛先リストの変更を保存し、ダイアログを閉じます。
キャンセル	宛先リストの変更（追加・修正・削除）を保存せずにダイアログを閉じます。
追加	新規項目をリストに追加します。
修正	宛先リストに表示された項目を修正します。
削除	宛先リストから選択された項目を削除します。

追加：

追加ボタンをクリックすると項目の宛先の編集ダイアログが表示されます。ここで 2 つの入力フィールド、”ニックネーム”と ”宛先内容”、それぞれを入力し「OK」をクリックすると、リストに追加します。



修正：

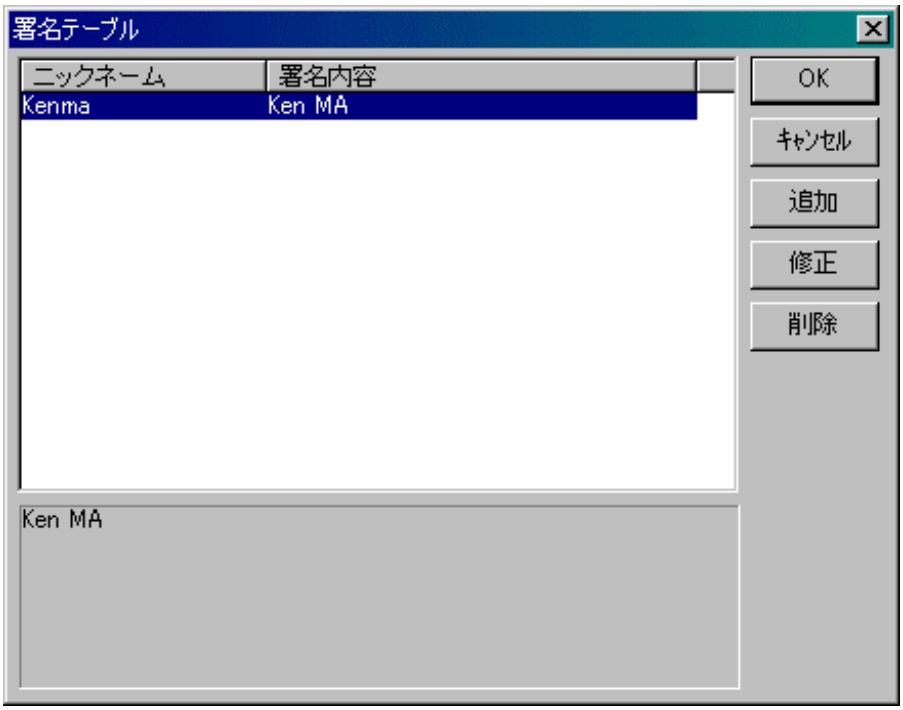
修正したい項目を選択し**修正ボタン**をクリックするか、または、ダブルクリックすると、宛先の編集ダイアログが表示され、データを修正することができます。

削除：

削除したい項目を選択し、**削除ボタン**をクリックしてください。

2-1-3. 署名

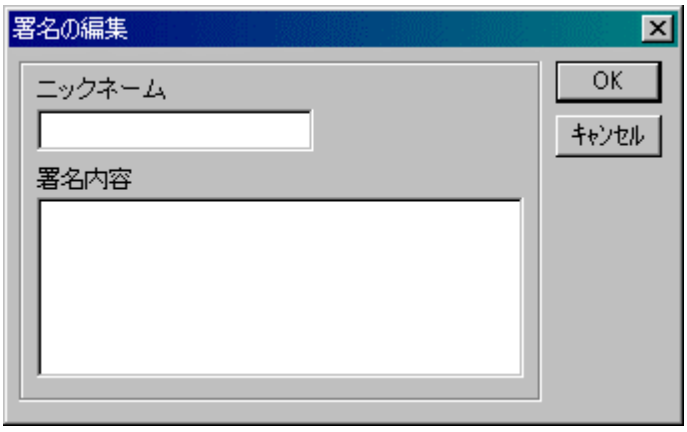
報告書作成画面で設定メニューのテーブルの署名テーブルを選択すると、署名テーブルのダイアログが表示され、署名を設定できます。



OK	署名リストの変更を保存し、ダイアログを閉じます。
キャンセル	署名リストの変更（追加・修正・削除）を保存せずにダイアログを閉じます。
追加	新規項目をリストに追加します。
修正	署名リストに表示された項目を修正します。
削除	署名リストから選択された項目を削除します。

追加：

追加ボタンをクリックすると項目の署名の編集ダイアログが表示されます。ここで 2 つの入力フィールド、”ニックネーム”と ”署名内容”、それぞれを入力し「OK」をクリックすると、リストに追加します。

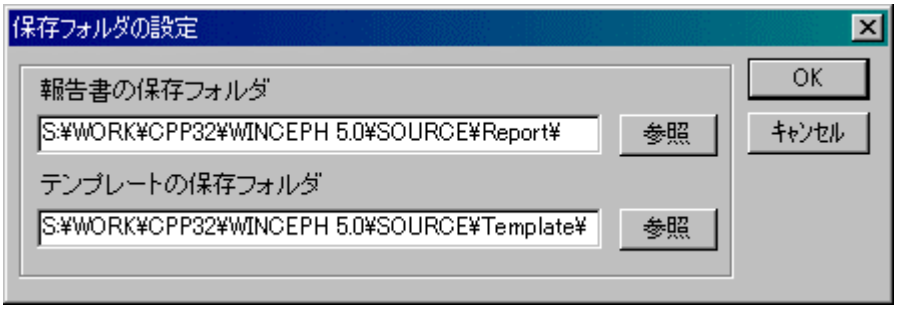


修正：
　修正したい項目を選択し**修正ボタン**をクリックするか、または、ダブルクリックすると、署名の編集ダイアログが表示され、データを修正することができます。

削除：
　削除したい項目を選択し、**削除ボタン**をクリックしてください。

2-2. 保存フォルダ

　ここでは、報告書データとテンプレートの保存フォルダの設定を説明します。
　報告書作成画面で、設定メニューの保存フォルダを選択すると、保存フォルダの設定ダイアログが表示されます。



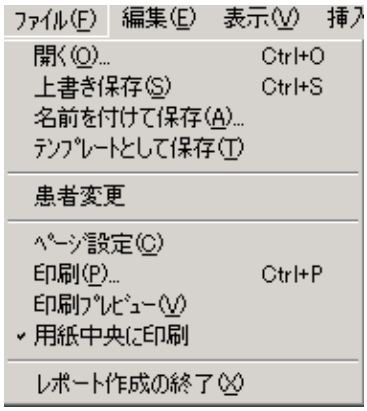
　各設定のデフォルトは、ReportBuilder で作成したそれぞれのフォルダとなっています。変更したいときは、直接入力するか、参照ボタンをクリックし、フォルダを選択してください。直接入力の場合は、入力されたフォルダが存在しなかったら自動的に作成されます。

3. メニュー・リファレンス

ここでは、ReportBuilder の使用しているメニューとツールバーを説明します。

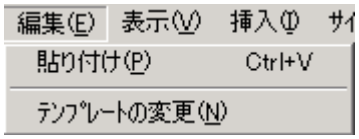
3-1. メニュー

3-1-1. ファイル



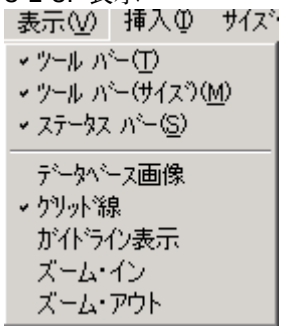
開く： 報告書のデータファイルを開きます。
上書き保存： 現在開かれている報告書ファイルに上書き保存します。
名前を付けて保存： 作業中の報告書データにファイル名を付けて保存します。
テンプレートとして保存： 作業中の報告書データをテンプレートとして保存します。
患者変更： 作業中の報告書の患者リンク情報を変更します。
ページ設定： 報告書の用紙を設定します。
印刷： 現在開かれている報告書を印刷します。
印刷プレビュー： 現在開かれている報告書のイメージをプレビューします。
用紙中央に印刷： 印刷時に用紙の中央に印刷します。
レポート作成の終了： ReportBuilder を終了します。

3-1-2. 編集



貼り付け： クリップボードの画像を貼り付けます。
テンプレートの変更： テンプレートを変更します。

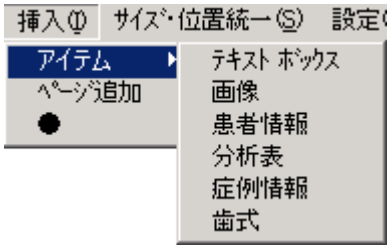
3-1-3. 表示



ツールバー： ツールバーの表示・非表示を切り替えます。
ツールバー（サイズ）： サイズ・位置統一用ツールバーの表示・非表示を切り替えます。
ステータスバー： ステータスバーの表示・非表示を切り替えます。

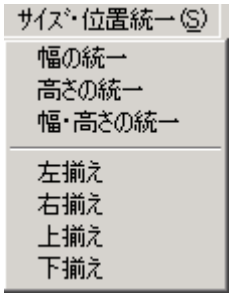
データベース画像：　　データベースに登録されている画像一覧を表示します。
グリッド線：　　グリッド線の表示・非表示を切り替えます。
ガイドライン表示：　　ガイドラインの表示・非表示を切り替えます。
ズーム・イン：　　画面を拡大表示します。
ズーム・アウト：　　画面を縮小表示します。

3-1-4. 挿入



アイテム：　　テキストボックス、画像、患者情報等を報告書に貼り付けます。
ページ追加：　　報告書に新規ページを追加します。
●：　　●（目隠し）を挿入します。

3-1-5. サイズ・位置統一

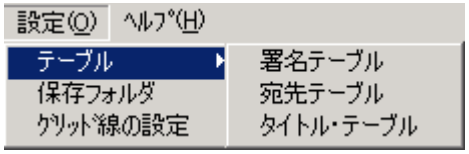


それぞれ、アイテムを複数選択している場合に■が四隅に付いているアイテム（その他の選択アイテムには□が付きます）に合わせてサイズ、位置を統一します。

アイテムを複数選択するには、●入力以外のモード時にマウスドラックで複数のアイテムを囲むか Ctrl キーを押しながらアイテムをクリックします。このときに最後に選択されたアイテムに■が付きます。

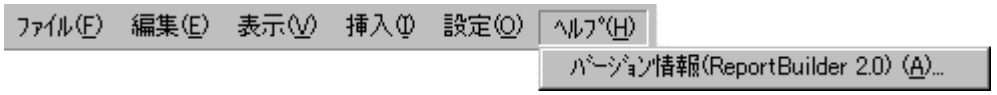
選択中のアイテムを Ctrl キーを押しながらクリックすると選択が解除されます。

3-1-6. 設定



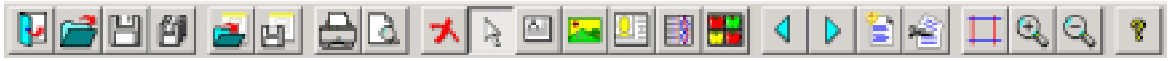
テーブル：　　署名、宛先、タイトルのテーブルを設定します。
保存フォルダ：　　報告書、テンプレートの保存フォルダを設定します。
グリッド線の設定：　　グリッド線の幅を指定します。

3-1-7. ヘルプ



ReportBuilder 2.0 バージョン情報と著作会社を表示します。

3-2. ツールバー

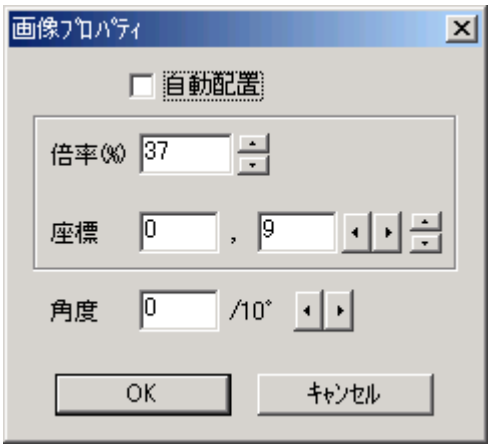


１－ReportBuilder を終了します。
２－報告書ファイルを開きます。
３－報告書を上書き保存します。
４－報告書にファイル名を付けて保存します。
５－テンプレートを変更します。
６－報告書データをテンプレートとして保存します。
７－報告書を印刷します。
８－報告書を印刷プレビューします。
９－アイテムを削除します。
１０－アイテムを選択し、移動・サイズ変更します。
１１－テキストボックスを貼り付けます。
１２－外部画像を貼り付けます。
１３－患者情報を貼り付けます。
１４－分析表を貼り付けます。
１５－登録画像一覧を表示します。
１６－報告書の表示ページを前ページに切り替えます。
１７－報告書の表示ページを次ページに切り替えます。
１８－報告書に新規ページを追加します。
１９－報告書のページを削除します。
２０－ガイドラインの表示・非表示を切り替えます。
２１－画面を拡大表示します。
２２－画面を縮小表示します。
２３－ReportBuilder 2.0 のバージョンを表示します。

サイズ・位置統一用ツールバー

１－左揃え
２－右揃え
３－上揃え
４－下揃え
５－幅の統一
６－高さの統一
７－幅・高さの統一

3-3. 画像サイズ・オフセット位置の調整

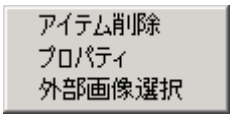


貼り付けた画像をダブルクリックすると、画像プロパティを表示します。
ここで画像の大きさ、位置、角度の指定が行えます。

また、貼り付けた画像を Shift キーを押しながらドラッグすることで
オフセット位置の調整が行えます。

3-4. アイテム情報

選択アイテムを右クリックすると、以下のメニューが表示されます。



アイテム削除 …… 選択アイテムを削除します。
プロパティ …… 選択アイテムの情報を表示・編集します。
外部画像選択 …… 選択アイテムが画像アイテムの場合のみ有効になります。
外部画像参照画面が表示されるので任意の画像を選択してください。

＊ご注意：

1. 本書の内容の一部、又は全部を無断転載することは禁止されています。
2. 当プログラム、及び本書の内容については、機能改善の為予告無しに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたらご連絡ください。
4. Windows は、Microsoft 社の登録商標です。
5. 会社名及び製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
6. 当プログラムの使用に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。
7. UNLHA32.DLL は Micco 氏のフリーソフトウェアです。

開発元　**ライズ株式会社**
〒983-0852
宮城県仙台市宮城野区榴岡 3-9-15
Tel: 022-295-7321　Fax: 022-295-7328
URL:http://www.risecorp.co.jp/

サポート依頼書

ライズ株式会社 行き　　Fax：022-295-7328

製品名　　：***WinCeph***
Version No.　：**7.5**
御登録施設名　：
御担当者名　：
Tel　　：
Fax　　：
E-mail　　：

トラブル内容

（トラブルの内容、エラーメッセージ等を詳しくお書きください。）

このサポート依頼書はコピーしてお使いください。

E メールでのサポートも受け付けております。
上記内容と同様にご記入の上、以下のアドレスまでお送りください。

winceph@risecorp.co.jp